AV Controller

RDC-7.1

取扱説明書

目次

導入

設置と接続編

操作編

セットアップメニュー編

リモコン編

その他

主な特長

■ よりピュアなサウンド再現のため、映像回路および入出力端子をオプションボードに配置。クラスを超えたクオリティでリアリティあふれるマルチチャンネルサウンドを再生する「スロットボード」方式を採用

■ 世界のシアター基準「THX（ティーエイチエックス）」最高規格「THX Ultra2（ウルトラ ツー）」認定（THXサラウンドEXデコーダー搭載）

■ プロ向けレコーディング機器メーカーとしても定評のあるAPOGEE（アポジー）社製ロー・ジッター・クロック・システム

■ 極めて豊潤なサウンド再生を可能にするWolfson（ウォルフソン）社製 192kHz/24bit オーディオDAC & ボリューム

■ Texas（テキサス） Instruments（インスツルメンツ）社製 高速32bit DSPチップ 2基搭載

■ ドルビープロロジックIIx、DTS-ES、MPEG-2（エムペグ ツー） AAC（エーエーシー）をはじめマルチチャンネルフォーマットにフル対応

■ 小音量時でもS/N感に優れた再生が可能なリニア・オプティマム・ゲイン・ボリューム

■ 映像と音声の同期を調整するAVシンク機能（0-300msec/0.1msecステップで調整）

■ ドルビー・ヘッドホン対応

■ マルチチャンネル音声信号のデジタル伝送が可能なi.LINK（アイ リンク）（IEEE1394（アイトリプルイー））端子

■ パワーアンプの増設でマルチルーム再生やスピーカー2台/ch再生など多彩な環境を実現する2系統7.1チャンネルプリアウト端子

■ 長いケーブル引き回しでも劣化を最小限に抑えるAES/EBU入力端子、8chバランス出力端子

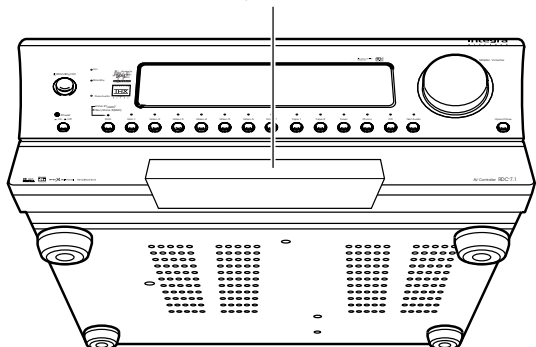
■ ホーム・オートメーション・システム・コントローラーに対応するRS232端子

■ 赤外線コントロールユニットと連動するIR端子

■ 対応機器間での電源連動を可能にする12Vトリガー端子

箱から取り出す際のご注意

- 本機はとても重いので、持ち運びには十分ご注意ください。また、本機前面のドア部に指をかけて持ち上げたり、動かしたりしないでください。ドア部を破損する恐れがあります。
- 本機前面のドア部は、工場出荷時にはテープで底面を固定してあります。ご使用になる前に、テープをはがしてください。

* テープのはり方は変更される場合があります。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、Pro Logic 、Surround EX、及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- THXおよびUltra2は、THX社の商標または登録商標です。Surround EXはドルビーラボラトリーズの登録商標です。
- HDMI 、HDMI ロゴ及びHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。"DTS"、"DTS 96/24"、"DTS -ES"、"NEO:6"は、デジタル・シアター・システムズ社の登録商標です。
- i.LINKロゴはソニー株式会社の商標です。
- Re-Equalization、Re-EQロゴは、THX社の商標です。
- Net-Tuneおよびネットチューンは、オンキヨー株式会社の商標です。
  Windows Media、Windowsロゴは、米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
  Intel、Pentiumは、米国インテル社の登録商標です。
  "Xiva"は、Imerge社の登録商標です。
- "Clocked by Apogee"はApogee Electronicsの登録商標です。

AAC パテントマーキング
Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

THX Ultra2
THX Ultra2の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Ultra2のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Ultra2の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Ultra2レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術（THXモード）を備えています。

本製品は拡張機能としてオプションボードを用意しています。オプションボードについては130ページをご覧ください。

安全にお使いいただくために

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対にカバーははずさない、改造しない

分解禁止

●本機のカバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
●本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。
●オプションボードを取り付けるときは、指定のサブパネル以外は外さないでください。

■ 100V以外の電圧で使用しない

●本機を使用できるのは日本国内のみです。
●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

●本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。
次の点に気をつけてご使用ください。
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での
使用禁止

●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ
禁止

●本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

●本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

■ 中に物を入れない

●本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセント
から抜いてください

●万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触
禁止

●雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

●乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

●強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
●本機の上に他のオーディオ機器を乗せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
●この機器は非常に重いので持ち運びは必ず二人以上で行ってください。けがや腰痛の原因となることがあります。
●本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

●本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
●本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

●電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

●旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
●移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

■ 電池について

●電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス−の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
●電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

●スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

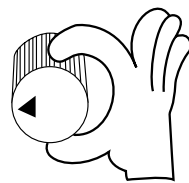
●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
●電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。
●アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
●屋外アンテナは送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

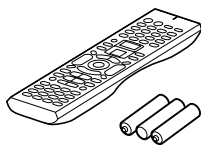
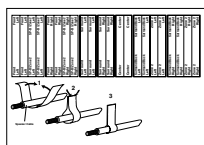
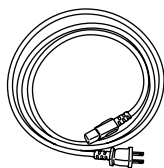
●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

ご使用の前に

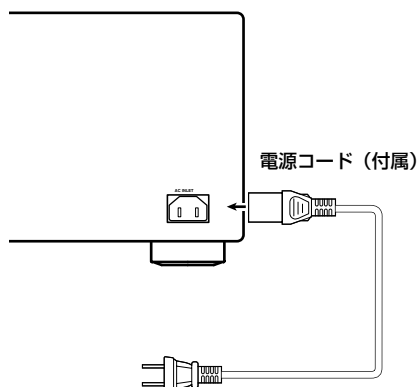
付属品を確認する

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。（ ）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-554M）…（1）
乾電池（単三形、R6）…（3）

スピーカーコード用ラベル…（1）

電源コード…（1）

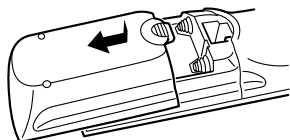
取扱説明書…（本書1）
お客様の設定メモ…（1）
保証書…（1）

電源コードを接続する

電源コードをAC INLETに接続します。

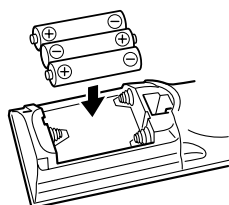
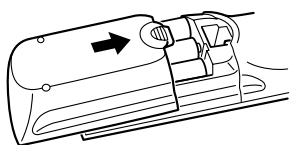
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。他の機器に使用しないでください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態でAC INLETから電源コードを抜くと、感電する恐れがあり危険です。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。

ここではまだ家庭用電源コンセントにはつながないでください。

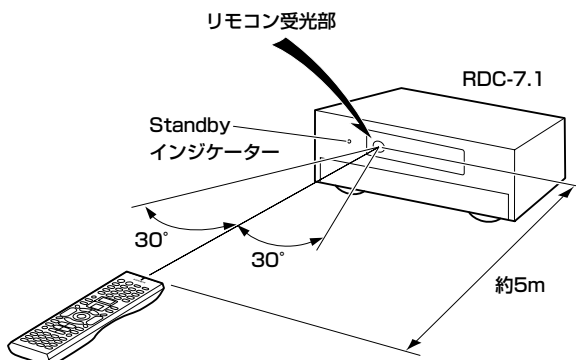
リモコンを準備する

1 カバーを矢印の方向にずらして開ける

2 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池3個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる

3 カバーを戻す

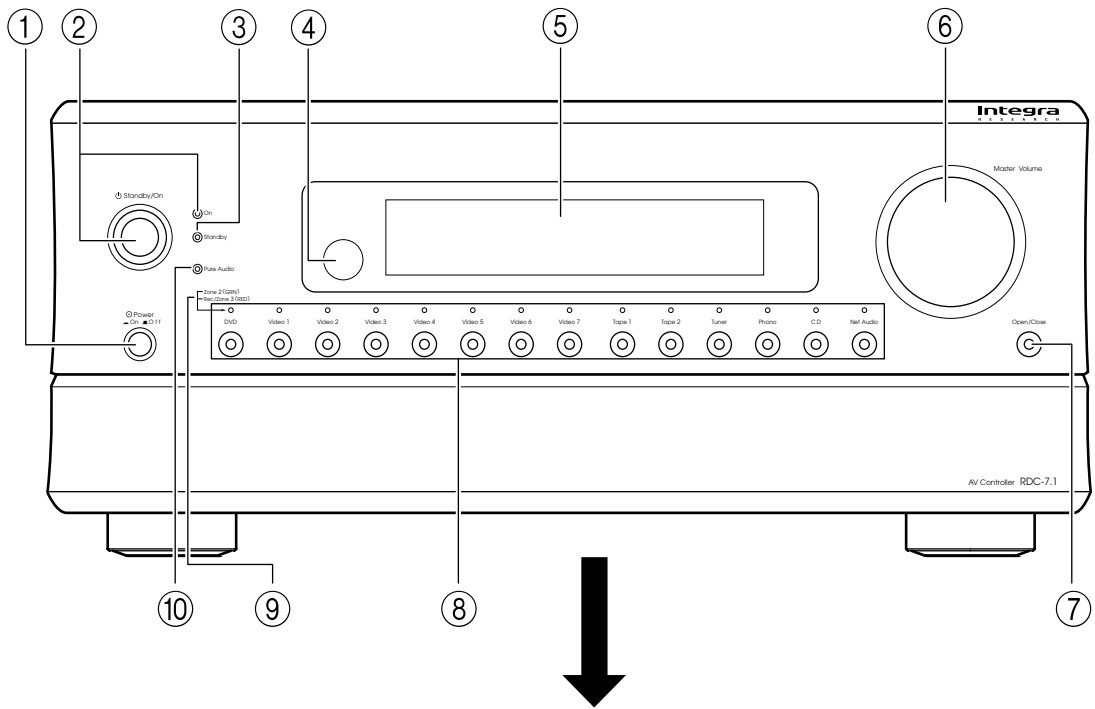
ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して3本とも新しい電池と交換してください。
- リモコンの表示部に「BATT」と表示されたときは、新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形（R6）をご使用ください。

リモコンを使う

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のStandby（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。
- 本機を操作する前に、Scroll（スクロール） Wheel（ホイール）を押してリモコンをAMPモードにしてください。

各部の名称と働き

前面パネル

ドア部

代表的な操作説明は〔　　〕内のページをご覧ください。

① **Powerスイッチ〔50〕**
本機の主電源のオン/オフを切り換えます。オンにするとStandbyインジケーターが点灯します。

② **Standby/OnボタンとOnインジケーター〔50〕**
主電源がオンになっているとき、電源のスタンバイ/オンを切り換えます。スタンバイ状態ではStandbyインジケーターが点灯し、電源を入れると表示窓とOnインジケーターが点灯し、Standbyインジケーターが消えます。スタンバイ状態では本機を操作できません。

③ **Standbyインジケーター〔50〕**
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

④ **リモコン受光部〔11〕**

⑤ **表示部**

⑥ **Master Volumeつまみ〔50〕**
メインルームの音量を調整します。別室（ゾーン2／ゾーン3）には働きません。

⑦ **Open/Close ボタン**
フロントパネル扉を開/閉するとき押します。

⑧ **入力切換ボタンとインジケーター（DVD、Video1～7、Tape1～2、Tuner、Phono、CD、Net Audio）〔50〕**
ソースを選びます。選択したボタンのまわりが青色に点灯します。別室（ゾーン2）のソースを選ぶには、Zone2ボタンを押してから入力切換ボタンを押します。また、別室（ゾーン3）もしくは録音用のソースを選ぶには、Rec/Zone3ボタンを押してから入力切換ボタンを押します。

⑨ **Zone 2（GRN）およびRec/Zone 3（RED）インジケーター〔66〕**
入力切換ボタンの上のインジケーターが緑色に点灯しているときは、その入力がゾーン2に出力されています。赤く点灯しているときは、その入力が録音出力もしくはゾーン3に出力されています。どちらも同じソースを選んでいるときはオレンジ色になります。

⑩ **Pure Audioインジケーター〔59〕**
リスニングモードが「ピュアオーディオ」のとき、点灯します。

ドア部のボタン

ご注意

本機のドア部は電動開閉式です。開閉は必ずOpen/Closeボタンで行ってください。手で無理に開閉しようとしたり、ドア部を持って製品を移動させたりしないでください。故障の原因となります。

⑪ **Zone 2ボタン〔66〕**
押すとゾーン2設定モードになります。
ゾーン2のスタンバイオン/オフや入力ソース設定、リスニングモード、音量、音声信号、表示内容などを設定するには、最初にこのボタンを押します。

⑫ **Rec/Zone 3ボタン〔66、68〕**
録音・録画する時とゾーン3で使用する時に使います。
録音・録画ソースを選ぶには、Rec/Zone 3ボタンを押してから、3秒以内に入力切換ボタンを押します。選択したボタンのインジケーターが赤色に点灯します。現在のソースから録音・録画するときは、Rec/Zone 3ボタンを続けて2回押します。

ご注意

ゾーン3出力と録音・録画出力は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。

⑬ **Offボタン〔67〕**
Rec/Zone 3ボタンやZone 2ボタンを押してからOffボタンを押します。Rec/Zone 3やZone 2を使用しないときは、音質上オフにすることをおすすめします。

⑭ **Displayボタン〔54〕**
表示部の情報を切り換えます。ボタンを押すたびに入力信号に関する情報表示が切り換わります。

⑮ **◀ DSP ▶ボタン〔58〕**
現在のソースのリスニングモードを変更します。選べるリスニングモードは、ソースごとに異なります。
リスニングモードの種類については56ページをご覧ください。

⑯ **Dimmerボタン〔52〕**
表示部の明るさを4段階（普通/暗い/非常に暗い/音量のみの表示）に切り換えます。

⑰ **◀ Tuning ▶ボタン〔60〕**
このボタンは、チューナーのオプションボードをスロット[K]に挿入している時に有効となります。
放送局をチューニングして選びます。受信周波数は表示部に表示され、FMの場合は100kHz 単位、AMの場合は9kHz単位で変わります。放送局を受信すると、▶ TUNED ◀表示が点灯します。

⑱ **◀ Preset ▶ボタン〔61〕**
このボタンは、チューナーのオプションボードをスロット[K]に挿入している時に有効となります。
Memoryボタンで登録した放送局を選びます。

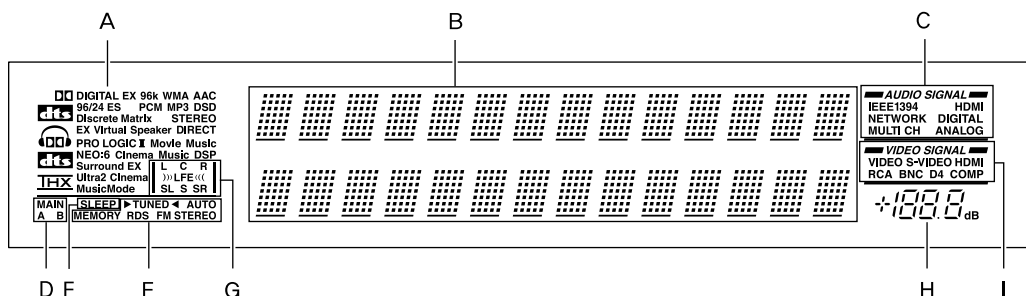
⑲ **Tuning Modeボタン〔60、61〕**
このボタンは、チューナーのオプションボードをスロット[K]に挿入している時に有効となります。
チューニングモードをオートまたはマニュアルから選択します。

⑳ **Memoryボタン〔61〕**
このボタンは、チューナーのオプションボードをスロット[K]に挿入している時に有効となります。
受信中の放送局をプリセットチャンネルに登録/削除するときに押します。

㉑ **Setup/▲/▼/Enter/◀/▶/Exitボタン〔82〕**
オンスクリーンディスプレイ（OSD）メニューを操作します。
Setup: セットアップメニューを表示します。
Exit: メイン画面で押すとOSDメニューを終了します。その他の画面では、ひとつ前の画面に戻ります。
▲/▼: 画面のカーソル（反転表示された項目）を上下に移動します。
◀/▶: ▲/▼ボタンで選択した項目の値やモードを選択します。
Enter: 選択している項目の画面を表示します。

㉒ **Phonesジャック〔52〕**
標準タイプのステレオヘッドホンを接続します。

各部の名称と働き

表示部

A リスニングモード/入力信号フォーマットモード表示
信号の種類およびリスニングモードを表示します。

B 多目的表示部
通常は入力ソースを表示します。入力がFMまたはAMのときは、受信周波数とプリセット番号を表示します。Display（ディスプレイ）ボタンを押すと、リスニングモードや入力されている信号のフォーマットを表示します。

C 音声入力信号パス表示
音声入力信号の発信元を表示します。

D MAIN（メイン） A/B表示
現在選択されている部屋を表示します。

E SLEEP（スリープ）表示
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

F チューニング表示

AUTO（オート）表示
FM放送をステレオ受信しているときに点灯します。モノラルモードでは消えます。

▶ TUNED（チューンド） ◀表示
放送局を受信したときに点灯します。

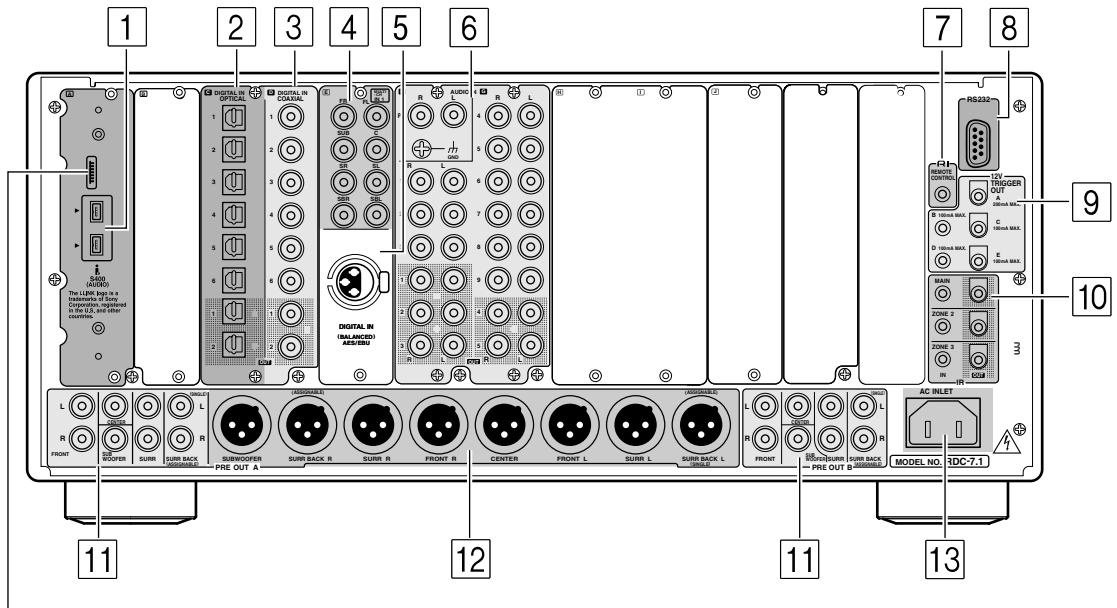
MEMORY（メモリー）表示
放送局をプリセット登録するとき、Memoryボタンを押すと点灯します。

FM STEREO（ステレオ）表示
FM放送をステレオ受信したとき点灯します。モノラルモードでは消えます。

G プログラムフォーマット表示
ドルビーデジタルやDTSなどの圧縮デジタル音声や、DVDビデオ、スーパーオーディオCDが入力されたときにソースに含まれるチャンネルが点灯します。

H 音量表示
音量を表示します。

I 映像入力信号パス表示
映像入力信号の発信元を表示します。

後面パネル

この端子は将来のサービス対応のために設けています。他の端子に使用するケーブルの先端を差し込んだりしないでください。

1 （i）i.LINK S400（AUDIO）端子
i.LINK（AUDIO）対応機器と接続する端子です。S400（4ピン）対応の i.LINKケーブルを使って接続します。本機は、音声のみを伝送する規格に対応しています。

2 DIGITAL OPTICAL IN/OUT端子
デジタル音声の入出力端子。光デジタルケーブルを使ってデジタル機器を接続します。音質はCOAXIALとほぼ同じです。

3 DIGITAL COAXIAL IN/OUT端子
デジタル音声の入出力端子。同軸デジタルケーブルを使ってデジタル機器を接続します。音質はOPTICALとほぼ同じです。

4 MULTI-CH IN端子
マルチチャンネル出力のある機器を接続します。

5 DIGITAL IN（BALANCED）AES/EBU端子
XLRタイプのデジタル音声出力端子のあるDVDプレーヤーなどを接続することができます。

6 AUDIO IN/OUT端子
AV機器をオーディオ用ピンコードを使って接続します。レコードプレーヤーはPHジャックに接続します。PHジャックに加え、本機には9系統の入力端子と5系統の出力端子があります。

7 RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きインテグラリサーチ／オンキヨー製品と接続し、連動させる端子。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

8 RS232コネクター
外部のコントロール機器から本機をコントロールすることができます。

9 12V TRIGGER OUT端子
12V TRIGGER IN端子のある機器と接続する端子。200mAまでの端子が1つ、100mAまでの端子が4つあります。

10 IR IN/OUT端子
別室からリモコン操作したいときや本機をラックに入れたときに、リモコンセンサーを外部に取り付ける端子です。メインルーム、ゾーン2、ゾーン3それぞれに接続できます。（この接続にはマルチルームシステム用キットが必要です。）

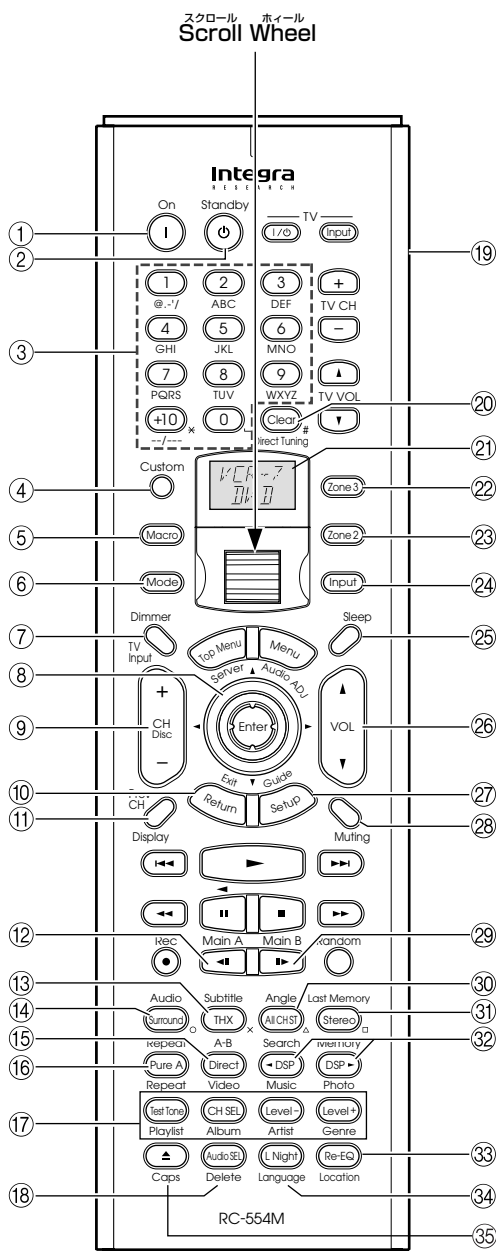
11 PRE OUT A/B（RCAタイプ）
パワーアンプを接続します。パワーアンプの端子がRCAタイプのときにこの端子を使用します。A、Bともに左右フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーファー端子を備えています。

12 PRE OUT A（XLRタイプ）
パワーアンプを接続します。パワーアンプの端子がXLR（バランス）タイプのときにこの端子を使用します。

13 AC INLET
付属の電源コードを接続します。

各部の名称と働き

リモコン（AMPモード）

本機のリモコンは、本機だけでなく他のAV機器を操作することもできますが、ここでは本機を操作するときのさまざまなモードについて説明します。ネットチューンモードで操作するときは72ページ、RI接続をしたインテグラリサーチ／オンキヨー機器や他メーカー製のテレビ、ビデオ、AV機器などを操作するときは116〜119、122、123ページをご覧ください。

本機を操作する前に、Scroll Wheelを押してリモコンをAMPモードにしてください。

ご注意

Modeボタンも Inputボタンも点灯していないときにScroll Wheelを回すと、入力ソースとリモコンモードが同時に切り換わります。

① **Onボタン**
本機の電源を入れます。

② **Standbyボタン**
本機をスタンバイ状態にします。

③ **文字、数字ボタン**
曲番などを選択したり、文字を選んだりします。

④ **Customボタン**
リモコンに関する設定をします。

⑤ **Macroボタン**
リモコンマクロ機能の実行に使用します。

⑥ **Modeボタン**
リモコンモードを選択します。本機を操作するにはScroll Wheelを押して「AMP」と表示させます。

⑦ **Dimmerボタン**
表示部の明るさを切り換えます。

⑧ **▲/▼/◀/▶/Enterボタン**
メニュー操作時、上下左右に押して項目を選択します。中央のEnterボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑨ **CH/Disc +/−ボタン**
プリセット局を選びます。

⑩ **Returnボタン**
メニュー操作時に押すと、1つ前の画面に戻ります。

⑪ **Displayボタン**
表示される情報を切り換えます。

⑫ **Main A ボタン**
このボタンを押すと、メインルームAで使用しているスピーカーから音を出すことができます。押すたびに有効/無効を切り換えます。

⑬ **THXボタン**
リスニングモードをTHXに切り換えます。

⑭ **Surroundボタン**
リスニングモードをドルビー、DTSに切り換えます。

⑮ **Directボタン**
リスニングモードをダイレクトに切り換えます。

⑯ **Pure Aボタン**
リスニングモードをピュアオーディオに切り換えます。

⑰ **Test Tone/CH SEL/Level−/Level＋ボタン**
スピーカーの音量レベルを個々に設定します。この操作はリモコンでのみ可能です。Level＋とLevel−ボタンは、ゾーン2／ゾーン3の音量設定にも使用します。

⑱ オーディオ セレクト Audio SELボタン
オーディオ入力信号の種類を選択するときに使用します。アナログ、デジタル、マルチチャンネル、または i.LINKのなかから選択できます。

⑲ ライト LIGHTボタン
リモコンボタンを点灯/消灯させます。

⑳ ダイレクト チューニング Direct Tuningボタン
周波数を数字ボタンで入力して受信するとき、このボタンを押してから数字ボタンを押します。

㉑ 表示部
上段は現在の入力ソースを表示します。下段は現在のリモコンコードを表示します。

㉒ ゾーン Zone 3ボタン
ゾーン3の入力ソースと音量を設定します。

㉓ ゾーン Zone 2ボタン
ゾーン2の入力ソースと音量を設定します。

㉔ インプット Inputボタン
入力ソースを選択します。このボタンを押してから、Scroll Wheelを回して入力ソース名を表示させます。

㉕ スリープ Sleepボタン
スリープ機能を働かせます。リモコンのみの操作です。

㉖ ボリューム VOL ▲/▼ボタン
音量を調整します。

㉗ セットアップ Setupボタン
テレビと表示部にメニュー項目を表示します。

㉘ ミューティング Mutingボタン
音を一時的に小さくします。リモコンのみの操作です。

㉙ Main Bボタン
このボタンを押すと、メインルームBで使用しているスピーカーから音を出すことができます。押すたびに有効/無効を切り換えます。

㉚ オールチャンネルステレオ All CH STボタン
リスニングモードをオールチャンネルステレオに切り換えます。

㉛ ステレオ Stereoボタン
リスニングモードをステレオに切り換えます。

㉜ ◀ DSP/DSP ▶ボタン
リスニングモードをインテグラリサーチ独自のリスニングモードから選びます。

㉝ リ・イーキュー Re-EQボタン
Re-EQのオン/オフを切り換えます。

㉞ レイトナイト L Nightボタン
小音量で楽しみたいときに、ダイナミックレンジを切り換えます。

㉟ ⏏ ボタン
ドア部を開閉することができます。

スピーカーを設置する

ホームシアターを楽しもう

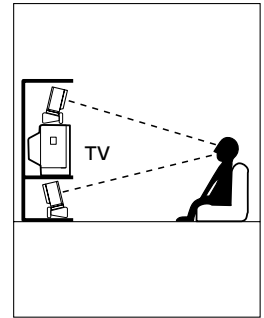
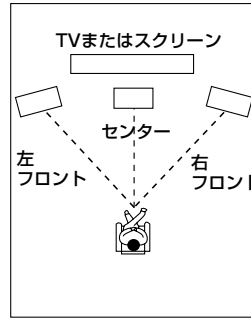
本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単にコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
DVDでは、ディスクの再生によりDTSやドルビーデジタル再生、THX再生、テレビやBSデジタル放送では、インテグラリサーチ独自のDSPサラウンド再生をお楽しみいただけます。

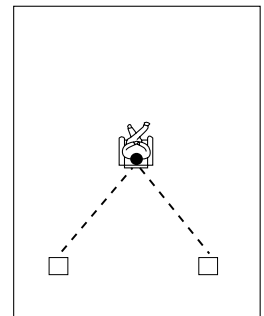
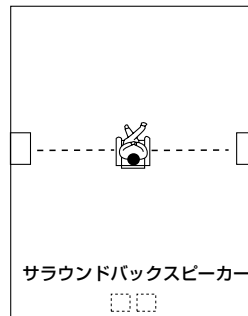
- **最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が届く時間を同じにするため視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、スピーカー環境の設定、距離の設定、スピーカーの音量レベル設定を行ってください。（☞83～86ページ）**

スピーカーを設置する

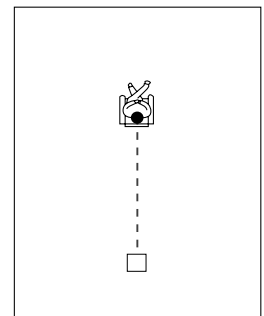
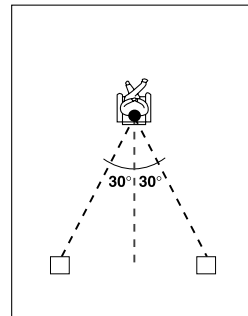
サラウンド再生では、とくにスピーカーの構成と配置が重要です。前ページと下記の説明をよくお読みください。
理想的な設置方法は、使用する部屋の広さや壁の状態によって異なります。
ここでは典型的な例で説明しています。

左右フロントスピーカーとセンタースピーカー

- 左右のフロントスピーカーは、視聴位置から同じ距離で左右対称に設置してください。
- 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。
- 3つのスピーカーは、同じ高さに設置してください。耳の高さが理想です。センタースピーカーをテレビの上か下に設置する場合は、視聴者の耳に向くように少し角度をつけて設置してください。
- センタースピーカーは、なるべく画面の近くで、左右フロントスピーカーの中央に配置します。テレビの近くに置く場合は、防磁型のスピーカーを使用してください。
- センタースピーカーを使用しない場合は、左右のフロントスピーカーは、少し狭く配置してください。

左右サラウンドスピーカー

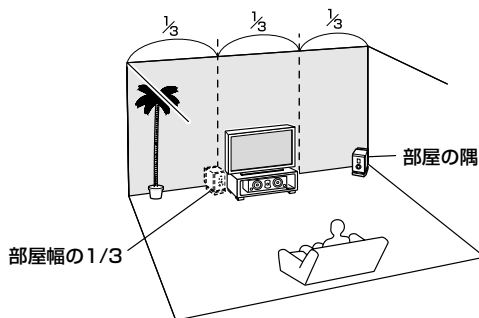
- 視聴位置の横または後ろ斜めに配置します。
- 視聴位置の後方に、同じ距離で左右対称に設置してください。
- 映画を楽しむ場合は、視聴者の耳の位置より1m程度高く設置してください。サラウンド感が出やすくなります。
- 音楽を楽しむ場合は、フロントスピーカーと同じくらいの高さに置いたほうがよい場合があります。
- サラウンドバックスピーカーを設置する場合は、やや前方に置いたほうが、音の移動感がスムーズに感じられます。

サラウンドバックスピーカー

- 視聴者の耳の位置より少なくとも1m高く設定してください。
- 1本の場合は、視聴位置の後方に設置します。
- 2本の場合は、視聴者と各スピーカーの角度が30°になるように、視聴者の後部に配置してください。

※THX推奨スピーカーを設置する場合は、次のページの「THXオーディオに適したスピーカー配置」もあわせてご覧ください。

スピーカーを設置する

サブウーファー

サブウーファーを設置すると、低音部の音量と音質が大きく向上します。サブウーファーの働きは、視聴位置だけでなく、部屋の形状にも影響されます。

- 一般的には、部屋の隅または部屋幅の1/3の位置に設置します。
- 高品質の低音部が記録された映画/音楽ソースを再生してください。設置場所を決める前に、サブウーファーの効果を試しながら位置を変えてみて、最も低音部がよく聞こえる場所に設置してください。
- より重低音を充実させるために、サブウーファーを2本設置することもできます。

THXオーディオに適したスピーカー配置

THX CinemaやTHX Surround EXの技術には、THX社独自のTHXスピーカーシステムのご利用をお勧めします。また、THX Ultra2規格のスピーカーは、THX Ultra2 Cinema、THX Music Modeに最適なスピーカーシステムです。

左の設置例イラストは、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、お互いに逆相の同じ音を2つの方向に出す、双指向性スピーカーのことです。

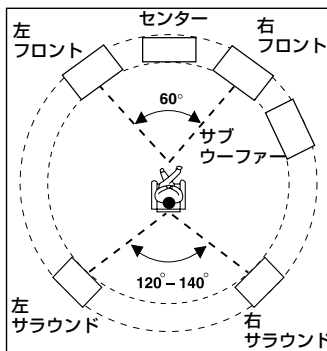
ダイポール型スピーカーでは位相*を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように設置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように設置してください。

*位相： 正弦波の1周期（0～360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、＋、－の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

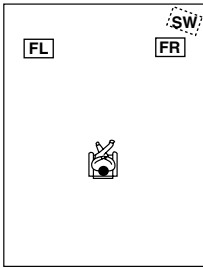
1 テレビまたはスクリーン
2 サブウーファー
3 左フロントスピーカー
4 センタースピーカー
5 右フロントスピーカー
6 左サラウンドスピーカー
7 右サラウンドスピーカー
8 左サラウンドバックスピーカー
9 右サラウンドバックスピーカー
10 視聴位置

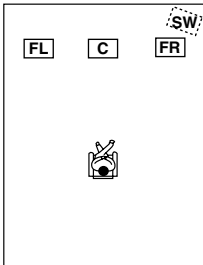
THX Ultra2規格のスピーカーで、THX Ultra2 Cinema、THX Music Modeを楽しむときは、サラウンドバックスピーカーはできるだけ近づけて配置します。スピーカーを設置したら、86ページの「THX Audio Setup」の設定を行います。

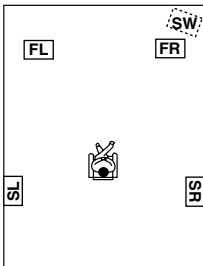
DVDオーディオなどの音楽ソフトに適したスピーカー配置

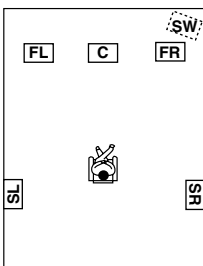
ITU-R（国際電気通信連合の無線通信部門）の勧告に基づく配置法です。同じ性能の5本のスピーカー（左右フロント、センター、左右サラウンド）を視聴位置から等距離、かつ同じ高さに配置します。DVDオーディオのマルチチャンネルソースのミキシング・スタジオでは基本的にこの配置法を採用しています。

スピーカーの数に合わせた配置例

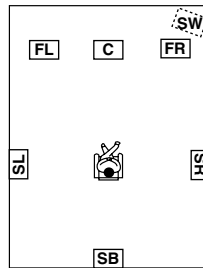
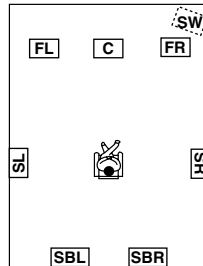
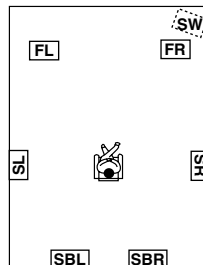
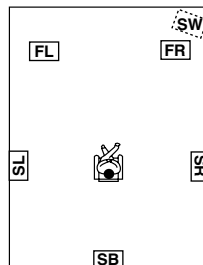
スピーカーの数に応じて、下記のようにいろいろな設定が可能です。
「X.1ch」とは、サブウーファーを接続した場合の表記です。
※ FL、FRなどのアルファベットの意味は次の通りです。
FL：左フロント、**FR**： 右フロント、**C**：センター、**SL**：左サラウンド、**SW**：サブウーファー、
SR：右サラウンド、**SBL**：左サラウンドバック、**SBR**：右サラウンドバック

2ch/2.1ch

左右2本のスピーカーで再生する時の配置です。
アナログ2ch、リニアPCMの2ch演奏、ドルビーデジタル、DTS、DTS96/24、AACなどの2chソースの再生に適していますが、3.1ch以上のソースの場合も、各チャンネルの音声を左右スピーカーに振り分けて再生します。

3ch/3.1ch

左右2本のスピーカーにセンターを追加した時の配置です。
4.1ch以上のソースの場合、サラウンド、サラウンドバックの音声は左右フロントスピーカーから出力されます。

4ch/4.1ch

5.1ch以上のソースの場合、センターの音声は左右フロントスピーカーから出力され、サラウンドバックの音声はサラウンドスピーカーから出力されます。

5ch/5.1ch

アナログマルチチャンネルやドルビーデジタル、DTS、AACなどの5.1chソースの再生に適しています。
ソースが2chやモノラルの場合は、ドルビープロロジックIIやDTS Neo:6でデコードして5.1チャンネル再生を行います。
6.1ch以上のソースの場合は、サラウンドバックの音声を左右サラウンドスピーカーに振り分けて再生します。

6ch/6.1ch/7ch/7.1ch〔センターあり〕

DTS-ES Matrix/Discrete、ドルビーサラウンドEXなどの6.1chソースの再生に適しています。
サラウンドバックはモノラル音声ですので2本の場合は同じ音声が出力されます。ソースが2chやモノラルの場合は、ドルビープロロジックIIxやDTS NEO:6でデコードし、6.1/7.1チャンネル再生を行います。

6ch/6.1ch/5ch/5.1ch〔センターなし〕

スピーカーをフルに置けないがセンターから出てくるセリフよりもサラウンドバックの音を重視したいときにこの配置にして5.1ch、6.1chソースを楽しむことができます。センターの音声は左右フロントスピーカーに振り分けて再生します。

スピーカーを設置する

本機で可能な接続例

本機は、7.1チャンネルのホームシアターを2系統組めるように、スピーカーシステム[A]と[B]を用意しています。
ホームシアター以外にも、この多くのチャンネルの一部を他の部屋（ゾーン2）に使用したり、同じ部屋に2系統のスピーカーシステムを置いてソースに合わせて使い分けるなど、多彩な配置、接続が可能です。
配置したスピーカーのそれぞれに、どこで使用するかの設定（Main A、Main Bなど）を行います。たとえば、Main Aと設定すると、リモコンでMain Aを選んだときにそこに設置したスピーカーで再生することができます。
下記の使用例を参考に、ご自身の部屋やスピーカーシステムに合った設置および設定を行ってください。イラスト右の画面は、それぞれの接続例に合った設定画面です。設定の方法や意味などについては82～84ページをご覧ください。

※ イラスト中のスピーカーの色は、白がスピーカーシステムA、灰色がスピーカーシステムBを表します。
※ FL、FRなどのアルファベットの意味は次の通りです。
FL：左フロント、**FR**： 右フロント、**C**：センター、**SL**：左サラウンド、**SW**：サブウーファー、
SR：右サラウンド、**SBL**：左サラウンドバック、**SBR**：右サラウンドバック

メインルームAのみで7.1chのスピーカー設定をする場合は、初期設定のままでご使用いただくことができます。

メインルームAで7.1ch、メインルームBでも7.1chのスピーカーシステムを組む場合

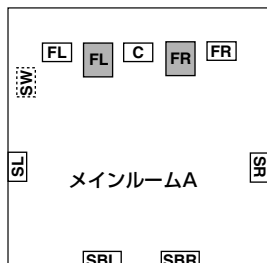
- スピーカーシステム[A]の設定はすべて「Main A」にします。
- スピーカーシステム[B]の設定はすべて「Main B」にします。
- リモコンのMain AボタンまたはMain Bボタンを押すと、その部屋のスピーカーで再生することができます。2つを同時に選ぶことはできません。
  ※ ただし、同じソースであれば、スピーカーシステム[B]の設定をすべて「Main A」にすることで、同時に再生することは可能です。

メインルームAに7.1chのスピーカーシステムを設置し、さらに同じ部屋にもう一系統フロントスピーカーを設置して、ソースによってスピーカーを使い分けたい場合

（映画はスピーカーシステム[A]で7.1サラウンド再生を、クラシック音楽はスピーカーシステム[B]につないでステレオ再生で楽しみたいなど）

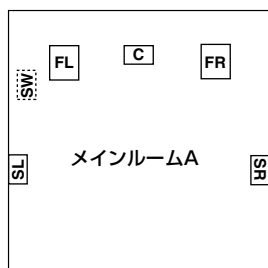
ここでの例は、リスニングモードがステレオの場合です。

- スピーカーシステム[A]の設定をすべて「Main A」にします。
- スピーカーシステム[B]のフロントスピーカーの設定も「Main A」にします。
- リスニングモードセットアップで、特定のソースについてスピーカーシステム[B]のフロントスピーカーを使用したい場合は、そのソースを選択してフロントスピーカーの設定を「B」にします。
  両方同時に使用したい場合は「A+B」を選ぶこともできます。
- 再生するにはリモコンのMain Aボタンを押します。

メインルームAに7.1chのスピーカーシステムを設置し、さらに同じ部屋にもう一系統バイアンプ接続でフロントスピーカーを設置、ソースによってスピーカーを使い分けたい場合

ここでの例は、リスニングモードがステレオの場合です。

- スピーカーシステム[A]の設定をすべて「Main A」にします。
- スピーカーシステム[B]のフロントスピーカーの設定を「Main A」、サラウンドバックスピーカーの設定を「Bi-Amp for Front」にします。（接続については、27ページを参照してください。）
- リスニングモードセットアップで、特定のソースについてスピーカーシステム[B]のフロントスピーカーを使用したい場合は、そのソースを選択してフロントスピーカーの設定を「B」にします。

※ バイアンプ接続をしている場合は、二つのスピーカーシステムを同時に使用することはできません。

メインルームAに5.1chのスピーカーシステムを設置し、フロントスピーカーをバイアンプ接続する場合

- スピーカーシステム[A]の設定で、サラウンドバックスピーカーの設定を「Bi-Amp for Front」にし、他はすべて「Main A」にします。（スピーカーの接続については、27ページを参照してください。）
- スピーカーシステム[B]の設定は「Not Used」にします。

※バイアンプ接続をしている場合は、サラウンドバックチャンネルをメインルームAのフロントスピーカー用に使用しているため、ゾーン2は設定できなくなります。

- 再生するにはリモコンのMain Aボタンを押します。

スピーカーを設置する

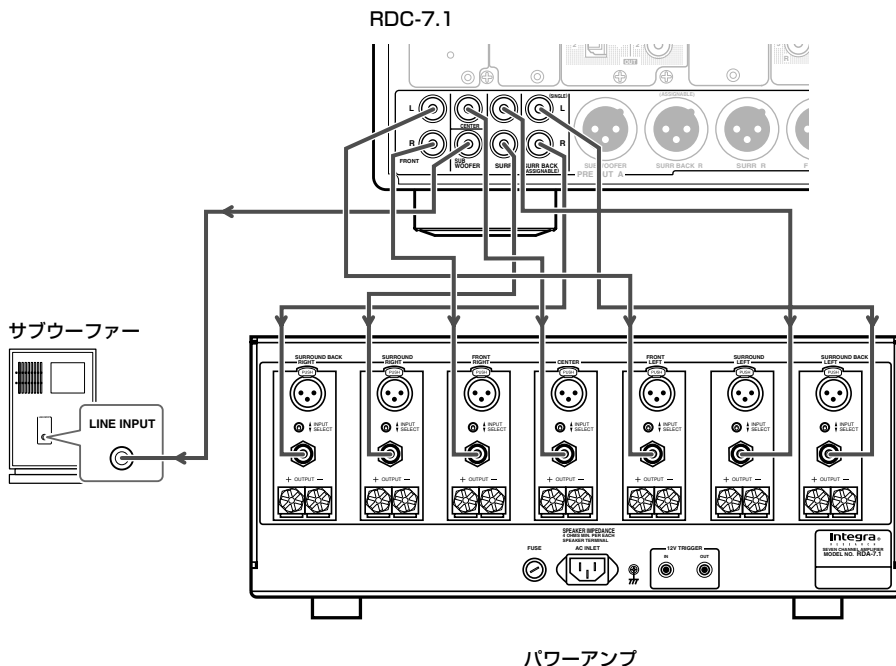
迫力と臨場感のあるサラウンドを楽しむために、メインルームAに7.1chのスピーカーシステムとスピーカーシステム[B]のサブウーファーとサラウンドスピーカーを設置し、メインルームBにはフロントスピーカーをバイアンプ接続して設置する場合

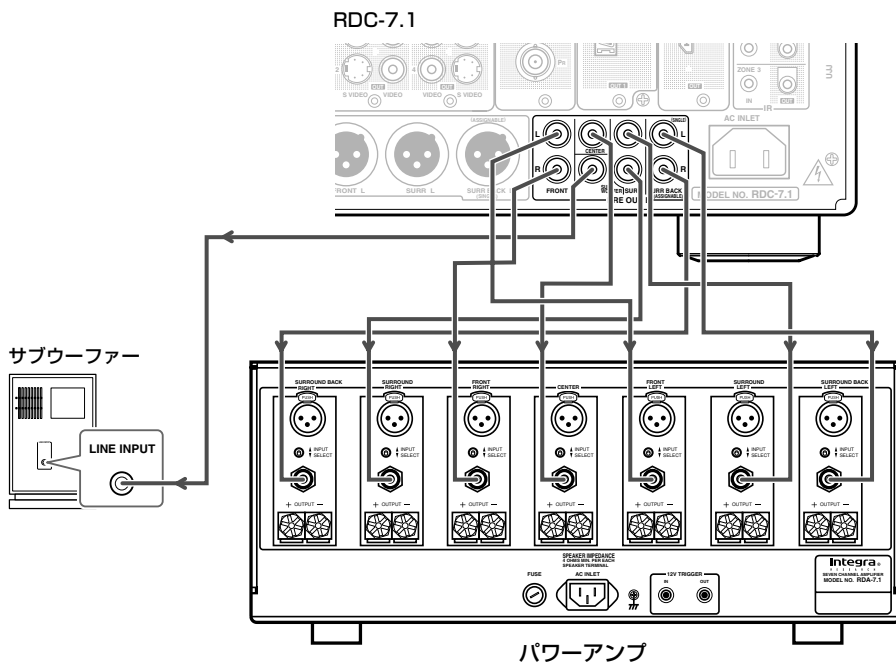
ここでの例は、リスニングモードがマルチチャンネルの場合です。

- スピーカーシステム[A]の設定をすべて「Main A」にし、スピーカーシステム[B]のサラウンドスピーカーとサブウーファーの設定も「Main A」にします。
- 次にスピーカーシステム[B]のフロントスピーカーの設定を「Main B」にし、サラウンドバックスピーカーの設定を「Bi-Amp for Front」にします。（スピーカーの接続については、27ページを参照してください。）
- 特定のソースについて、スピーカーシステム[B]のサラウンドスピーカーとサブウーファーを使用するには、リスニングモードセットアップでそのソースを選び、それぞれのスピーカーの設定を「B」（Bのみ）または「A+B」（AとB両方）にします。
  設定を「B」にすると、音声信号がスピーカーシステムBのサラウンドスピーカーとサブウーファーから出力されます。
  設定を「A+B」にすると、スピーカーシステムA、B両方のサラウンドスピーカーとサブウーファーから出力されます。

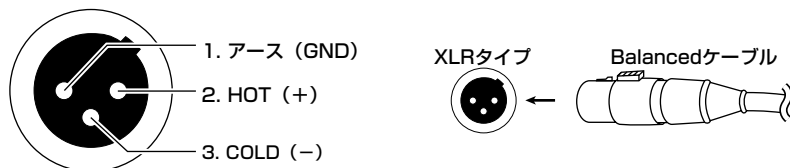
パワーアンプを接続する

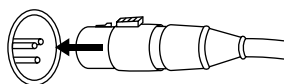
RCAタイプのパワーアンプを接続する

RCAタイプの入力端子を持つパワーアンプを接続します。A、B、2系統接続することができます。
PRE OUT A端子は、スピーカーシステム〔A〕で設定するモードが適用されます。

パワーアンプ

PRE OUT B端子は、スピーカーシステム〔B〕で設定するモードが適用されます。

パワーアンプ

XLRタイプのパワーアンプを接続する

XLR（平衡）タイプの入力端子を持つパワーアンプを接続します。1系統接続することができます。
本機のピン配列は、次のとおりです。（AES* 規格準拠）
＊ AES:Audio Engineering Society

接続時はパワーアンプの説明書を参照し、本機のピン配列に対応していることを確認してください。

1. **出力端子にケーブルを接続する**
   ピンの位置を合わせてカチッと音がするまで端子を差し込みます。ケーブルを軽く引っ張り、完全に接続されているかどうか確認してください。

2. **出力端子からケーブルをはずす**
   コネクターのボタンを押しながら、矢印の方向にケーブルを引っ張ります。

押す

Bi-Amp接続をする場合

(バイ-アンプ)

フロントスピーカーにバイワイヤリング対応のスピーカーを使用すれば、バイアンプ接続をすることができます。パワーアンプのフロントとサラウンドバックスピーカー端子をそれぞれ高域用と低域用に使用します。ハイクオリティな音質を得られるだけでなく、ツィーター（高音）・ウーファー（低音）のそれぞれの持つ特性を最大限に引き出すことができ、幅広い楽しみ方ができます。設定方法については、83、84ページをご覧ください。

ご注意

バイアンプ接続をする場合は、必ずスピーカーのハイレンジ、ローレンジを接続しているショートバーを外しておいてください。

1	右スピーカー⊕端子のツィーター側をパワーアンプのFRONT RIGHT⊕端子と接続し、右スピーカー⊕端子のウーファー側をパワーアンプのSURROUND BACK RIGHT⊕端子に接続する
2	右スピーカー⊖端子のツィーター側をパワーアンプのFRONT RIGHT⊖端子と接続し、右スピーカー⊖端子のウーファー側をパワーアンプのSURROUND BACK RIGHT⊖端子に接続する
3	左スピーカー⊕端子のツィーター側をパワーアンプのFRONT LEFT⊕端子と接続し、左スピーカー⊕端子のウーファー側をパワーアンプのSURROUND BACK LEFT⊕端子と接続する
4	左スピーカー⊖端子のツィーター側をパワーアンプのFRONT LEFT⊖端子と接続し、左スピーカー⊖端子のウーファー側をパワーアンプのSURROUND BACK LEFT⊖端子と接続する

AV機器を接続する

コード/端子の種類

本機には、従来の端子にくわえ、次世代のデジタル伝送にも対応するために、いろいろなボードを用意しています。挿入されているボードの特長や端子形状、機器の配置に合わせた長さのコードをご用意ください。

オーディオコード

コード名	コードの形状	端子の形状	解説
光デジタルケーブル		OPTICAL	ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声が得られます。音質はいずれも同じです。 ご注意 光ケーブルにはキャップがついている場合がありますので外して接続してください。また、端子の向きにご注意ください。本機ではシャッタータイプの光端子を用いていますので、ふたをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。
同軸デジタルケーブル		COAXIAL	
AES/EBUバランスケーブル		DIGITAL IN (BALANCED) AES/EBU	ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声が得られます。この端子は、プロ用機器によく見られます。デジタル伝送をするための専用ケーブルをご使用ください。
オーディオ用ピンコード		AUDIO R L	アナログ音声を伝送します。入力端子は赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネルに接続してください。
マルチチャンネル接続コード		MULTI-CH IN 1 FR FL SUB C SR SL SBR SBL	DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどにあります。アナログマルチチャンネル音声を伝送します。
S400対応4ピンi.LINK（リンク）ケーブル			i.LINK（AUDIO）対応機器と接続します。デジタル音声の転送ができます。DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのアナログマルチチャンネル音声もデジタルでやり取りができます。（本機は映像には対応していません。）
イーサネット（LAN）ケーブル (CAT-5 ストレートタイプ)		ETHERNET (Net-Tune)	家庭内や同じ建物など、比較的狭い範囲で複数のパソコンを接続することをLAN（Local（ローカル） Area（エリア） Network（ネットワーク））といいますが、これらを接続するケーブルのことをイーサネットケーブルと呼び、接続端子のことをLANポート、ブロードバンドポートなどと呼びます。

ETHERNET（イーサーネット）（Net-Tune（ネット チューン））端子やMULTI-CH IN（マルチ チャンネル イン）端子で接続した音声入力信号および、i.LINK端子から入力されたDVDオーディオやSACDの音声入力信号は、HDMI OUTへは出力されません。

別室（ゾーン2/ゾーン3）で再生や録音をするときは、下記のような制限事項や制約があります。
- i.LINK（AUDIO）端子で接続した音声入力信号は、ゾーン2やゾーン3へは出力されません。録音もできません。
- LAN端子で接続した音声入力信号は、アナログ音声（AUDIO OUT）へのみ出力されます。

- PH(フォノ)端子およびAUDIO(オーディオ) IN(イン)で接続した音声入力信号をゾーン3で聞くときは、アナログ音声（AUDIO OUT）へのみ出力されます。録音時も同様です。
- DIGITAL(デジタル) INで接続した音声入力信号をゾーン2で聞くときは、アナログ音声（AUDIO OUT）へは2チャンネルにダウンミックスして出力されます。
- DIGITAL INで接続した音声入力信号をゾーン3で聞くときは、アナログ音声（AUDIO OUT）へはPCM信号のみ出力されます。録音時も同様です。
- HDMI IN端子で接続した音声入力信号は、HDMI OUTのみに出力できます。
- MULTI-CH IN端子で接続した音声入力信号は、ゾーン2では2チャンネルにダウンミックスして出力されます。また、ゾーン3で聞くことや録音することはできません。

ビデオコード

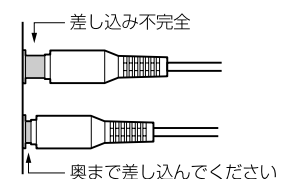
コード名	コードの形状	端子の形状	解説
コンポーネントビデオコード（RCAタイプ）	Y / PB / PR	Y / PB / PR	映像信号を3つの色差信号（Y、Pb/Cb、Pr/Cr）に分離して3本のケーブルで伝送するため、画質がSビデオより高品位となります。端子の形状によりBNCタイプとRCAタイプがあります。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
コンポーネントビデオコード（BNCタイプ）	Y / PB / PR	Y / PB / PR	
D端子コード		D4	画質はコンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
Sビデオコード		S VIDEO	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
ビデオコード（コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
HDMIケーブル		HDMI	映像信号および音声信号をデジタルで伝送します。（ただし本機では、スピーカー出力や他のPRE OUT端子へは音声信号は出力されません。）

ご注意

ゾーン2やゾーン3など別室でご覧いただく場合は、VIDEO(ビデオ)1～3端子にテレビやモニターを接続してください。

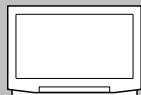
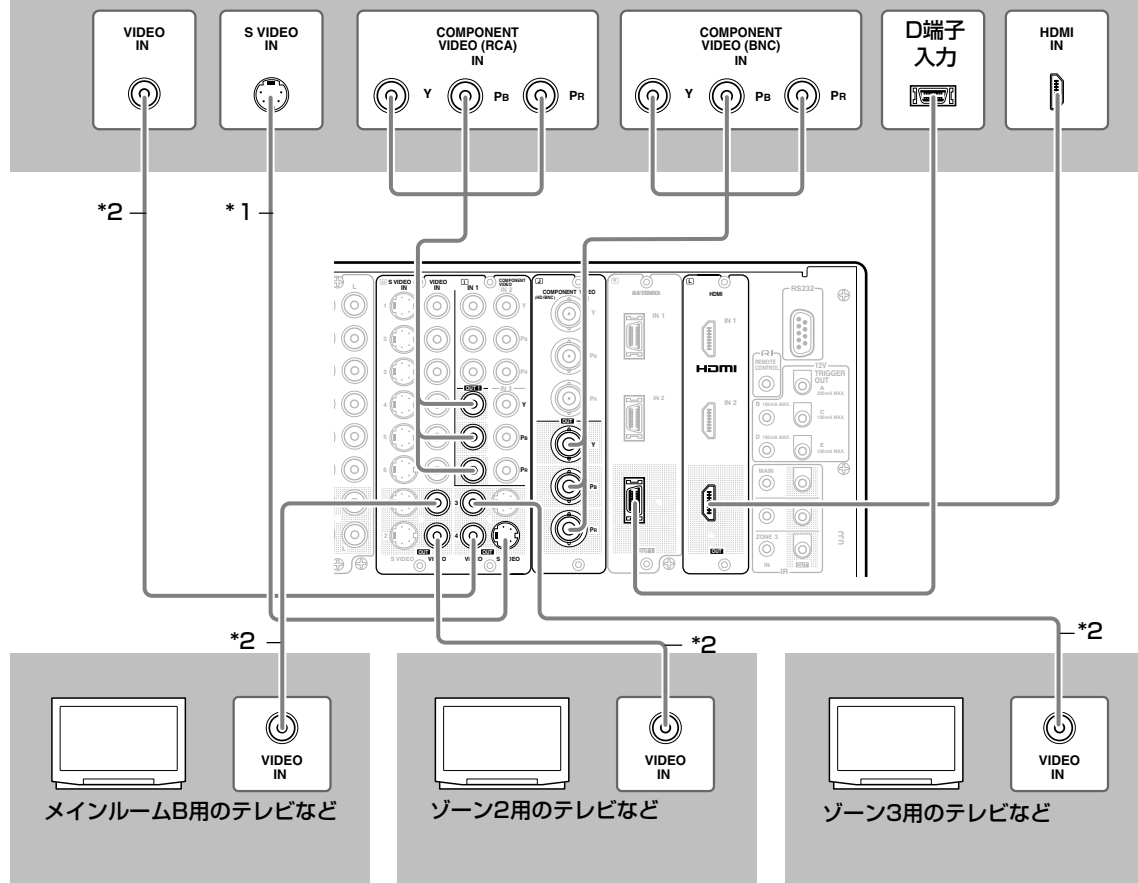
■ 接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。
- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

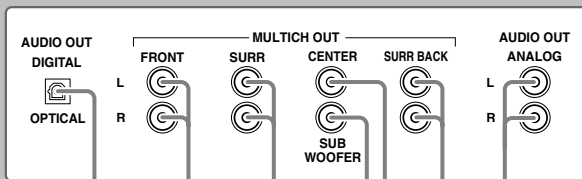
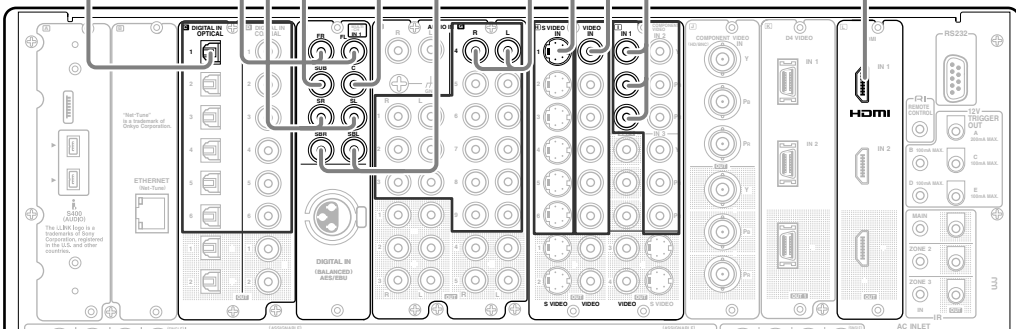
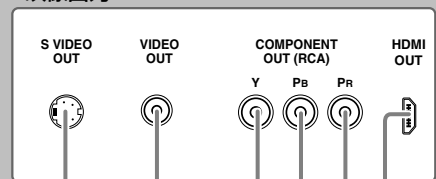
イラストはRCAタイプのピンコードの場合

AV機器を接続する

テレビやプロジェクターなどのモニターを接続する

- 映像や操作内容をテレビなどのモニターに映すための接続です。テレビやプロジェクターにどのような端子がついているかをまず確認し、28、29ページを参考に接続ケーブルをご用意ください。
- 本機はビデオコンバーターを搭載しています。テレビやプロジェクターに何種類もの入力端子がある場合は、最も良い画質の得られる端子を接続してください。再生機器と本機の接続が同じ接続方法でなくても映像を見ることができます。（ただし、HDMI端子がない場合については、COMPONENT（コンポーネント）端子およびD端子からの入力信号は、COMPONENT端子およびD端子のみへの出力となりますのでご注意ください。）
- VIDEO（ビデオ） OUT（アウト）4およびS VIDEO OUT4はメインルームA固定です。
- ゾーン2やゾーン3など別室でご覧いただく場合は、VIDEO1～3端子にテレビやモニターを接続してください。

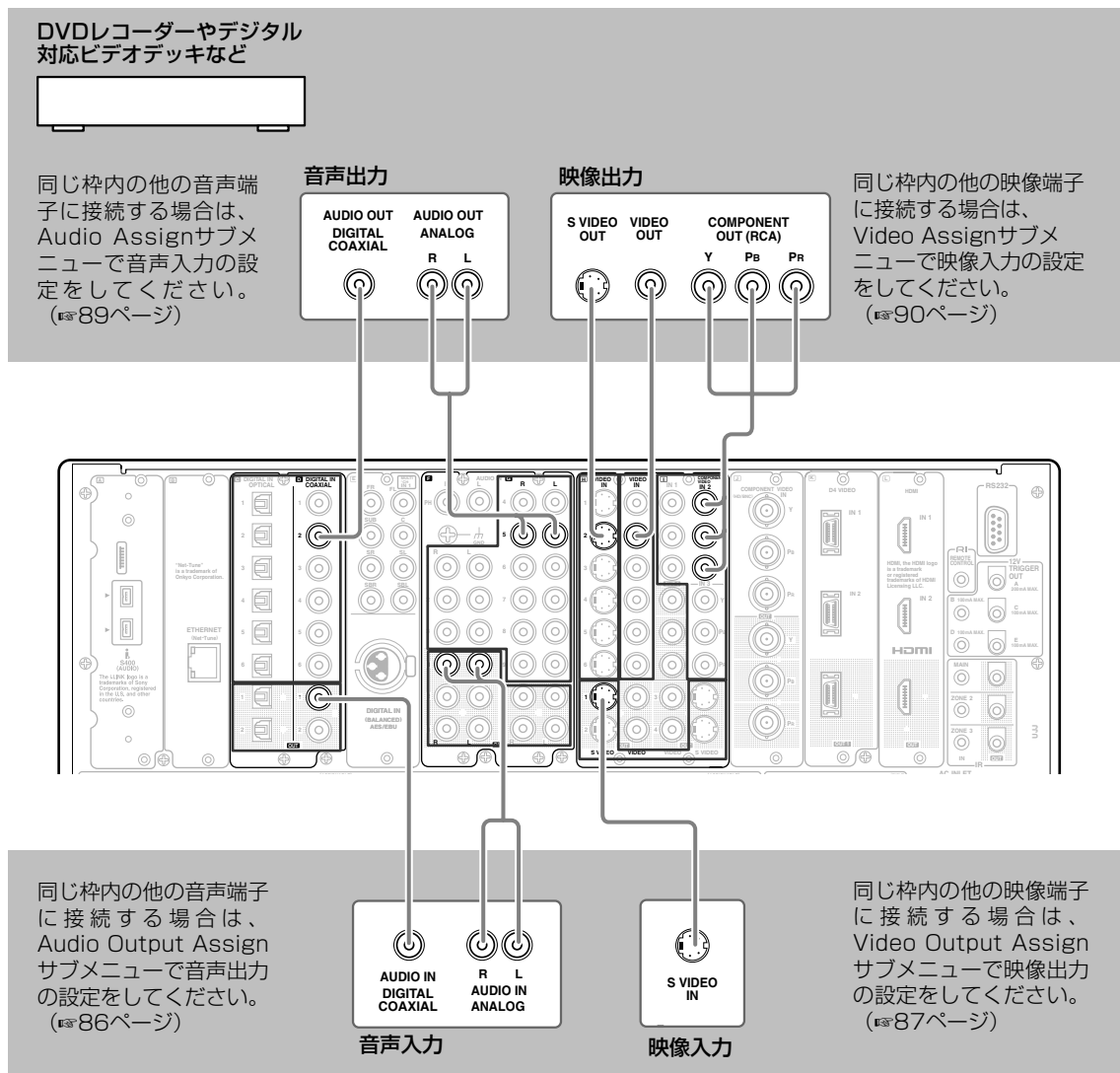
※ HDMIについては41ページの解説をご覧ください。

DVDプレーヤーを接続する（DVD）

- 映像信号と音声信号、アナログ、デジタルの端子がありますので、28、29ページの説明を参考に間違えないように接続してください。
- DVDの音声をアナログ録音する場合やオンキヨー製品で本機とRI連動させる場合は、アナログ音声の接続も行う必要があります。オーディオ用ピンコードでDVDプレーヤーの音声出力端子と本機のAUDIO IN端子を接続します。
- ここでは初期設定に合わせた接続を基本に記載していますが、同じ枠内の他の端子に接続することもできます。その場合は、Audio Assignサブメニューで音声入力の設定を、Video Assignサブメニューで映像入力の設定をしてください。
- HDMI端子がないモデルの場合、COMPONENT端子およびD端子でDVDプレーヤーを本機に接続したときは、テレビやプロジェクター側もCOMPONENT端子およびD端子で接続してください。

※ HDMIでの接続については41ページの解説をご覧ください。
※ i.LINKでの接続については38ページの解説をご覧ください。

DVDレコーダーやデジタル対応のビデオデッキを接続する（VIDEO 1）

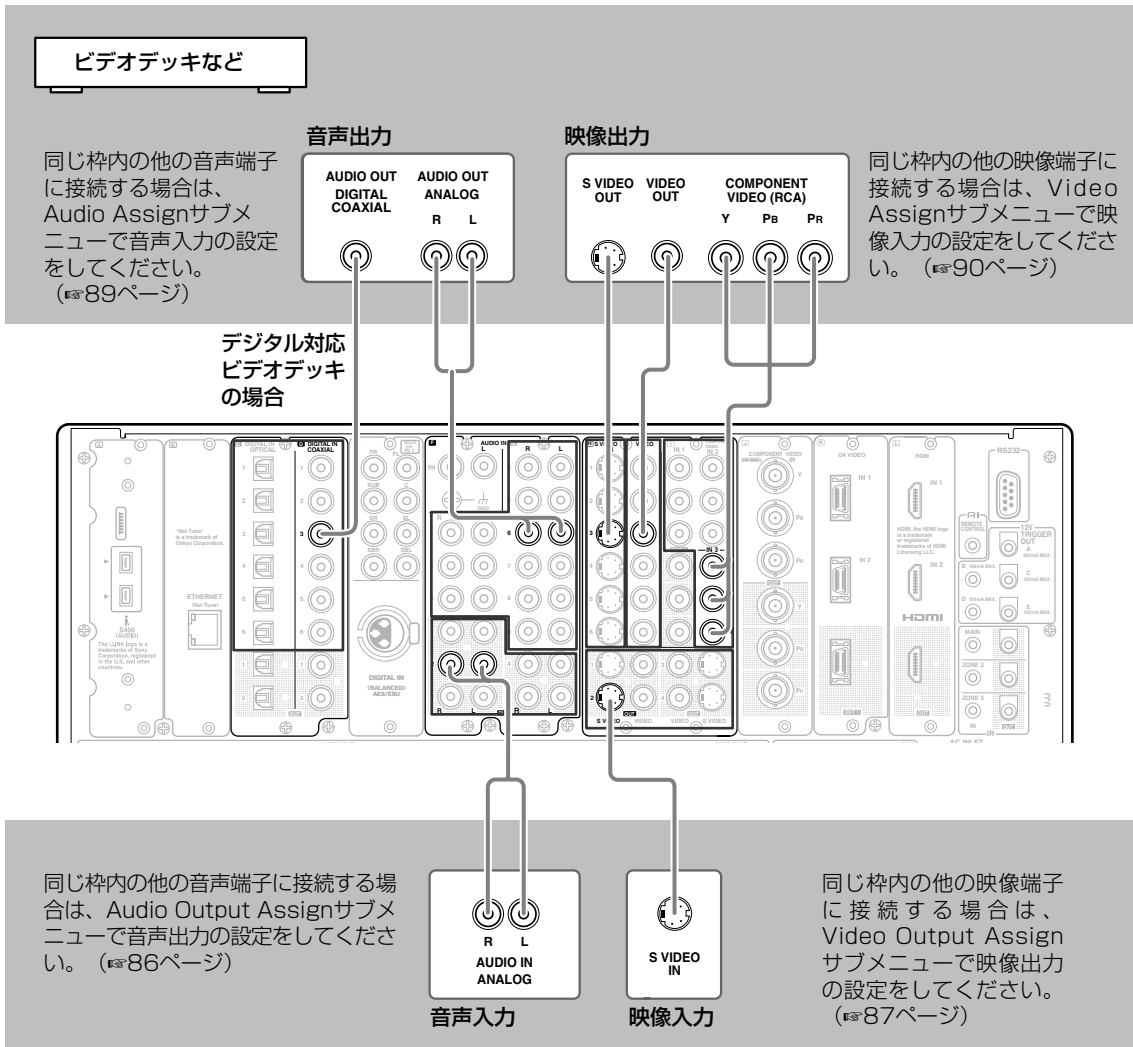
- DVDレコーダーやデジタル対応のビデオデッキの場合は、映像信号と音声信号、アナログ、デジタルの端子があります。28、29ページの説明を参考に間違えないように接続してください。
- ここでは、入力にVIDEO 1を使用すると想定した接続を記載しています。その場合は入力、出力の設定は必要ありません。同じ枠内の他の端子に接続する場合は、音声入力および映像入力の設定（Audio Assignサブメニュー、Video Assignサブメニュー：☞89、90ページ）や映像出力と音声出力の割り当て設定（Audio Output Assignサブメニュー、Video Output Assignサブメニュー：☞86、87ージ）をしてください。
- 接続した機器に合わせて入力名を変更することもできます。（☞92ページ）
- デジタル機器の音声をアナログ録音する場合は、アナログ音声の接続も行う必要があります。オーディオ用ピンコードでDVDプレーヤーの音声出力端子と本機のAUDIO IN端子を接続します。
- HDMI端子がないモデルの場合、COMPONENT端子およびD端子でビデオデッキやDVDレコーダーを本機に接続したときは、テレビやプロジェクター側もCOMPONENT端子およびD端子で接続してください。

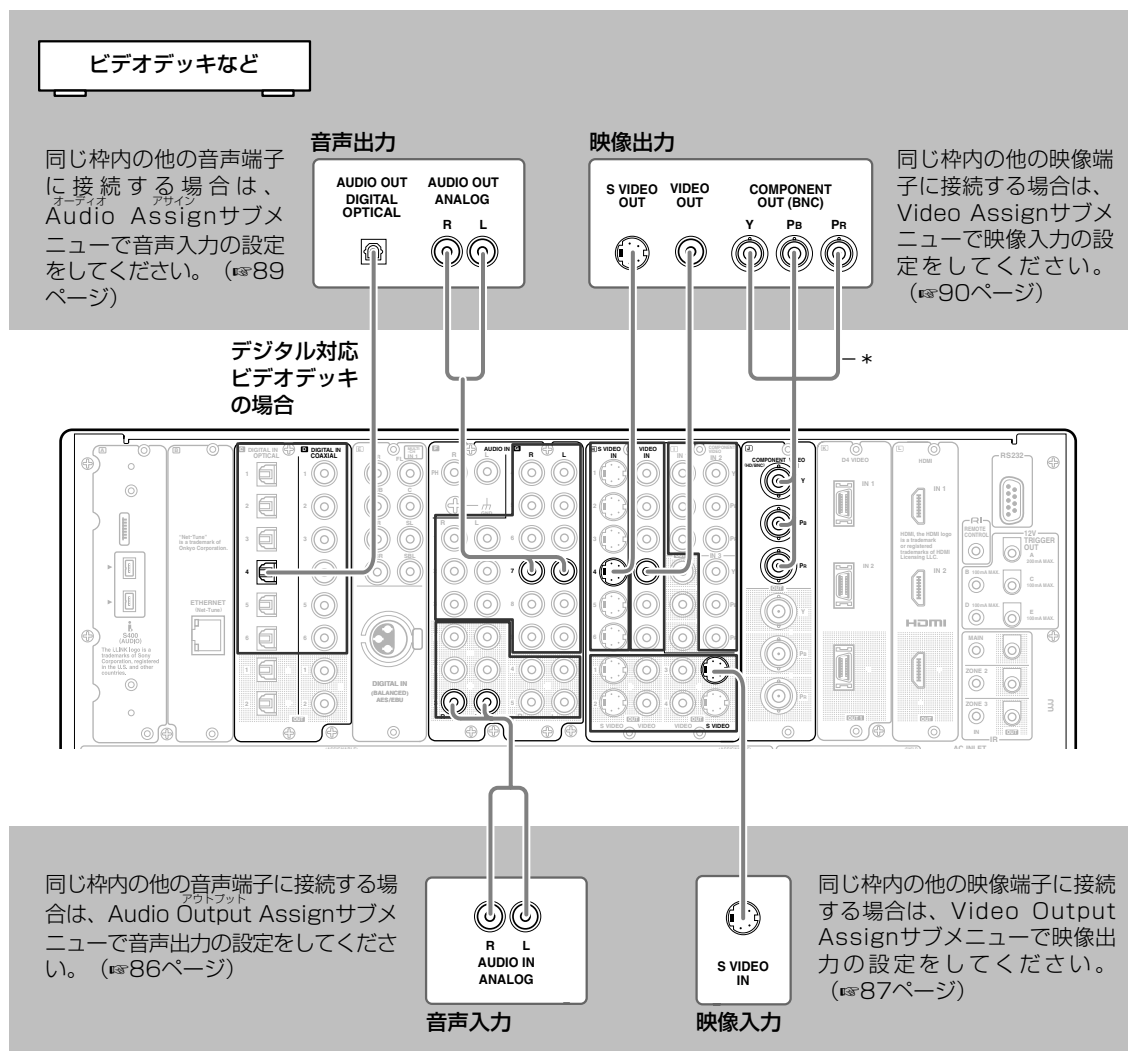
※ HDMIでの接続については41ページの解説をご覧ください。
※ i.LINKでの接続については38ページの解説をご覧ください。

入力がVIDEO 1の場合の接続

ビデオデッキを接続する（VIDEO 2/VIDEO 3）

- 映像信号と音声信号の端子があります。28、29ページの説明を参考に間違えないように接続してください。
- ここでは、入力にVIDEO 2または3を使用すると想定した接続を記載しています。その場合は入力、出力の設定は必要ありません。他の端子に接続する場合は、音声入力および映像入力の設定（Audio Assignサブメニュー、Video Assignサブメニュー：☞89、90ページ）および映像出力と音声出力の割り当て設定（Audio Output Assignサブメニュー、Video Output Assignサブメニュー：（☞86、87ページ）をしてください。
- 接続した機器に合わせて入力名を変更することもできます。（☞92ページ）
- HDMI端子がないモデルの場合、COMPONENT端子およびD端子でビデオデッキやDVDレコーダーを本機に接続したときは、テレビやプロジェクター側もCOMPONENT端子およびD端子で接続してください。

※ HDMIでの接続については41ページの解説をご覧ください。
※ i.LINKでの接続については38ページの解説をご覧ください。

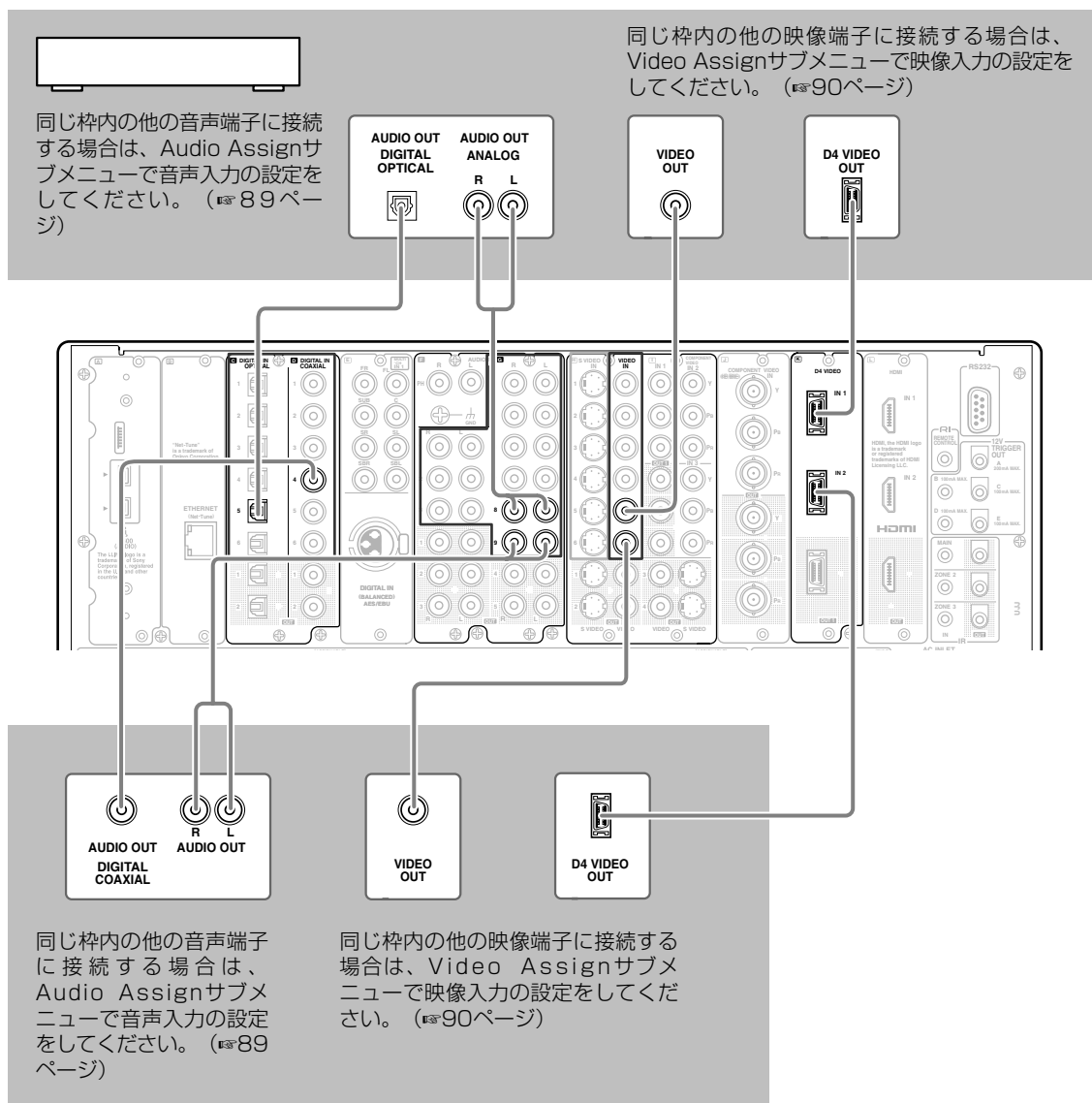
入力がVIDEO 2の場合の接続

AV機器を接続する

入力がVIDEO 3の場合の接続

* スロット[J]にRCAタイプのコンポーネント映像用のボードを挿入している場合はRCA 4端子に接続します。

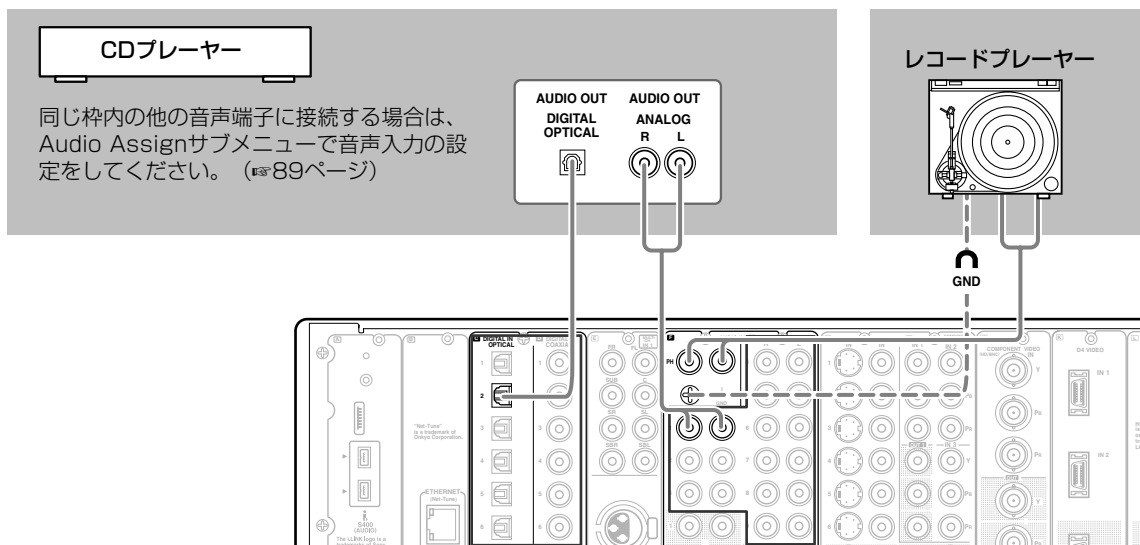
DBSチューナーやDBS内蔵テレビ、BS/CSチューナーなどを接続する

- 映像信号と音声信号、アナログ、デジタルの端子がありますので、28、29ページの説明を参考に間違えないように接続してください。
- ここでは、入力にVIDEO 4、5を使用すると想定した接続を記載しています。その場合は入力の設定は必要ありません。他の端子に接続する場合は、Audio Assignサブメニューで音声入力の設定を、Video Assignサブメニューで映像入力の設定をする必要があります。（☞89、90ページ）S映像端子で接続する場合も映像入力の設定をしてください。
- 接続した機器に合わせて入力名を変更することもできます。（☞92ページ参照）
- HDMI端子がないモデルの場合、COMPONENT端子およびD端子でBS/CSチューナー、LDプレーヤーを本機に接続したときは、テレビやプロジェクター側もCOMPONENT端子およびD端子で接続してください。

※ HDMIでの接続については41ページの解説をご覧ください。
※ i.LINKでの接続については38ページの解説をご覧ください。

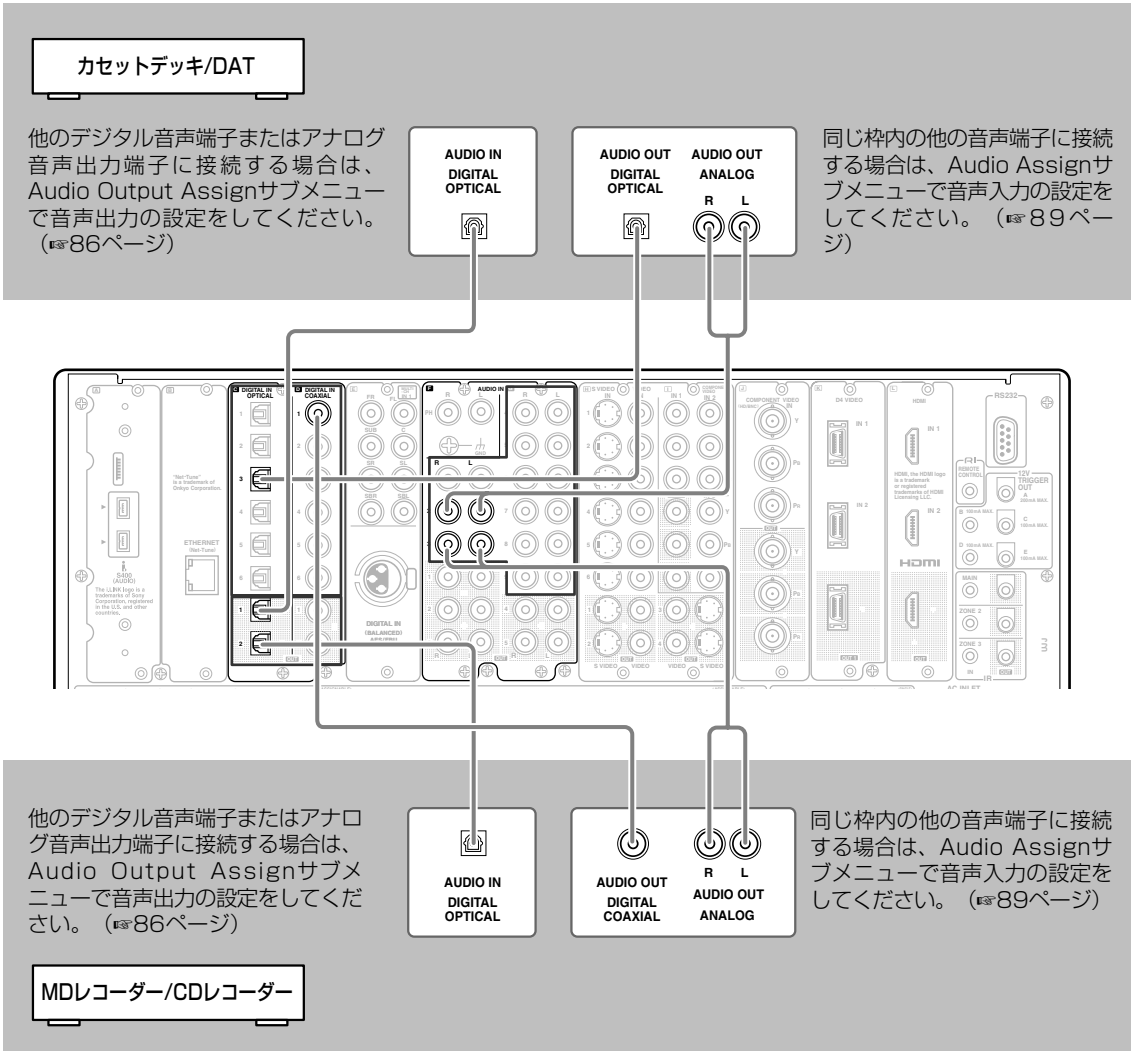
入力がVIDEO 4の場合の接続

入力がVIDEO 5の場合の接続

CDプレーヤーやレコードプレーヤー、チューナーを接続する

- CDプレーヤーにはアナログ、デジタルの端子があります。28、29ページの説明を参考に、間違えないように接続してください。ここでは初期設定に合わせた接続を基本に記載していますが、デジタル端子がCOAXIAL（同軸）の場合はAUDIO IN DIGITAL COAXIAL 1～6のいずれかに接続し、Audio Assignサブメニューで音声入力の設定をする必要があります。（☞89ページ）
- レコードプレーヤーはPH端子に接続します。本機のPH端子はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプを通して接続してください。
- PHONOに他の端子を割り当てる場合は、Audio Assignサブメニューで音声入力の設定をする必要があります。（☞89ページ）
- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機のGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合はアース線を接続する必要はありません。
- 音声をアナログ録音する場合やオンキヨー製品で本機とRI連動させる場合は、アナログ音声の接続も行う必要があります。オーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機のAUDIO IN端子を接続します。

MDレコーダー/DAT/CDレコーダー/カセットデッキなどの録音機器を接続する

- MDレコーダーやDAT、CDレコーダーにはアナログ、デジタルの端子があります。28、29ページの説明を参考に、間違えないように接続してください。
- TAPE 1にカセットデッキもしくはDATデッキをTAPE 2にMDレコーダーもしくはCDレコーダーを接続します。
- カセットデッキを使用する場合は、アナログ端子のみを接続してください。本機では、初期設定にカセットデッキの録音端子の割り当てがありません。カセットデッキのREC端子は本機のAUDIO OUT 1-5端子のいずれかに接続し、Audio Output Assignサブメニュー（☞86ページ）で「Tape 1 Rec Out」の設定にして下さい。また、入力ソースのTAPE 2をMD、CDRに変更することができます。フロントパネルのTape 2ボタンを押して「TAPE 2」を表示させたあと、再びTape 2ボタンを3秒間押し続けて下さい。表示がMDに変わります。CDRに変えるには、一度指をはなしてから再度Tape 2ボタンを3秒間押し続けます。この操作をしておくと、本機のリモコンでオンキヨー製のMDレコーダーやCDレコーダーを操作することができます。（RI接続も必要です）
- 他の端子に接続する場合は、Audio Assignサブメニューで音声入力の設定（☞89ページ）と、Audio Output Assignサブメニューで音声出力の割り当て設定（☞86ページ）をする必要があります。
- 接続した機器に合わせて入力名を変更することもできます。（☞92ページ）
- 音声をアナログ録音する場合やオンキヨー製品で本機とRI連動させる場合は、アナログ音声の接続も行う必要があります。オーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機のAUDIO IN端子を接続します。

入力がTAPE 1の場合の接続

入力がTAPE 2の場合の接続

i.LINK（AUDIO）端子（i.）を使って接続する

i.LINKについて

i.LINKとは、IEEE1394の呼称で、IEEE（米国電子技術協会）によって標準化されたデジタルインターフェース規格です。i.LINK（AUDIO）対応機器どうしを接続すると、接続した機器間でのデジタル音声などのデータ転送や接続した機器のコントロールなどができます。

i.LINK(AUDIO）について

本機が対応しているi.LINK伝送フォーマットは、「i.LINK(AUDIO)」です。本機と接続する機器も「i. LINK(AUDIO)」に対応していることが必要です。i.LINK伝送フォーマットには、他にBSデジタル放送などに使用されている「MPEG-2 TS」、DVDレコーダーやデジタルビデオなどで使用されている「DV」がありますが、本機はこれらには対応していません。本機とi.LINK（AUDIO）対応機器とをi.LINKケーブルで接続すると、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのマルチチャンネル音声をデジタルで伝送することができます。映像信号の伝送はできません。
また、複数の機器をつないだときは、他の機器を経由していても、データの伝送や機器の操作ができます。
本機のIEEEインターフェースは、以下の規格に基づいています。
1）IEEE Std 1394a-2000, Standard for a High Performance Serial Bus
2）Audio and Music Data Transmission Protocol 2.0のAM824 Sequence adaptation layersの中の、IEC60958 bitstream、DVDオーディオ、スーパーオーディオCDに対応。

著作権保護について

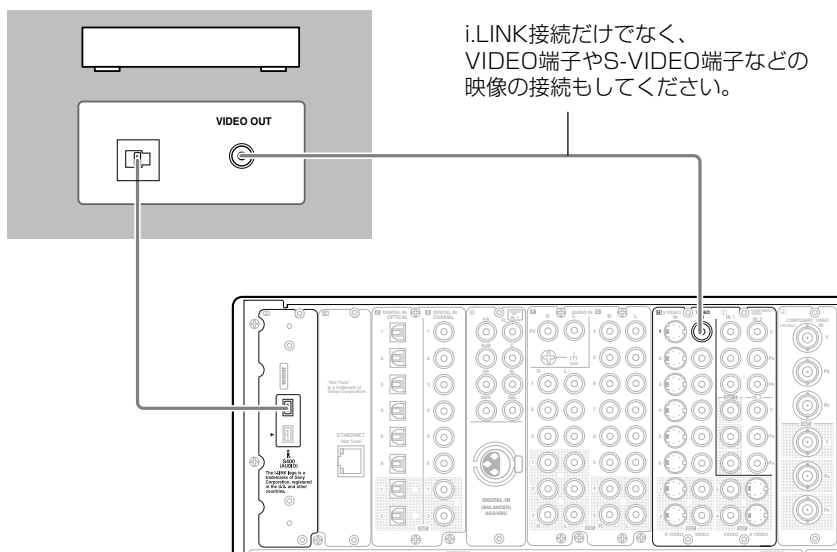
本機はDTCP（Digital Transmission Contents Protection）に対応しています。DTCPとは、i.LINKでの接続を想定したデジタル機器間でのデータ伝送の際に、認証と暗号化により著作権を保護するシステムです。i.LINK接続によりDVDオーディオなどを再生するためには、接続する機器もDTCPに対応していることが必要です。

接続のしかた

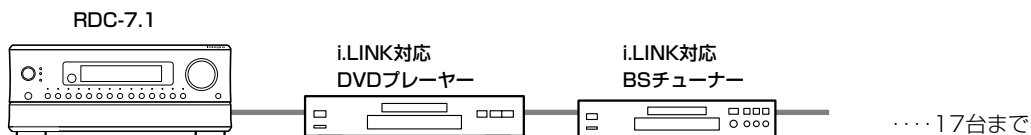
S400対応の4ピンi.LINKケーブルを使って本機のi.LINK（AUDIO）端子とi.LINK（AUDIO）対応機器のi.LINK（AUDIO）端子を接続します。

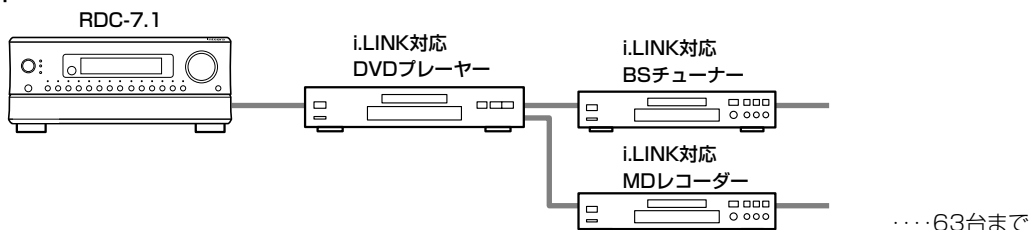
- 「Audio Assign」サブメニューの「i.LINK」（☞90ページ）で音声入力の設定をする必要があります。（接続した対応機器によってはi.LINKに関する出力設定が必要な場合もあります。）
- 本機のi.LINK（AUDIO）端子は音声信号のみに対応しているため映像機器を接続する場合は「映像の接続」も必要です。
- インテグラリサーチもしくはオンキヨー製品をi.LINK接続した場合は、i.LINKケーブルを通してのシステム動作が可能になります。

ご注意

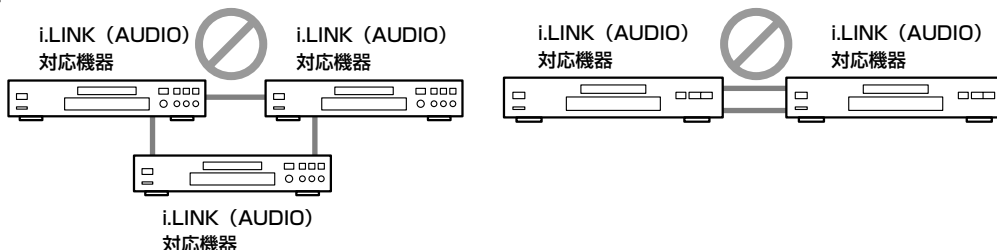
RIケーブルを接続した状態ですと誤動作の原因となりますので、RI接続は外してください。

i.LINK（AUDIO）対応機器の連結について

i.LINK接続では、他のi.LINK（AUDIO）対応機器を介して接続したときでも、データを伝送することができます。デイジーチェーン（直列つなぎ）型接続では、最大17台まで接続できます。

接続例：

途中から分岐して接続するツリー型での接続の場合は、最大63台まで接続できます。i.LINK（AUDIO）端子を3つ以上もつ機器の場合に可能です。

接続例：

下図のようなループ（輪）状に接続しないでください。信号を出力した機器に同じ信号が戻らないように接続してください。

接続例：

ご注意

- i.LINK（AUDIO）対応機器以外の機器（BSデジタル放送などの「MPEG-2 TS」対応機器やデジタルビデオなどの「DV」対応機器など）とは接続しないでください。
- i.LINK（AUDIO）対応機器の再生中は、他の機器のi.LINKケーブルを抜き差ししたり、新しい機器を接続したり、電源をオン/オフしたりしないでください。音声が途切れることがあります。
- i.LINK（AUDIO）対応機器の中には、電源がスタンバイ状態やオフになっているとデータを伝送できない機器があります。接続するi.LINK（AUDIO）対応機器の取扱説明書もご覧ください。
- i.LINK（AUDIO）対応機器には、その機器が対応している最大データ転送速度がi.LINK（AUDIO）端子の周辺に記載されています。最大データ転送速度は、S100（100Mbps＊）、S200（200Mbps＊）、S400（400Mbps＊）が定められています。本機の最大データ転送速度は、400Mbpsですが、接続している機器がS100やS200の場合や、機器の仕様により、実際の転送速度が400Mbpsより遅くなる場合があります。できるだけ、最大データ転送速度が同じ機器を並べて接続してください。

＊ Mbps（メガビーピーエス）とは、「mega（メガ） bits（ビット） per（パー） second（セカンド）」の略で、1秒間に通信できるデータの容量を示しています。400Mbpsでは、1秒間に400メガビットのデータを転送します。

- i.LINK機能は、すべてのi.LINK（AUDIO）対応機器間での接続動作を保証するものではありません。i.LINK（AUDIO）対応機器間でデータやコントロール信号がやりとりできるかどうかは、それぞれの機器の機能によって異なります。

i.LINKを接続したときの設定のしかた

機器の選択
i.LINK接続をしたときは、セットアップメニューを使ってi.LINKでつながっている機器を選択することができます。また、一度設定しておくと、次に入力ソースを選んだときに、その機器が再生ソースとして選ばれます。

リモコンで操作する場合
1. Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して設定する入力ソースを選びます。
2. Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押します。
3. ▲/▼ボタンを押して「Input Setup」を選びます。
4. ▲/▼ボタンを押して「Audio Assign」を選びます。
5. ▲/▼ボタンを押して「g. i.LINK」を選びます。
6. ◀/▶ボタンを押して機器を選択します。
   i.LINK接続していても、i.LINKからの音声を聞かないときは「No」にしておきます。

本機で操作する場合
1. 入力ソースを選んでからSetupボタンを押します。
2. ▲/▼ボタンを押して「Input Setup」を選び、Enterボタンを押します。
3. ▲/▼ボタンを押して「Audio Assign」を選び、Enterボタンを押します。
4. ▲/▼ボタンを押して「g. i.LINK」を選び、Enterボタンを押します。
5. ◀/▶ボタンを押して再生したい機器を選択します。
   i.LINK接続していても、i.LINKからの音声を聞かないときは「No」にしておきます。

i.LINKを接続したときの便利な機能

インテグラリサーチあるいはオンキヨー製の機器をi.LINK接続して、入力ソースに割り当て（Audio Assign）しているときは、次のような機能が働きます。ただし、RI接続をしている場合は、RI接続を外してください。

i.LINKセレクターチェンジ（→操作に関しての詳細は112ページ参照）
他の入力ソースを選んでいても、i.LINK接続した機器の再生が始まると、その機器を割り当てた入力ソースに自動的に切り換わります。

ご注意

ゾーン2ではi.LINK接続した機器の音声を聞くことはできません。

DVDプレーヤーの操作が可能
リモコンをDVDモードにしてRDC-7.1に向けて信号を送ると、DVDプレーヤーを操作することができます。

自動起動（Wakeup Setup）の機能 （→操作に関しての詳細は112ページ参照）
RDC-7.1がスタンバイ状態のとき、i.LINK接続している機器の接続状態を設定することができます。

DVDへのOSD（オンスクリーンディスプレイ）出力機能 （→操作に関しての詳細は112ページ参照）
DVDプレーヤーに直接テレビを接続している場合でも、DVDプレーヤーと本機をi.LINK接続していれば本機のOSDをテレビに出力することができます。テレビ画面の右側あるいは左側に表示するなどの設定ができます。複数の機器を接続しているときは、どの機器を通して出力するのかを選択することもできます。この機能はゾーン2でも可能です。

ご注意

DVDへOSDを表示中にプレーヤーをスタンバイ状態にしたり電源をオン/オフしないでください。

システムコントロール設定 （→操作に関しての詳細は112ページ参照）
DVDプレーヤーのi.LINK（AUDIO）出力のオン/オフを本機側からコントロールできます。

＜エラーメッセージに関するご注意＞
「DTCP ERROR XXXX」（XXXXは機器名）というエラーメッセージが現れた場合は、接続した機器が著作権保護（DTCP）に対応していません。
この場合は下記の対処をしてください。
1. セットアップメニューで「6. i. LINK Setup」→「6-1. Wakeup Setup」と進み、
   「a. Wakeup on i. LINK（IEEE1394）」を「Disable」にする。
2. エラーとなる機器のi. LINKケーブルを本体から外す。
3. Standby/Onボタンを押して本体をスタンバイ状態にする。

HDMI端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

（ハイ デフィニション マルチメディア インターフェース）

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でセットトップボックスやTV/プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定された、次世代テレビ向けのインターフェース規格です。
従来のDVI（Digital Visual Interface）*1規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMIケーブルを1本接続するだけで、HDMI端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVIと原理的に互換性があります。DVI端子を装備したテレビ/モニターなどに接続するにはHDMI→DVI変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機はHDCPを使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。

本機のHDMIインターフェースは、以下の規格に基づいています。
High-Definition Multimedia Interface Specification Informational Version 1.0

著作権保護について

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しています。HDCPとは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。本機と接続する機器もHDCPに対応していることが必要です。本機のHDMI OUT端子とテレビ/モニターなどのHDMI入力端子を接続します。接続には、市販のHDMIケーブルをご使用ください。

（ハイ バンドウィドゥス デジタル コンテンツ プロテクション）

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3が、99年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。
*2 HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）：Intelが開発したDVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のDVIレシーバーが必要になる。
*3 DDWG（Digital Display Working Group）： Intel 、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、 Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続のしかた

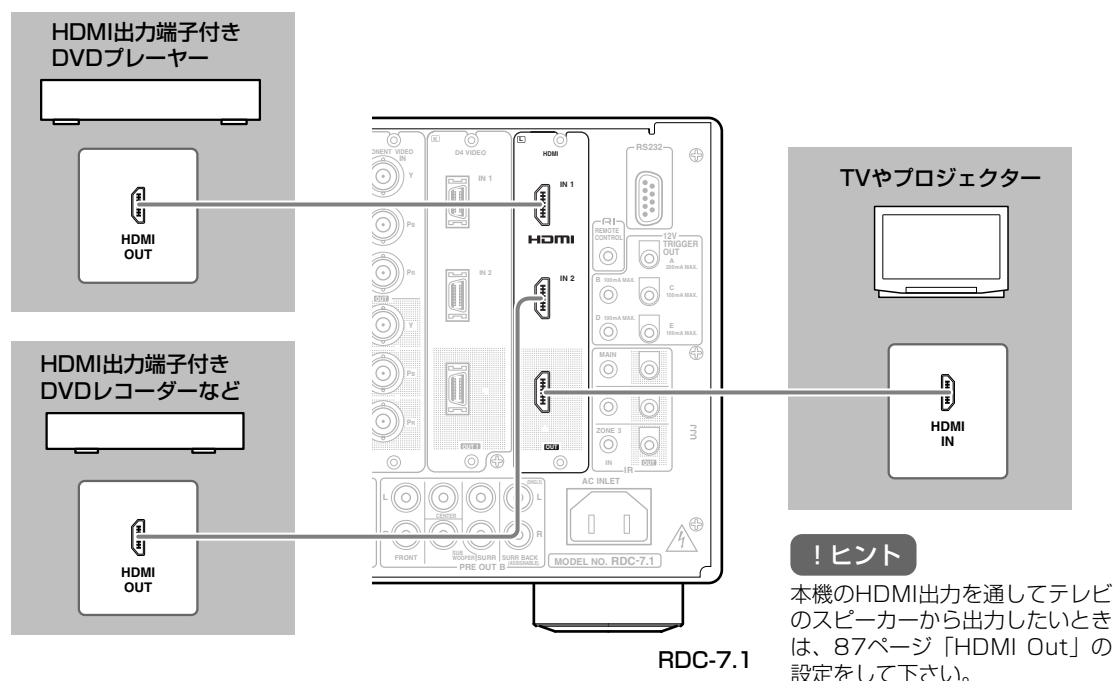
HDMIケーブルを使って本機のHDMI端子とDVD/TV/プロジェクターなどのHDMI端子を接続します。
Video AssignのHDMIを接続した機器にあわせて1もしくは2に設定します。はじめは1がDVD、2がVideo 1にAssignされています。
HDMI信号は本来音声信号伝送も可能ですが、本機のHDMI IN1/2のHDMI信号の音声信号は、本機では再生できませんので、DVDなどとはデジタル端子接続をしてください。

- 1もしくは2以外の入力を選択したとき、アナログ／デジタルの音声、アナログの映像はHDMI信号に変換され、HDMI OUTから出力することができます。（初期設定で音声は出力されません。Audio Output Setupで設定する必要があります。）
- アナログ音声はPCMフォーマットで出力されます。デジタルの音声信号は、接続されたTVやプロジェクターが再生可能な場合のみHDMI OUTから出力されます。
  たとえば、TVやプロジェクターがPCMのみ対応の場合、入力がドルビーデジタルなどでは出力されません。
  音声を出したい場合は、プレーヤー側でPCM出力に設定してください。もしアナログの音声を接続している場合はアナログの音声がPCMで出力されます。

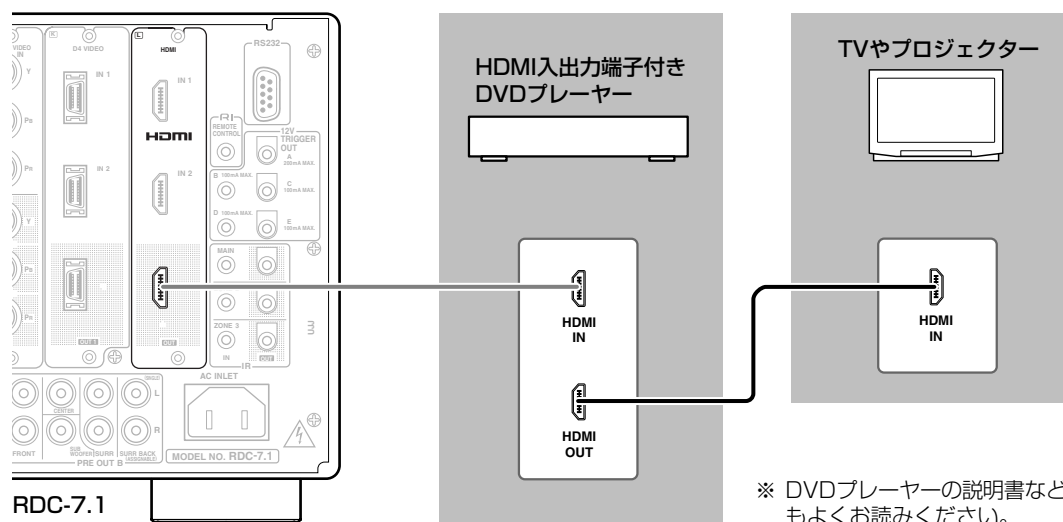
AV機器を接続する

本機の入力切り換えでコントロールする接続

！ヒント

本機のHDMI出力を通してテレビのスピーカーから出力したいときは、87ページ「HDMI Out」の設定をして下さい。

より高画質の映像を楽しむ場合の接続

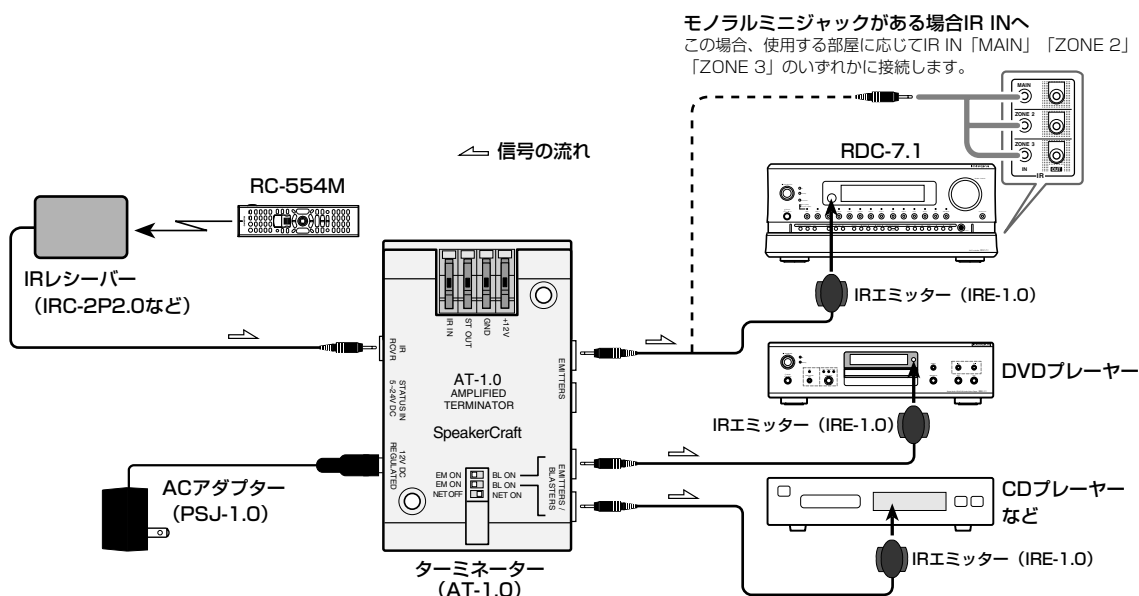
HDMI入力端子も備えているAV機器の場合は下記の接続もできます。機器に添付の取扱説明書もよくお読みの上、接続してください。

※ DVDプレーヤーの説明書などもよくお読みください。

ご注意

- HDMI入力以外（Analog映像入力）の場合、そのままの解像度でしかHDMI出力されないため、モニターの解像度と合っていないと表示されません。そのため、ソース機器側で解像度を合わせる必要があります。
- モニターが対応していない音声フォーマットは本機で音声を出さないようにしています。ただしデジタル信号の場合、サンプリング周波数やフォーマットの切り換わり時にモニターからノイズを出す場合がありますので、そのようなときは音声出力を無効にして、スピーカー出力などの音声出力でお楽しみください。

リモコン信号が届かない場合は（マルチルームでリモコン操作する）

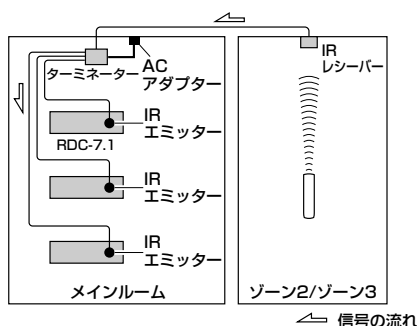
市販のマルチルームキットなどを使用して、本機にリモコン信号が届かない場所からでもリモコン操作をすることができます。別室でホームシアターを楽しんだり、機器をキャビネットに収納している場合などにご利用ください。ここではスピーカークラフト社の赤外線コントロールシステムをご使用になった場合の例で説明します。
同セットには取扱説明書を同梱しておりますが、取り付けにあたっては壁内配線などを要する場合もございますので、同セット取り扱いのカスタムインストールができる販売店への依頼をお勧めいたします。
※マルチルーム用のキットによっては本機のIR IN/OUT端子をご使用いただくことができます。その場合はマルチルームキットの説明書にしたがい、接続･設定をしてください。

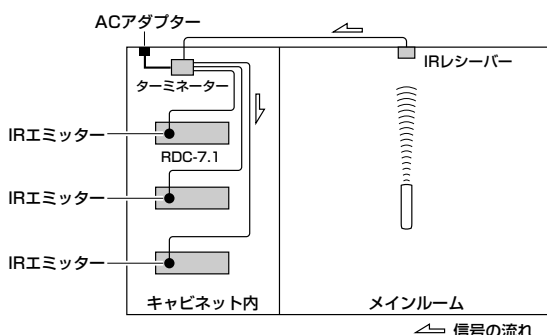
接続例

別室で使用する場合

1. リモコンを使用する部屋にIRレシーバーを設置し、IRエミッターのエミッター側（赤外線を発射する部分）を機器のリモコン受光部に取り付けます。

！ヒント

モノラルのミニジャックケーブルがある場合は、IRエミッターを取り付ける代わりにミニジャックの片方をターミネーターに接続し、もう一方をRDC-7.1のIR IN端子に接続してもかまいません。

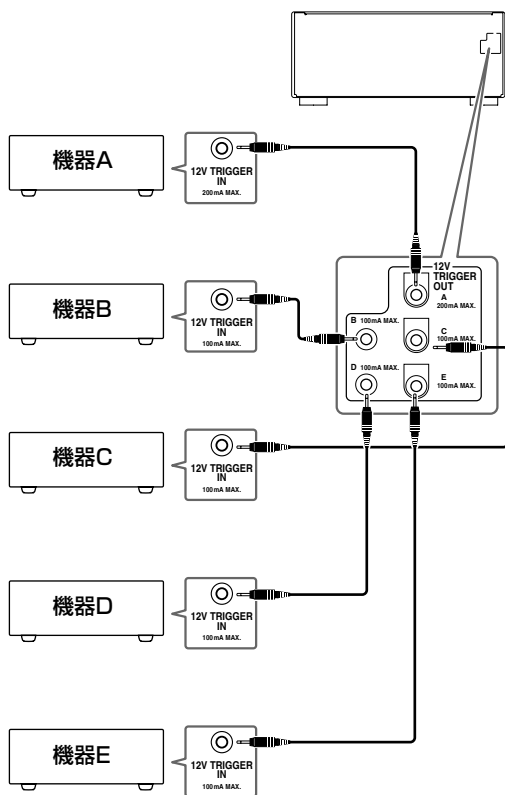
2. ターミネーターに、IRレシーバーとIRエミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）
電源アダプターをターミネーターに接続します。

キャビネットなどの中に入れて使用する場合

1. リモコン信号を受信しやすい場所にIRレシーバーを設置し、IRエミッターをキャビネット内に取り付けます。
取り付けについての詳細は、システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。
2. ターミネーターに、IRレシーバーとIRエミッターを接続し、ターミネーターのスイッチを適切な位置に合わせます。（システムに添付の取扱説明書等をご覧ください。）
電源アダプターをターミネーターに接続します

12Vトリガー機器を使用する

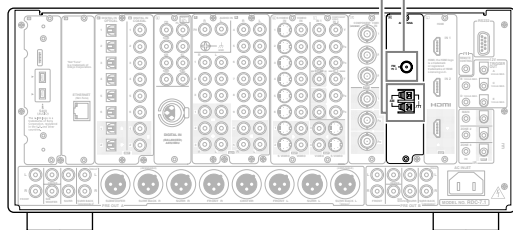
本機に接続したAV機器の電源を、本機の12V TRIGGER（トリガー） OUT（アウト）端子からの出力信号で自動的にオンにすることができます。

接続のしかた

本機の12V TRIGGER OUT端子を他機の12V TRIGGER（トリガー） IN（イン）端子に接続します。すべての端子が、メインルーム、ゾーン2、ゾーン3のどの部屋の機器でも接続できます。
端子は5つあり、接続できる最大電流は次のようになっています。
A：最大200mAまで接続できます。
B、C、D、E：最大100mAまで接続できます。
接続する機器の12V TRIGGER端子に合わせて接続してください。

接続後、どの部屋で使用するときに接続した機器の電源をオンにするかを、Input（インプット） Setup（セットアップ）メニューの「12V Trigger（トリガー） Assign（アサイン）」（☞93ページ）で設定します。

アンテナを接続する

スロットKにアンテナ端子がある場合にご利用いただくことができます。

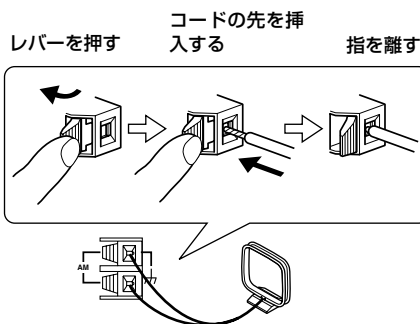
オプションボードに付属のFM室内アンテナとAM室内アンテナを接続します。

AM室内アンテナを接続する

AM室内アンテナは必ず室内で使用してください。

1 AM室内アンテナを組み立てる

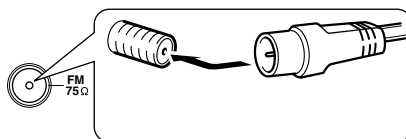
2 AMアンテナ線を接続する

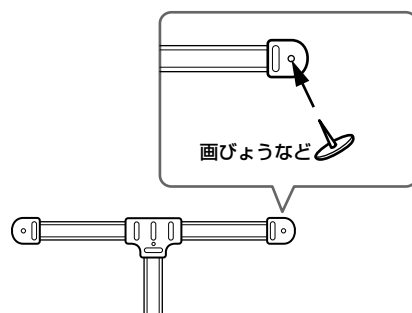
AMアンテナのコードは、分岐した先端を上下端子のどちらに接続してもかまいません。（スピーカーコードのように、極性などによる区別はありません。）

コードは奥までしっかりと差し込みます。コードのビニールの部分ではなく、導線の部分が接続端子に挟まれるようにします。

アンテナの受信状態による調整や設置は、実際に放送を聞きながら行ってください。本機、テレビ、スピーカーコード、電源コードからは、できるだけ離してください。

FM室内アンテナを接続する

FM室内アンテナは必ず室内で使用してください。

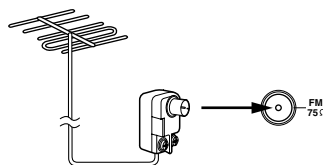
1 FM室内アンテナを接続する

アンテナの受信状態による調整や設置は、実際に放送を聞きながら行ってください。

2 画びょうなどでFMアンテナを固定する

ご注意

画びょうで指などを傷つけないように、ご注意ください。

オプションボードに付属のFM室内アンテナできれいに受信できない場合は、屋外アンテナの使用をおすすめします。

FM屋外アンテナの接続

付属のFM室内アンテナできれいに受信できない場合は、市販の屋外アンテナを接続します。

ご注意

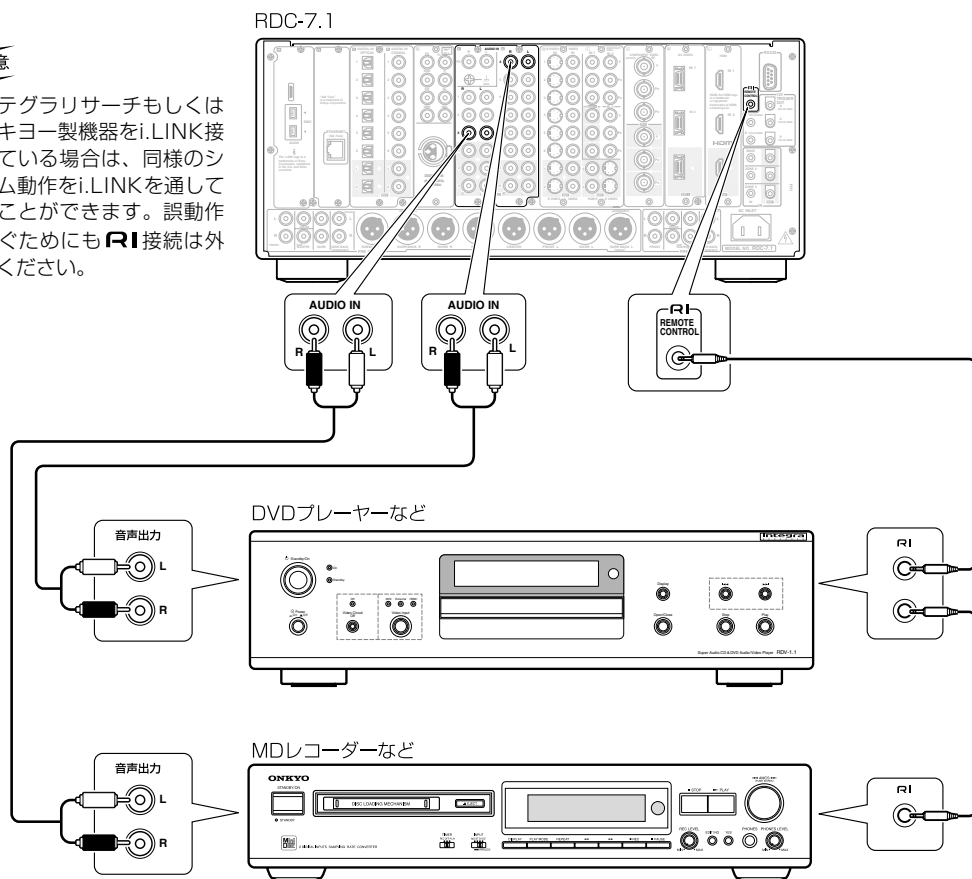
- なるべく建物の陰にならず、FM放送電波が直接受信できるところに設置してください。
- 自動車のエンジンによる雑音を避けるため、道路からできるだけはなれたところに設置してください。
- 屋外用FMアンテナは、屋外に設置した場合にもっとも効果が得られるよう設計されています。ただし、屋根裏に設置した場合に、一定の効果が得られることがあります。
- 送電線の近くは危険ですので、絶対に設置しないでください。
- 感電防止のため、必ずアースをとってください。

RI端子付きのインテグラリサーチ／オンキヨー製品と接続する

インテグラリサーチ／オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのインテグラリサーチ／オンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、インテグラリサーチ／オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。31～37ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

ご注意

インテグラリサーチもしくはオンキヨー製機器をi.LINK接続している場合は、同様のシステム動作をi.LINKを通して行うことができます。誤動作を防ぐためにもRI接続は外してください。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。

ご注意

- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにも接続できます。

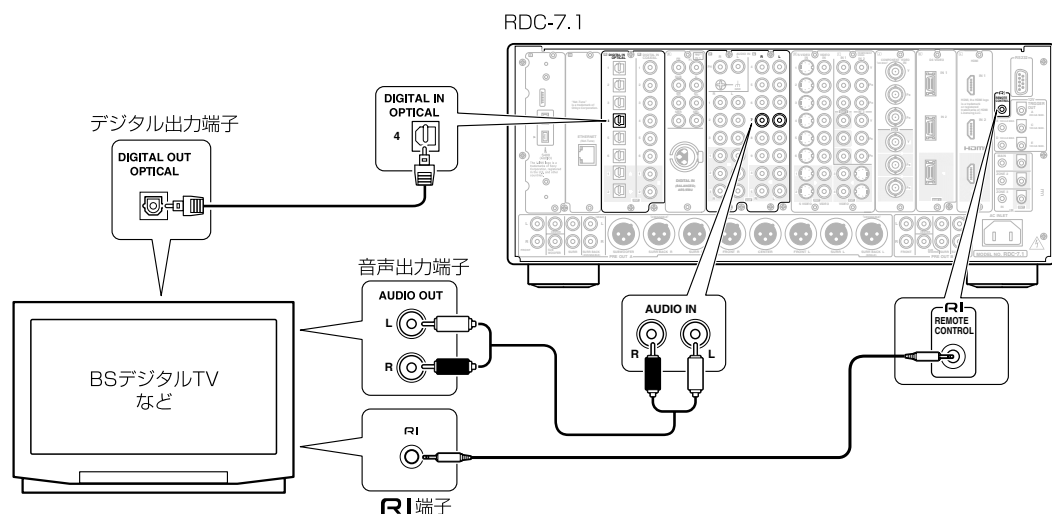
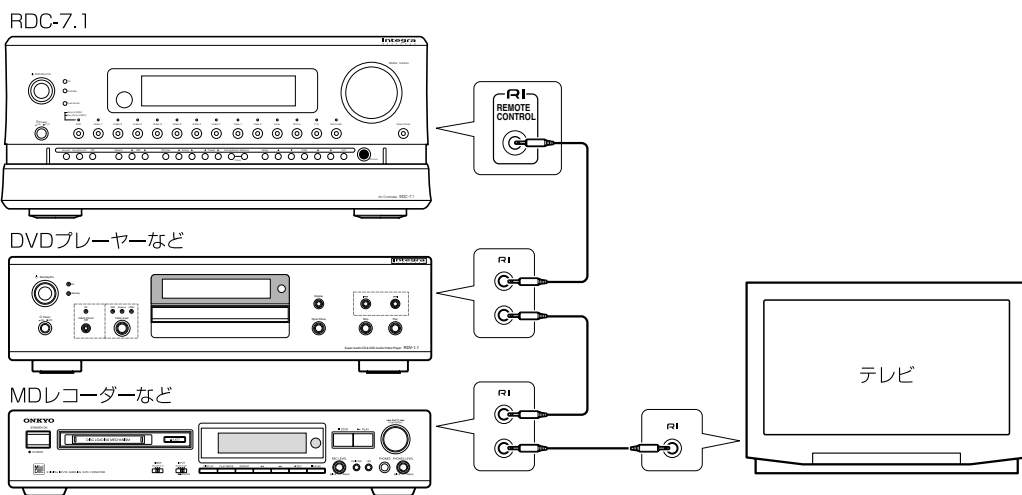
RI端子付きのインテグラリサーチ／オンキヨー製品と接続する

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

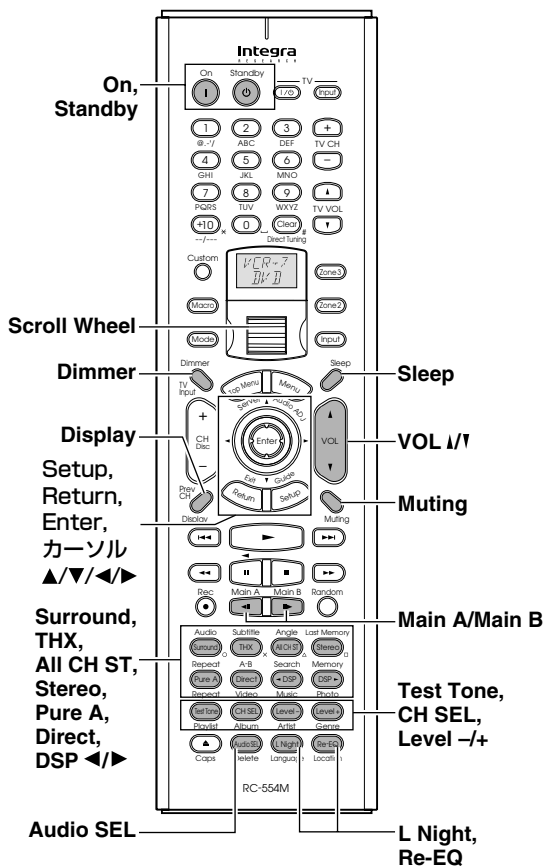
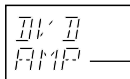
本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。
①テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。
②テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。
③本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

接続のしかた

- 本機のAUDIO 7 IN L/R端子を接続する（初期設定でAUDIO 7は、Video 3の音声入力端子として割り当てられています。）
- モノラルミニプラグコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL（デジタル） IN（イン） OPTICAL（オプティカル） 4 端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

- 他のインテグラリサーチ／オンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

リモコンの基本操作を覚える

本機に付属のリモコンは多機能リモコンですので、設定を行えば、本機のみならず接続しているAV機器や別室の機器も操作することができます。ここでは基本的な操作について記載しています。実際の操作に入る前にこのページをご覧になり、使用方法をよく理解したうえでご使用いただくことをお勧めします。

本機を操作するとき（AMPモード）

1 Scroll Wheelを押す

DVD
AMP　下段の表示がAMPに変ります。

2 次の機能がAMPモードのときに使用できます

On/Standby：電源オン/スタンバイを切り換えます。

Main A：Speaker Configurationで「Main A」に設定したスピーカーの音を聞くときに使用します。

Main B：Speaker Configurationで「Main B」に設定したスピーカーの音を聞くときに使用します。

Dimmer：表示部の明るさを変えます。

Setup/Return/Enter/Cursor▲/▼/◀/▶：セットアップメニュー操作時に使用します。

Display：表示を切り換えます。

THX/Surround/Pure A/Direct/All CH ST/Stereo/DSP◀/▶：リスニングモードを切り換えます。

Test Tone/CH SEL/Level －/+：テストトーンを出したり、一時的に音量を切り換えるときに使用します。

Audio SEL：音声信号を切り換えます。

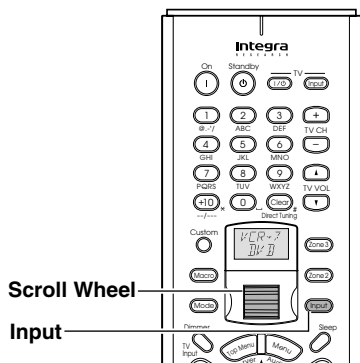
Sleep：スリープタイマーを働かせます。

VOL ▲/▼：音量を調整します。

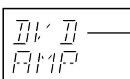
Muting：一時的に音量を下げます。

L Night：ダイナミックレンジを切り換えます。

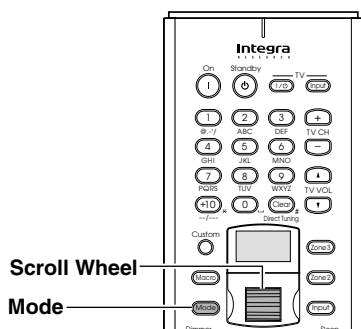
Re-EQ：リ・イーキュー効果を働かせます。

再生するソースを選ぶとき

1 Inputボタンを押す

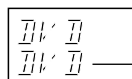
Inputボタンが点灯します。

2 Scroll Wheelを回す

DVD
AMP　上段の表示が変ります。

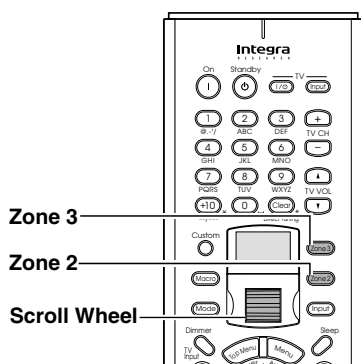
本機で操作するときは、操作したい入力ボタンを押します。

接続している機器を操作するとき（モードの切り換え）

1 **Modeボタンを押す**

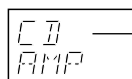
Modeボタンが点灯します。

2 **Scroll Wheelを回す**

下段の表示が選択した機器のモードに切り換わります。

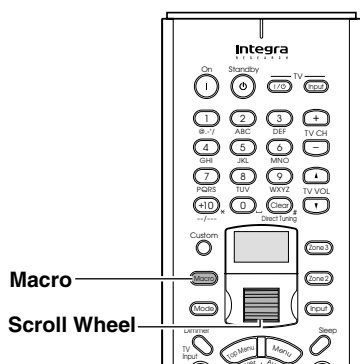
該当する機器を操作するには、あらかじめ120～126ページに従ってリモコンの設定をしておいてください。

ゾーン2やゾーン3のソースを選ぶとき

1 **Zone 2またはZone 3ボタンを押す**

Zone 2またはZone 3ボタンが点灯します。

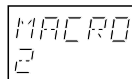
2 **Scroll Wheelを回す**

上段の表示が選択した入力表示に切り換わります。

本機で操作するときは、Zone 2（またはRec/Zone 3）ボタンを押してから、入力切換ボタンを押します。

マクロ操作をするとき

マクロ機能を使うには、前もってリモコンのマクロ設定をしておいてください。（☞125ページ）

1 **Macroボタンを押す**

Macroボタンが点灯します。

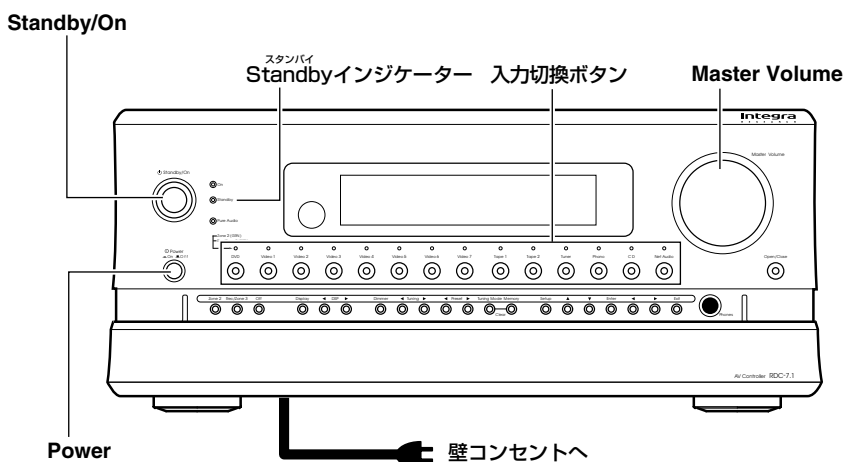
2 **Scroll Wheelを回してマクロ番号を選び、Scroll Wheelを押す**

リモコンにカスタム登録をする

リモコンをお客様のお使いになっている機器に合わせて「他機のリモコンコードを登録」「他機のリモコンから指定した操作を学習させる」「マクロ機能を使って連続した操作を学習させる」などするときは、Customボタンを使用します。詳しくは、120ページをご覧ください。

電源を入れる／基本の操作

- 電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、微細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。
- 本機は主電源スイッチ（Power ）を入（▬ On ）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとStandby（スタンバイ）インジケーターが点灯し、下記「電源を入れる」の手順2と同じ状態になります。

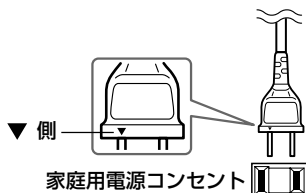
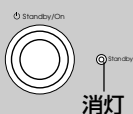
電源を入れる

1

電源コードをACコンセントに接続し、Power（パワー）スイッチを押して主電源を入れる

本機はスタンバイ状態になり、Standby（スタンバイ）インジケーターが点灯します。

よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コードは極性の管理がされています。電源コードの目印線（▲）側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

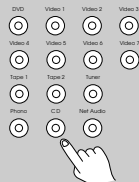
2

Standby/On（スタンバイ/オン）ボタンを押す

Standby（スタンバイ）インジケーターが消え、表示部が点灯します。

スタンバイ状態に戻すには

Standby/Onボタンを押します。

本体で基本操作する

1

入力ソースを選ぶ

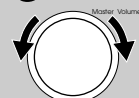
入力切換ボタンを押します。（メインルームAとメインルームBで別々のソースを聞くことはできません。）

2

選んだ機器の再生を始める

DVDプレーヤーなど映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。

DVD対応のゲーム機などの再生機器では、音声出力設定が必要な場合もあります。接続している機器の説明書もあわせてご覧ください。

3

Master Volume（マスター ボリューム）つまみで音量を調整する

音量は、－∞、－81.5dB～18.0dBの範囲（Volume（ボリューム） Setup（セットアップ）メニューのRelative（レラティブ）設定時）で調整できます。

！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

リモコンで電源を入れる

1

電源コードをACコンセントに接続する

Standbyインジケーターが点灯します。

2

Scroll Wheelを回す、もしくは押す

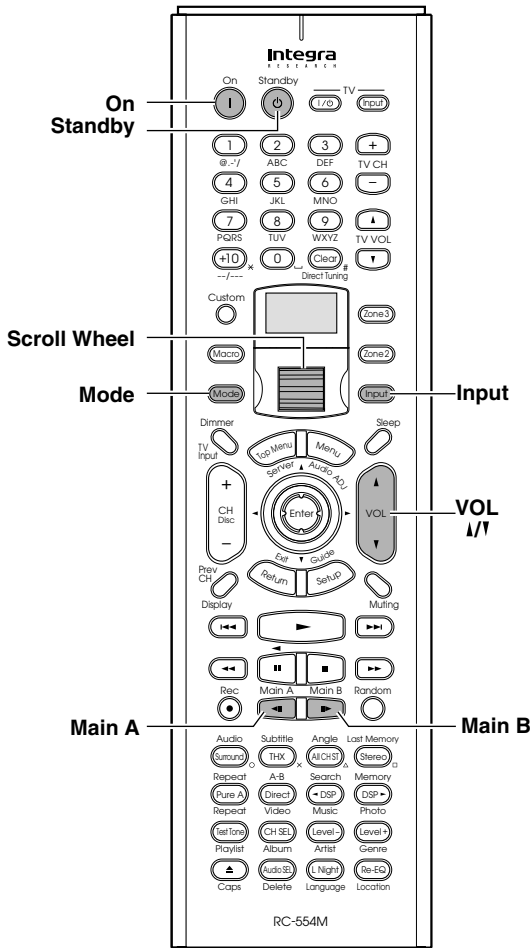
本機が操作できる状態になります。

スタンバイ状態に戻すには
Standbyボタンを押します。

！ヒント

リモコンのOnボタンを押すと、RI接続した機器も電源が入ります。

リモコンで操作する

1

Scroll Wheelを回して、再生する機器を選ぶ

Modeボタンと Inputボタンが点灯していないときに操作します。点灯している場合は、点灯しているボタンを押して消灯してください。

Scroll Wheelを回すと、両方のボタンが点灯し、入力ソースとモードが同時に切り換わります。

2

選んだ機器の再生を始める

DVDプレーヤーなど映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。

DVD対応のゲーム機などの再生機器では、音声出力設定が必要な場合もあります。接続している機器の説明書もあわせてご覧ください。

3

VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は、−∞、−81.5dB〜18.0dBの範囲（Volume Setupメニューの Relative設定時）で調整できます。

！ヒント

本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

！ヒント

Speaker/Outpu SetupメニューでMain AだけでなくMain Bに設定したスピーカーがある場合は、リモコンのMain A/Main Bボタンでスピーカーを切り換えることができます。操作を始める前にMain Bボタンを押してください。また、Main BからMain Aに戻すにはMain Aボタンを押してください。

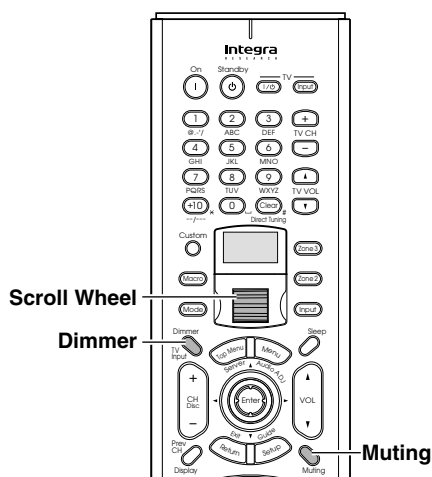
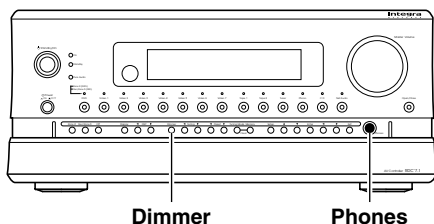
操作編

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンで聞くには、フロントパネルのPhones端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続します。

- スピーカーからの音が消えます。
- ドルビーヘッドホン機能が働いているときは、本体表示部に が表示されます。詳細は58ページをご覧ください。

ご注意

- ヘッドホンを接続しても、ゾーン2/ゾーン3（別室）スピーカーからの音は出力されます。
- Main Bで使用しているときにヘッドホンを使用すると、強制的にMain Aとなります。

本体表示部の明るさを変える

本体表示部の明るさを変えることができます。

本体のDimmerボタンを押す

リモコンで操作するときは、Scroll Wheelを押してから、Dimmerボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

暗い → 非常に暗い → 音量のみの表示 → ふつう → 暗い

一時的に音量を小さくする（リモコンのみ）

Mutingボタンを押すと、音を一時的に小さくできます。

Scroll Wheelを押してから、Mutingボタンを押す

表示部に「Muting」が点灯します。元の音量に戻すには、もう一度Mutingボタンを押します。

Muting

スリープタイマーを使う（リモコンのみ）

スリープタイマーを使うと、あらかじめ設定した時間後に自動的に電源を切ることができます。

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を押してから、Sleep（スリープ）ボタンをくり返し押してスリープタイムを選ぶ

本体表示部に「Sleep 90min」と表示され、ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。設定したい時間表示で約5秒間待つと、スリープタイムが設定され、元の表示に戻ります。

ゾーン2もしくはゾーン3で音楽や映像を楽しんでいるときメインルームでスリープタイマーを使用すると、メインルームの電源が切れると同時にゾーン2、ゾーン3の電源も切れますのでご注意ください。

■スリープタイマーを解除するには

SLEEP（スリープ）インジケーターが消えるまで、くり返しSleepボタンを押します。

■残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときにSleepボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、時間表示が点滅しているときにボタンを押すと、スリープタイムを10分短縮することになります。

スピーカーの音量を一時的に調整する（リモコンのみ）

1

Scroll Wheel（スクロール ホィール）を押す

2

CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

3

Level（レベル）－またはLevel（レベル）＋ボタンを押して、音量を調整する

－12ｄBから+12ｄBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは－15ｄBから+12ｄBの範囲で調整できます。

本機がスタンバイ状態になると、音量は元に戻ります。

Speaker Configuration（スピーカー コンフィグレーション）サブメニューの設定が「Not Used（ノット ユーズド）」のスピーカーは選択できません。

表示を切り換える

本体のDisplay（ディスプレイ）ボタンを押す

リモコンで操作するときは、Scroll（スクロール） Wheel（ホィール）を押してからDisplay（ディスプレイ）ボタンを押す

表示内容が次のように切り換わります。

●入力ソースがFM/AM以外のとき

*** 入力ソースがPCM以外のデジタル信号のとき**
プログラムフォーマットが表示されます。（入力信号にプログラムフォーマットがないときは表示されません。）
たとえば「Dolby D: 3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネル（左フロント、右フロント、センター）とサラウンド2チャンネル（左サラウンド、右サラウンド）、それにLFEが独立して記録された5.1チャンネルのドルビーデジタルフォーマットであることを表しています。
フロントチャンネル数「2」：左フロント＋右フロント
フロントチャンネル数「1」：モノラル
サラウンドチャンネル数「1」：モノラル
サラウンドチャンネル数「0」：サラウンドチャンネル無し
LFE数が表示されない：LFE無し

入力信号がPCMのとき
サンプリング周波数が表示されます。
たとえば「PCM fs: 44.1k」と表示された場合は、サンプリング周波数44.1kHzのPCM信号であることを表しています。

Dialog norm（ダイアログノーマライゼーション）
ドルビーデジタルソフトを再生したとき、表示部に「Dialog Norm：○○」（○○は数値）と表示される場合があります。これは、ダイアログノーマライゼーションというドルビーデジタルが備えている機能のひとつで、再生するソフトが通常より高い、または低いレベルで録音されていることを知らせる機能です。

DialogNorm: +4

●入力ソースがFMまたはAMのとき

音声信号の種類を選ぶ（リモコンのみ）

音声信号にはアナログ、デジタル、i.LINK (AUDIO)、マルチチャンネルの4種類があります。
それぞれの入力端子に接続している機器に合わせて、どの信号を再生するかを選択できます。
ゾーン2では、アナログとデジタルの2種類が選択できます。

1

Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、設定する機器を選ぶ

2

Scroll Wheelを押してから、Audio SELボタンを押す

現在の設定が表示されている間に、Audio SELボタンを押すと、以下のように表示が切り換わります。

→Auto→Analog→ Multi →i.LINK
（割り当てられているときのみ）

Auto (XXX)：
デジタル信号を優先して再生しますが、デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。
デジタル接続をしており、Input Setupメニュー→Audio Assignサブメニュー→Digital Audio(☞89ページ）でデジタル入力端子が設定されている場合に表示されます。
（XXX）には割り当てられている端子名が表示されます。

Multich：
マルチチャンネルの音声を再生するときに選びます。
アナログマルチチャンネル対応のDVDプレーヤーなどをマルチチャンネル接続しており、Input Setupメニュー→Audio Assignサブメニュー→Multichannel(☞89ページ）が「1」または「2」に設定されている場合に表示されます。

Analog：
アナログ信号を再生します。1つの機器をアナログ/デジタルの両方に接続していてもアナログ音声信号を再生します。

i.LINK:
i.LINK（AUDIO）端子に接続されている機器の信号を再生します。この設定では、i.LINK（AUDIO）端子からのデジタル信号のみが再生されます。この設定は、Input Setupメニュー→Audio Assignサブメニュー→i.LINKで機器が選択されているときに選択できます。

Re-EQ機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。

！ヒント

OSDを使ったメニューでも設定できます。
Re-EQ効果がかけられるリスニングモードは、Listening Mode Setupメニュー内のサブメニューにRe-EQの項目があります。

1

Scroll Wheelを押してから、Re-EQボタンを（くり返し）押す

レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

！ヒント

OSDを使ったメニューでも設定できます。(☞100ページ)

1

Scroll Wheelを押してから、L Nightボタンを（くり返し）押す

Off：レイトナイト機能をオフにします。

Low：音量幅を小さくします。

High：音量幅をさらに小さくします。

しばらくすると元の表示に戻ります。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

リスニングモードを使う

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。最適なサラウンド再生をお楽しみいただくために、スピーカーと出力に関する設定を行ってください。(☞83～85ページ)

Direct
もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力ソースのチャンネルのまま音声を出力します。

Pure Audio
Directモードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、映像が出なくなります。）

Stereo
左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono
モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどに記録された音声多重のサウンドトラックを再生できます。

Dolby Pro Logic II
2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1チャンネルで再生できます。Movieモードは映画観賞用、Musicモードは音楽再生用、Gameモードはゲームに適したモードです。

- PLII Movie
  DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- PLII Music
  CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDに適しています。
- PLII Game
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic IIx
2チャンネルで収録された音楽や映画を5.1から7.1チャンネルで再生できます。明瞭なサウンドはそのままに、かつてないほど自然でなめらかなサウンド体験がえられます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などがえられます。
5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。PLIIx MovieまたはPLIIx Musicモードが選択できます。

- PLIIx Movie
  映画に最適なモードです。
- PLIIx Music
  音楽再生に最適なモードです。
- PLIIx Game
  ゲームに最適なモードです。

Dolby Digital
劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。DOLBY DIGITALマークのついたDVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

Dolby VS (Dolby Virtual Speaker)
2本のスピーカーで5.1chスピーカーが持つ躍動的なサラウンド音響効果を再現することができます。「Dolby Pro Logic II」または「DTS NEO:6」と組み合わせて、CDやMP3などの2チャンネルで収録された音楽を、2本のスピーカーのみで5.1チャンネルサラウンドが楽しめる状態にします。また、スピーカーが2本以上ある場合でも使用できます。
別室（ゾーン2/ゾーン3）やメインルームBでスピーカーを2本しか設置できないときでも、このモードを使うとバーチャルサラウンドによって映画、音楽、ゲームで迫力のある音響が体験できます。
3本以上のスピーカーを使用してこのリスニングモードにしたときは、ソースやデコードモードによって、出力スピーカーは異なります。

Dolby Digital EX/Dolby EX
5.1チャンネルで収録された音楽や映画を6.1チャンネルで再生できます。5.1チャンネルに背面のサラウンドチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。5.1チャンネルで記録された DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LDの再生時はDolby Digital EXとなり、その他のソースではDolbyEXとなります。

DTS
完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。DTSマークのついたCD、DVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24
DTS 96/24のときに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete
DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix
DTS-ES収録ソフトを6.1チャンネル再生します。
DTS-ES収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。dts ES マークのついたCD、DVD、LDなどの再生時に楽しむことができます。

DTS Neo(ネオ):6

2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。映画に最適なCinema(シネマ)モードと音楽再生に最適なMusic(ミュージック)モードが選択できます。5チャンネルで収録されたソフトは、NEO:6になります。

- NEO:6 Cinema(シネマ)
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現され、2チャンネルのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に適しています。
- NEO:6 Music(ミュージック)
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の2チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2チャンネルで収録されたCDなどに適しています。

AAC

MPEG(エムペグ)-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。
BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

Multiplex(マルチプレックス)

音声多重放送のときのリスニングモードです。

THX

THX準拠のスピーカーシステムで最大の効果を発揮するモードです。

- THX Cinema(シネマ)
  5.1チャンネルのモードです。映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。サラウンドバックの音声出力は、ソースやデコードモードによって異なります。
- THX Ultra(ウルトラ)2 Cinema(シネマ)
  THX Ultra2のモードです。5.1チャンネルで収録された音楽や映画を7.1チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するようサラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。
- THX Music(ミュージック) Mode(モード)
  THX Ultra2の音楽ソース用モードです。5.1チャンネルで収録されたソフトを7.1チャンネルで再生します。
- THX Games(ゲーム) Mode(モード)
  THX Ultra2のゲームソース用モードです。
- THX Surround(サラウンド) EX
  ドルビーラボラトリーズとTHX社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタルEXの技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。

Multichannel(マルチチャンネル)

アナログのマルチチャンネル接続をしているときに使用できるリスニングモードです。

i.LINK: DVD-Audio

i.LINK（AUDIO）の接続をしていて、DVDオーディオを再生するときに使用できるリスニングモードです。

i.LINK: SACD

i.LINK（AUDIO）の接続をしていて、SACDを再生するときに使用できるリスニングモードです。

インテグラリサーチ独自のリスニングモード（DSP）

All Ch Stereo(オールチャンネルステレオ)

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。すべてのスピーカーからステレオ音声で再生されますので、迫力ある音場をお楽しみいただけます。

Full(フル) Mono(モノ)

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様に音楽を聞くことができます。

Mono(モノ) Movie(ムービー)

古い映画などモノラル信号の映画ソースを再生するのに適したモードです。センターチャンネルからはそのままの音声を、他のスピーカーからは適度に残響処理を施したセンター音を出力します。モノラルでも臨場感をお楽しみいただけます。

Enhance(エンハンス)

音楽鑑賞やテレビのスポーツ番組を見るのに適しています。
効果音は自然にサラウンド、サラウンドバックスピーカーに移動し、より躍動感のあるサウンドを再現します。

Orchestra(オーケストラ)

クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged(アンプラグド)

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

Studio(スタジオ)-Mix(ミックス)

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

TV Logic(ロジック)

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

リスニングモードを使う

ヘッドホン使用時のリスニングモード

Dolby Headphone

ヘッドホンで5.1チャンネルスピーカーが持つ躍動的なサラウンド音響効果を再現することができます。ヘッドホン装着前のリスニングモードの効果を左右のヘッドホンで楽しむことができます。ただし、リスニングモードによっては、次のように置き換わります。

- Dolby VSとStereoは、Dolby Headphoneモードにそのまま置き換わります。
- 7.1チャンネルサラウンドでデコードされたソースは、5.1チャンネルサラウンドにデコードされます。
- DTS 96/24は、DTSにデコードされます。

Dolby Headphoneモードをオフにしたときのリスニングモード

Direct

ヘッドホン装着前のリスニングモードがDirectのときに、このモードになります。効果はDirectモードと同じです。

Pure Audio

ヘッドホン装着前のリスニングモードがPure Audioのときに、このモードになります。効果はPure Audioモードと同じです。

Mono

ヘッドホン装着前のリスニングモードがMono、Mono Movie、Full Monoのときに、このモードになります。効果はMonoモードと同じです。

ヘッドホン装着前に、モノラルソースをDolby VSのリスニングモードで聞いていたときも、Monoになります。

Stereo

ヘッドホン装着前のリスニングモードがDirect、Pure Audio、Mono、Mono Movie、Full Mono以外のときに、このモードになります。効果はStereoモードと同じです。

Multiplex

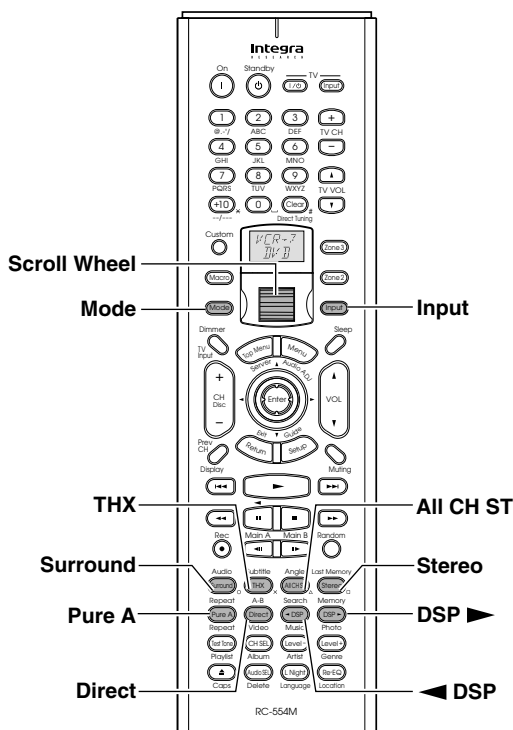
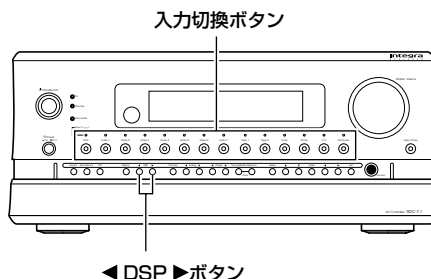
ヘッドホン装着前のリスニングモードがMultiplexのときに、このモードになります。

リスニングモードを切り換えて楽しむ

本機のリスニングモードを切り換えるには、次のように操作します。

ご注意

入力信号によって選択できるリスニングモードが異なります。（☞132～134ページ）

入力切換ボタン

◀ DSP ▶ボタン

本体で操作する

1 **入力切換ボタンを押す**

2 **選んだ機器を再生する**

3 **◀ DSP ▶ボタンを押してリスニングモードを選ぶ**

リモコンで操作する

1 **Scroll Wheelを回して演奏する機器を選ぶ**

Modeボタンとinputボタンが点灯していないときに操作します。点灯している場合は、点灯しているボタンを押して消してください。

Scroll Wheelを回すと、両方のボタンが点灯し、入力ソースとモードが同時に切り換わります。

2 **選んだ機器を再生する**

3 **Scroll Wheelを押してから聞きたいリスニングモードのボタンを押す**

Pure Aボタン：リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。ピュアオーディオを選ぶと、ピュアオーディオインジケーターが点灯します。ピュアオーディオを選んでいるときは、余計な信号回路をカットするため、コンポーネント端子に接続している機器のOSD（オンスクリーンディスプレイ）は出なくなります。

Directボタン：リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

Stereoボタン：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。

Surroundボタン：リスニングモードをサラウンドモードに切り換えます。

- 5ch信号が入力されているときは、押すたびにリスニングモードが「DolbyEX」→「PLIIx Movie（初期設定）」→「PLIIx Music」→「NEO:6」→「Off」の順に切り換わります。
- 2ch信号が入力されているときは、押すたびに「PLIIx Movie（初期設定）」→「PLIIx Music」→「PLIIx Game」→「NEO：6: Cinema」→「NEO:6 Music」の順に切り換わります。

THXボタン：リスニングモードを「THX」に切り換えます。

- ドルビーデジタル信号が入力されているときは、次のデコードモードに切り換えることができます。押すたびに「THX Cinema」→「SurroundEX」→「Ultra2 Cinema（初期設定）」→「MusicMode」→「Games Mode」の順に切り換わります。（☞105ページ）

◀ DSP ▶ボタン：押すたびにそのときの入力信号で選べるすべてのリスニングモードを順に切り換えます。

All CH STボタン：リスニングモードを「All Ch Stereo」に切り換えます。

◀ または▶カーソルボタン：

- AACやDolby Digitalの音声多重信号が入力されているときは、主音声と副音声を切り換えます。押すたびに「Main」→「Sub」→「Main＋Sub」と切り換わります。
- ヘッドホンを使用している場合は、カーソル◀/▶ボタンでドルビーヘッドホンのオン／オフを切り換えることができます。

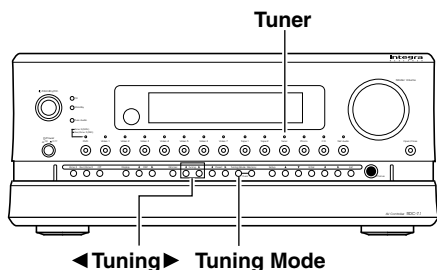
！ヒント

入力する信号と選択できるリスニングモードについて表にまとめています。132～134ページをご参照ください。

操作編

ラジオ放送を聞く

チューナー端子のボード[K]が挿入されているときにお楽しみいただくことができます。

本機はさまざまなリスニングモードを備えているので、ご使用のオーディオシステムの性能を最大限に引き出しながら、ラジオ放送をお楽しみいただけます。また、よく聞く放送局をプリセットしておけば、リモコンのCH/Disc +/−ボタンを使って簡単に受信できます。

放送局を受信する

自動的に受信する（オートチューニング）

1

入力切換ボタンの「Tuner」を押す

Tunerボタンを押すたびに、入力ソースの「AM」と「FM」が切り換わります。

2

Tuning Mode ボタンを押して、AUTO表示を点灯させる

3

Tuning ◀ または ▶ボタンを押す

放送局を受信したところで止まります。放送を受信すると、表示窓に「▶TUNED◀」表示が点灯します。FMでステレオ放送の場合は、「FM STEREO」表示が点灯します。

FMステレオ放送がノイズが多くて聞きづらいときは：
Tuninng Modeボタンを押してマニュアルチューニングモードにしてください。AUTO表示が消えてモノラルモードになり、聞きやすくなります。

手動で受信する（マニュアルチューニング）

1

入力切換ボタンの「Tuner」を押す

Tunerボタンを押すたびに、入力ソースの「AM」と「FM」が切り換わります。

2

Tuning Mode ボタンを押して、AUTO表示を消す

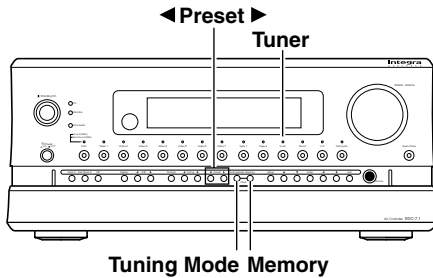
3

Tuning ◀ または ▶ボタンを押し続ける

受信したい周波数のあたりで指をはなします。くり返し押すと1ステップずつ周波数を変更できます。

- FMの場合は200kHz単位、AMの場合は9kHz単位で周波数を変更できます。
- 手動で受信（マニュアルチューニング）したときは、FM局はモノラルモードになります。ステレオ受信するにはTuning Modeボタンを押してください。

周波数を入力して受信する

放送局の周波数を直接入力して受信するときは、リモコンのDirect Tuningボタンを押してから、数字ボタンで周波数を入力してください。

放送局をプリセットする

最大40局の放送局をプリセット局として登録することができます。

1 プリセットしたい放送局を受信する（前項の「放送局を受信する」をご覧ください）

2 フロントパネルのMemoryボタンを押す

点滅

FM 88.1 MHz 7

3 Preset◀ または ▶ボタンを押して、放送局に割り当てるプリセット番号（1～40）を選ぶ

MEMORY表示は5秒間点滅していますのでその間に操作してください。MEMORY表示が消えた場合は再度押してください。

4 Memoryボタンを押して、登録する

点灯

FM 88.1 MHz 7

各プリセット局に名前を付けることができます。（☞92ページ）

プリセットした放送局を受信する

本体操作の場合は

1 入力切換ボタンの「Tuner」を押す

2 Preset◀ または ▶ボタンを押して、受信したいプリセット番号を選ぶ

リモコン操作の場合は

1 Inputボタンを押して、Scroll Wheelで「TUNER」を選ぶ

FM、AMを変更したい場合は、さらにScroll Wheelを押して切り換えます。

2 CH/Disc ＋/－ボタンを押して、受信したいプリセット番号を選ぶ

数字ボタンでプリセット番号を選ぶには

リモコンの数字ボタンを押します。たとえば、7番を選ぶときは[7]を押し、17番を選ぶときは[1]→[7]と押します。

プリセットした放送局を削除する

1 入力切換ボタンの「Tuner」を押し、Preset◀ または ▶ボタンを押して、削除したいプリセット番号を選ぶ

2 Memoryボタンを押しながら、Tuning Modeボタンを押す

Tuning Mode Memory
Clear

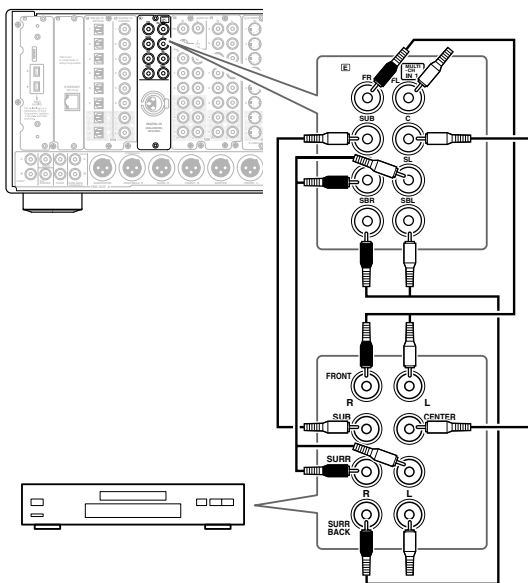
選んだプリセット局が削除されます。

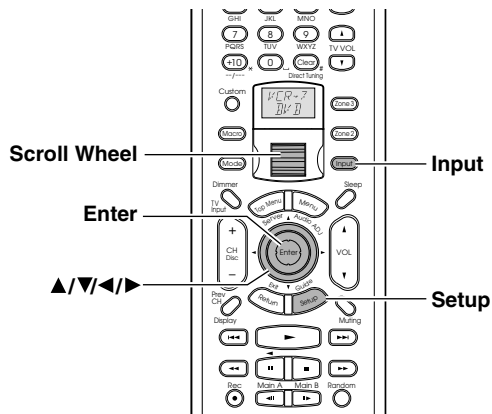
操作編

マルチチャンネルで鑑賞する

マルチチャンネル端子のボード[E]が挿入されているときにマルチチャンネル再生をお楽しみいただくことができます。
DVDプレーヤーなど、マルチチャンネル音声（5.1～7.1ch）に対応している機器を2台まで本機に接続することができます。
マルチチャンネル接続をした場合、Input Setupメニューでの設定が必要です。また、お好みに合わせてリスニングモードなどの設定をしておくこともできます。マルチチャンネルはメインルームでお楽しみください。

接続のしかた

マルチチャンネル接続コードやオーディオ用ピンコード（3～4本）使って、接続する機器のマルチチャンネル出力端子と本機のMULTI-CH IN端子を接続します。

設定のしかた

入力の設定をします。初期設定はDVDが「1」で、CDが「2」、それ以外は「No」です。

1	**Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、入力ソースを選ぶ**
2	**Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、メインメニューを表示する**
3	**▲/▼ボタンを押して「Input Setup」を選び、Enterボタンを押す**
4	**▲/▼ボタンを押して「Audio Assign」を選び、Enterボタンを押す**
5	**▲/▼ボタンを押して「Multichannel」を選び、◀/▶ボタンで「1」を選ぶ**
6	**Setupボタンを押す** 設定が終了し、メニュー画面が消えます。

マルチチャンネル再生をする

1 Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、入力ソースを選ぶ

2 Scroll Wheelを押してからAudio SELボタンを（くり返し）押して、「Multich」を選ぶ

3 再生を始める

4 VOL▲/▼ボタンで音量を調整する

音量は、−∞、−81.5dB〜18.0dBまでの範囲で調整できます（Volume Setupサブメニューで「Relative」設定時）。

マルチチャンネル再生時のリスニングモードをあらかじめ設定しておくこともできます（リスニングモードプリセット）。その場合は、Input Setup→Listening Mode Presetサブメニューの「Multichannel」で、お好みの設定を選んでください。初期設定は「Multichannel」です。
リスニングモードについては132-134ページを、リスニングモードプリセットについては91ページをご覧ください。

リスニングモードの音響効果や再生する環境を設定しておくには

マルチチャンネル再生時のデコードモードやスピーカー環境など、細かな設定をしておくことができます（リスニングモードセットアップ）。
詳しくは94ページをご覧ください。

マルチチャンネル再生時のスピーカー音量を調整する

1 Scroll Wheelを押してからCH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

Speaker/Output SetupメニューのSpeaker Configurationサブメニューで設定したスピーカーが順に切り換わります。

2 Level −/＋ボタンを押して、音量レベルを調整する

−12dB〜＋12dBの範囲で調整できます。サブウーファーは−15dB〜＋12dBの範囲で調整できます。

！ヒント

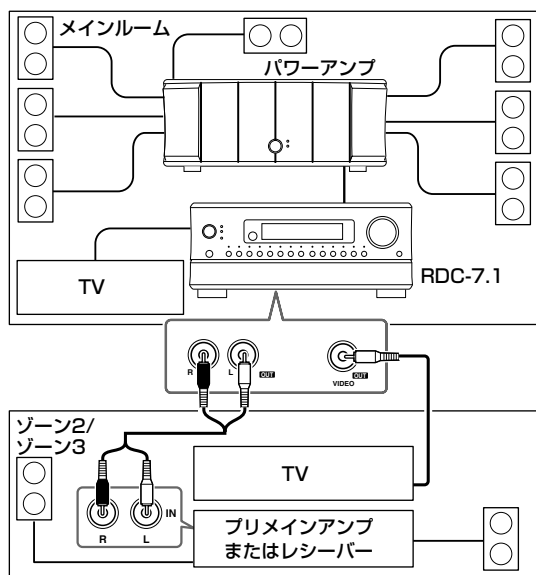
マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、85ページのテスト音で設定するレベルキャリブレーションとは異なります。マルチチャンネル再生以外の再生には反映されません。

別室（ゾーン2やゾーン3）で映画・音楽を鑑賞する

別室用のスピーカーやアンプを接続して、別室（ゾーン2/ゾーン3）で異なるソースをお楽しみいただくことができます。
別室でお楽しみいただくには、2つの方法があります。

接続と設定のしかた

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合 （ゾーン2/ゾーン3）

- メインルームで7.1チャンネル再生しながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量は別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。

1 ゾーン2、ゾーン3用のプリメインアンプまたはレシーバーを本機に接続する

下記のいずれかの端子に接続します。

- AUDIO OUT1～5
  初期設定は以下の通りです。
  Analog 4（AUDIO OUT 4）：Zone 2 Out
  Analog 5（AUDIO OUT 5）：Zone 3 Out
- DIGITAL OUT OPTICAL1～2
- DIGITAL OUT COAXIAL1～2

2 ゾーン2、ゾーン3用のスピーカーをプリメインアンプまたはレシーバーに接続する

3 ゾーン2、ゾーン3用の映像機器をコンポジットのVIDEO OUT1～4端子のいずれかに接続する

4 セットアップメニューの設定をする

① Speaker/Output Setup→ Audio Output Assignサブメニュー（☞86ページ）で、機器を接続した端子の設定を「Zone 2 Out」または「Zone 3 Out」にします。

② 同じAudio Output Assignサブメニューの「Zone 2 Out」または「Zone 3 Out」の設定を「Line Out (fixed level)」にします。

③ Speaker/Output Setup→Video Output Assignサブメニューで、機器を接続した端子の設定を「Zone 2 Out」または「Zone 3 Out」にします。

④ Setupボタンを押してメニューを終了します。

パワーアンプを接続する場合（ゾーン2/ゾーン3）

- メインルームで7.1チャンネル再生しながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量はパワーアンプ側でなく、本機で調整します。

1 **ゾーン2、ゾーン3用のパワーアンプを本機に接続する**

下記のいずれかの端子に接続します。
- AUDIO OUT1～5
- DIGITAL OUT OPTICAL1～2
- DIGITAL OUT COAXIAL1～2

2 **ゾーン2、ゾーン3用のスピーカーをパワーアンプに接続する**

3 **ゾーン2、ゾーン3用の映像機器をコンポジットのVIDEO OUT1～4端子のいずれかに接続する**

4 **セットアップメニューの設定をする**

① Speaker/Output Setup→Audio Output Assignサブメニュー（☞86ページ）で、機器を接続した端子の設定を「**Zone 2 Out**」または「**Zone 3 Out**」にします。

② 同じAudio Output Assignサブメニューの「Zone 2 Out」または「Zone 3 Out」の設定を「**Pre Out（variable level）**」にします。

③ Speaker/Output Setup→Video Output Assignサブメニューで、機器を接続した端子の設定を「**Zone 2 Out**」または「**Zone 3 Out**」にします。

④ Setupボタンを押してメニューを終了します。

別室で映画・音楽を鑑賞する

- メインルームのスリープタイマーは、ゾーン2/ゾーン3でも働きます。ゾーン2/ゾーン3のみにスリープタイマーを働かせるには、メインルームで本機のスリープタイマーを設定した後、本機をスタンバイ状態にします。
- ゾーン2/ゾーン3に出力できる音声、映像は次のようになっています。

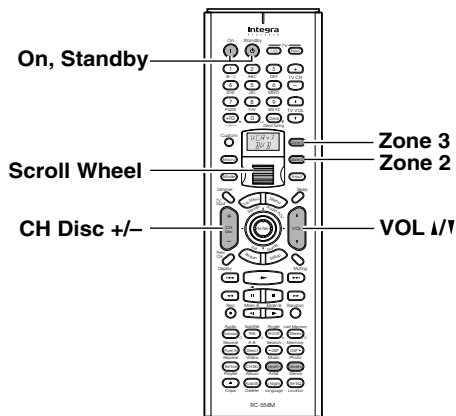
	入力端子から	ZONE2	REC/ZONE 3	出力端子へ
音声入力	ETHERNET/PH/AUDIO IN 1～9	○	○	AUDIO OUT 1～5
		×	×	DIGITAL OUT OPTICAL 1～2
		×	×	DIGITAL OUT COAXIAL 1～2
	DIGITAL IN OPTICAL 1～6/DIGITAL IN COAXIAL 1～6	○*2	○*1	AUDIO OUT 1～5
		○	○	DIGITAL OUT OPTICAL 1～2
		○	○	DIGITAL OUT COAXIAL 1～2
映像入力	VIDEO IN 1～6/S VIDEO IN 1～6/COMPONENT VIDEO IN 1～6/D4	○*3	○*3	VIDEO OUT1～4
				S VIDEO OUT1～4
				COMPONENT VIDEO OUT

*1 PCMのみ出力
*2 2chダウンミックス信号の場合
*3 COMPONENT VIDEO INの場合は、HDMIスロットを挿入したときに可能
＼: Audio Output AssignサブメニューやVideo Output AssignサブメニューでZone 2 Out、Zone 3 Outの設定がない

操作編

別室（ゾーン2やゾーン3）で映画・音楽を鑑賞する

リモコンで操作する

リモコン操作をするときは、ゾーン2やゾーン3の場所や本機からの距離などによって、操作方法が異なります。
- 本機の受光部に向けてリモコン操作する
- マルチルーム接続をしてゾーン2やゾーン3の場所にリモコンセンサーを設置する（☞43ページ）

1　ゾーン2またはゾーン3の電源を入れる

Zone 2またはZone 3ボタンを押してからOnボタンを押します。

2　ソースを選ぶ

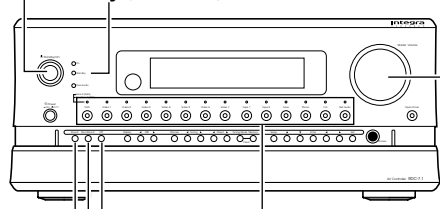
Zone 2またはZone 3ボタンが点灯している間にScroll Wheelを回してソースを選択します。（ボタンが消灯しているときは、Zone 2またはZone 3ボタンを押して点灯させてください。）
- チューナーを選んだ場合は、CH/Disc＋/－ボタンでプリセットチャンネルを選ぶことができます。

3　音量を調整する

Zone 2（またはZone 3）ボタンを押してから5秒以内にVOL▲/▼ボタンを押して調整します。

ご注意
- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- ゾーン2またはゾーン3を使用しないときは、Zone 2またはZone 3ボタンを押してからStandbyボタンを押してください。

本体で操作する

Standby/On
Standbyインジケーター
Master Volume
Zone2　Off　入力切換ボタンとインジケーター
Rec/Zone3

1　本機の電源をオンにしてから、ゾーン2またはゾーン3のソースを選ぶ

ゾーン2の場合：Zone 2ボタンを押してから、入力切換ボタンでソースを選びます。選んだソースのボタンの上のインジケーターが緑色に点灯します。

ゾーン3の場合：Rec/Zone 3ボタンを押してから、入力切換ボタンでソースを選びます。選んだソースのボタンの上のインジケーターが赤色に点灯します。

Zone 2またはRec/Zone 3ボタンを押すと、本体のStandbyインジケーターが3秒間点滅します。操作はインジケーター点滅中に行ってください。

ゾーン2、ゾーン3で同じソースを選んでいるときは、インジケーターはオレンジ色になります。

ゾーン2（またはゾーン3）とメインルームのソースを同時に切り換えるには

Zone 2（またはRec/Zone 3）ボタンをくり返し押して「Z2Sel:SOURCE」と表示させてからScroll Wheelでソースを選択します。

2　音量を調整する

本体では音量調整はできませんので、リモコンをご使用ください。

ご注意
- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- ゾーン2/ゾーン3を使用しないときは、Zone 2またはRec/Zone 3ボタンを押してからStandby/Onボタンを押すか、「Off」ボタンを押します。ゾーン2の場合は入力ボタンの上の緑色のインジケーターが、ゾーン3の場合は赤色のインジケーターが消えます。
- メインルームの操作をするときは、Standbyインジケーターが点滅していないことを確認してから操作してください。また、メインルームを使用しないときは、Standby/Onボタンを押してください。本機をスタンバイ状態にしても、ゾーン2/ゾーン3の電源は切れません。

録音・録画する

本機では、再生中のソースを録音するだけでなく、再生中に別のソースを録音することもできます。また、映像と音声を組み合わせて新たな録画・録音をすることもできます。
接続している端子によって、録画・録音機器に出力できる信号は異なります。下記をお確かめのうえ、録画・録音してください。

音声

- ETHERNET、PH、AUDIO IN端子からの信号（アナログ）はAUDIO OUT端子のみに出力されます。Net Audioで再生されるMP3、WMA、WAVEなどの音楽信号もアナログ音声出力のみに出力されます。
- MULTI-CH IN端子からの信号は出力されません。
- HDMI IN端子からの信号はHDMI OUT端子にしか出力されません。
- DIGITAL IN OPTICAL端子、COAXIAL端子からの信号は、DIGITAL OUT OPTICAL端子、COAXIAL端子に出力されます。また、PCM信号の場合はアナログ変換されてAUDIO OUT端子にも出力されます。

映像

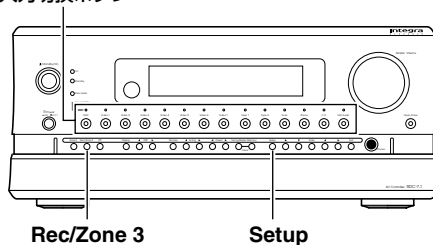
- VIDEO IN端子、S VIDEO IN端子、COMPONENT VIDEO IN端子からの映像信号は、VIDEO OUT端子のみに出力されます。

手順の中でリモコンで操作できる場合もありますが、ここでは本体で操作手順を説明します。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどはデジタル録音・録画できません。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- DTS信号をアナログ録音するとノイズとして録音することになりますので、DTS対応のCDやLDはアナログ録音しないでください。

再生しながら録音・録画する

再生中の音楽や映画を録音・録画します。
この機能はメインルームで使用し、本体で操作します。

1 本機の電源をOnにする

2 録音・録画機器の接続を確認する

AUDIO OUT端子、DIGITAL OUT端子に音声機器を、VIDEO OUT端子に映像機器を接続します。

3 接続した機器の設定を確認する

① Speaker/Output SetupメニューのAudio Output Assignサブメニュー（☞86ページ）で、録音機器を接続した端子の設定を「Rec Out」にしてください。

② Speaker/Output SetupメニューのVideo Output Assignサブメニューで、録画機器を接続した端子の設定を「Video XX Rec Out」にしてください。

③ Setupボタンを押してメニューを終了します。

！ヒント

Zone 3 OutとRec Outは同一回路を使用しているため、録音機器を接続した端子を「Zone 3 Out」に設定したときは録音できません。また、再生機器と同じ機器で録音・録画をすることもできません。

操作編

4 入力切換ボタンを押して、録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

5 Rec/Zone 3ボタンを押し、3秒以内に同じボタンをもう一度押す

表示部に「RecSel:SOURCE」と表示されます。

手順3でRec Outの設定をした機器で、録音・録画が可能な状態になります。

6 録音・録画する機器（録音側）の準備をする

- 録音・録画する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベル調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

7 録音・録画を始める

手順4で選んだ機器を再生します。

録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音・録画されます。

ご注意

チューナー端子のボードをご使用の場合、FMやAM放送を録音しているときは、録音中にFMからAMもしくはAMからFMに切り換えると、録音ソースも変わります。

再生しながら別の機器を録音・録画する

DVDを鑑賞しながらCDを録音するなど、音楽や映画を再生しながら他の機器で録音・録画することができます。この機能はメインルームで使用し、本体で操作します。

1 MAIN AまたはMAIN Bモードで本機の電源をOnにする

スタンバイ状態で次の手順へ進むと、ZONE3モードが有効になりますので、必ず電源を入れてください。

2 録音・録画機器の接続と設定を確認する

67ページの「再生しながら録音・録画する」の手順2、3をご覧ください。

3 Rec/Zone 3ボタンを押し、3秒以内に入力切換ボタンで録音・録画するソースを選ぶ

Rec/Zone 3ボタンを押すと、3秒間Standbyインジケーターが点滅します。点滅している間にソースを選択してください。表示部に録音・録画されるソース名が表示され、手順2でRec Outの設定をした機器で録音・録画が可能な状態になります。

4 録音・録画する機器（録音側）の準備をする

5 録音・録画を始める

ご注意

チューナ端子のボードをご使用の場合、ある放送を録音しながら別の放送を聞くことはできません。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

映像に他のソースの音を加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、DIGITAL IN OPTICAL 2端子に接続したCDプレーヤーの音声と、VIDEO IN 3に接続したビデオカメラの映像を、VIDEO OUT 2 に接続したビデオデッキで録音・録画する場合の例です。
この機能は、メインルームで使用します。

1 **MAIN AまたはMAIN Bモードで本機の電源をOnにする**

2 **録音・録画機器の接続と設定を確認する**

67ページの「再生しながら録音・録画する」の手順2、3をご覧ください。

3 **入力切換ボタンの「CD」を押す**

4 **Setupボタンを押してメインメニューを表示し、▲/▼ボタンで「Input Setup」を選んで、Enterボタンを押す**

手順3～6をリモコンで操作する場合は、82ページをご覧ください。

5 **▲/▼ボタンで「Video Assign」を選び、Enterボタンを押す**

6 **▲/▼ボタンで「Composite Video」を選び、◀/▶ボタンで「3」に設定する**

「3」に設定したらSetupボタンを押します。

7 **CDプレーヤーにCDを入れ、VIDEO IN 3端子に接続したビデオカメラに再生用テープを入れる**

8 **VIDEO OUT 2 端子に接続したビデオデッキに録音・録画用テープを入れる**

9 **Rec/Zone 3 ボタンを押し、3秒以内に入力切換ボタンの「CD」を押す**

CDプレーヤーが音声入力ソース、Video 3が映像入力ソースとして選択されます。

10 **ビデオデッキで録画を始め、CDプレーヤーとビデオカメラで再生を始める**

3～6で選んだ機器を再生します。

ご注意

録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。

ネットオーディオを使う

Net Audio端子のボード［B］が挿入されているときにNet Audioをお楽しみいただくことができます。

本機はLANケーブルでネットワーク接続をすると、インターネットラジオを楽しんだり、パソコンに保存した音楽ファイルを楽しむことができます。

■インターネットラジオ機能

次のインターネットラジオ機能があります。

- WMA/MP3フォーマットのインターネットラジオが聞けます。
- ジャンル別、地域別、言語別に選択が可能です。
- 30曲のインターネットラジオ局をプリセットできます。

■ネットチューン機能

インテグラリサーチ／オンキヨー独自のソフトウエアのNet-Tune® Centralは、LAN (Local Area Network) を通じて、パソコンに保存されている音楽ファイルやライブラリ情報を本機に通信します。

※ソフトウエアは、オンキヨーのホームページからダウンロードできます。

- ダウンロードには製品の後面パネルや保証書に記載されている製造番号（SERIAL番号）の入力が必要です。
- ご使用のインターネット回線の状態により10分以上かかることがあります。

http://www.jp.onkyo.com/

音楽のネットワーク配信には、標準的なネットワークプロトコルTCP/IP をベースにしたオンキヨーが独自に開発したNTSPプロトコルを採用し、高い操作レスポンスを実現しています。

音楽配信サーバー機能に加え、パソコンに保存されている音楽ファイルを自動的に検索し、簡単にNet-Tune® Centralに取り込むことができます。

Net-Tune® Centralのミュージックライブラリ機能は、以下の音楽フォーマットに対応しています。

- 非圧縮で高音質な音楽フォーマットであるWAV (PCM)
- 圧縮フォーマットでファイルサイズが小さく高音質なMP3
- Microsoft®社が開発した、MP3に劣らない音質でMP3よりも高い圧縮フォーマットであるWMA（WMAについてはコンテンツ保護されているものは再生できません。）

■ミュージックライブラリ編集機能

パソコンに保存されている音楽の曲名、アーティスト名の編集、ジャンル名の作成や編集ができます。

必要なシステム

インターネットやミュージックサーバーを聞くには次の準備が必要です。

モデム（インターネットラジオ使用時）

専用回線と接続してインターネットに通信を行うための機器。ケーブルモデム、xDSLモデム、ターミナルアダプタ（TA）などルータにあるDHCP機能を使用して自動的にIPを取得できます。

※インターネットに接続するためには、ISP（インターネット·サービスプロバイダ）と契約する必要があります。ISP業者によって使用できるモデムの種類が異なりますので詳しくはISP業者、またはPC関連ショップにお問い合わせください。

ルータ（複数のPC等の機器が同時にインターネットへ接続するための機器）

- DHCP（Dynamic Host Configration Protocol）サービスをベースとしたネットワークであること
- 100Base-TX Switch内蔵 ブロードバンドルータ（推奨）

ルータのDHCP機能を使って自動的にIPアドレスを取得します。

※上記モデムの機能を内蔵したものもあります。ISP業者によって使用できるルータの種類が異なりますので、詳しくはISP業者、またはPC関連ショップにお問い合わせください。

イーサネットCAT-5ケーブル

PC（ミュージックサーバー使用時）

- OS：Windows® 2000、XPのいずれか（Maｃ非対応）
- CPU：Intel® Pentium®III 600MHz以上
- メモリーサイズ：Windows®XPの場合：256MB以上、Windows®2000の場合：128MB以上
- LANポート（ブロードバンドポート）があること
- 20MB以上のハードディスク空き容量
  - ＊音楽ファイル用に別途空き容量が必要になります。MP3/WMA形式で1分につき約1MB、WAV形式で1分につき約10MBの空き容量が必要になります。
  - ＊必要容量はお使いのハードディスクのフォーマット形式や確保容量、録音する際のビットレートなどにより、異なります。
  - ＊一部のMP3エンコーダーで作成した曲は、再生不可能、もしくは再生音に雑音が入ったり、異音となる場合があります。
- High Color（16ビットカラー）、解像度800×600以上のディスプレイ
- サウンド機能

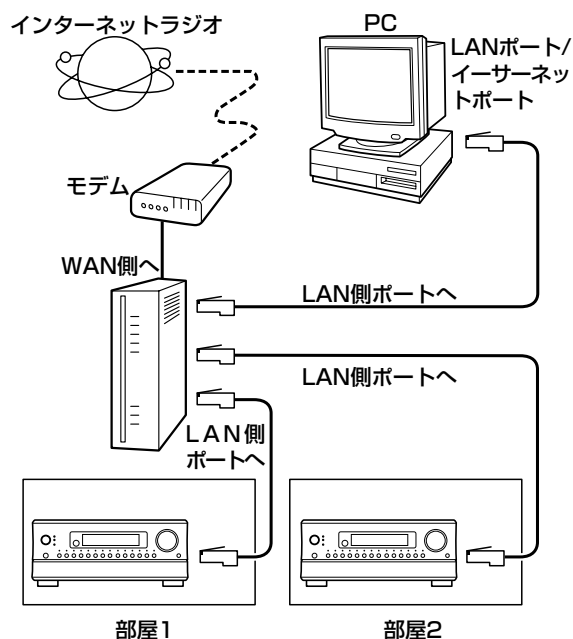
ご注意

- 本機でインターネットラジオを楽しむには、ブロードバンドインターネット接続で、ブラウザでネット閲覧ができる環境が整っていることが前提となります。インターネット接続に関する問題点については、プロバイダ各社にお問い合わせ願います。
- ネットワーク設定を手動で行うタイプの回線契約でプロバイダ契約を結んでいる場合、「ネットワークに関する設定」(☞113ページ)をする必要があります。
- 本機はPPPoEに対応しておりません。PPPoEで設定するタイプの回線契約を結んでいる場合、PPPoE対応のルータが必要です。
- 契約しているISP(インターネットサービスプロバイダ)によっては、インターネットラジオを利用する場合にプロキシサーバーの設定が必要な場合があります。パソコンでインターネットに接続するときにプロキシサーバーの設定をした場合は、本機も同様に設定してください。(☞113ページ)
- 本機はDHCP機能やAuto IP機能を使用し、ネットワーク設定を自動的に行うように設計されています。DHCP機能、Auto IP機能を使用しないときは、手動でネットワーク設定をしてください。(☞113ページ)

接続のしかた

イーサネットケーブル（CAT-5）の一方を本機後面のETHERNET（Net-Tune）端子に差し込み、もう一方をルータに差し込みます。

RDC-7.1

本機を複数接続すると、各部屋でそれぞれお好みの音楽をお楽しみいただけます。3台まで同時に再生できます。

Net-Tune® Centralは、ネットワークに接続されている複数台のコンピュータにインストールしておき、RDC-7.1の「Select Server」の設定を変更することで、アクセスする音楽データベースのサーバーを選択することができます。（☞77ページ）

ネットワーク設定について

ブロードバンドルータ（DHCP機能）をお使いの場合は、自動的にネットワーク設定が行われるので、セットアップメニューで設定する必要はありません。
ブロードバンドルータのDHCP機能をオフにしたときは、ネットワークに関する設定をしてください。（☞113ページ）

ネットチューンモード（ネットチューンを操作するとき）

ネットチューンを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをNET-Tモードにしてください。

ご注意

Modeボタンも Inputボタンも点灯していないときにScroll Wheelを回すと、入力ソースとリモコンモードが同時に切り換わります（ネットチューンモードの場合、上段が「MSRV」または「IRD」で、下段が「NET-T」になります）。

インターネットラジオを楽しむ

インターネットラジオをお楽しみいただくには、70ページ記載の必要なシステムとの接続および設定が必要です。

1

Scroll Wheelを回して「IRD」を表示させる

ModeボタンとInputボタンが点灯していないときに操作します。

下の段にはNET-Tと表示されます。

本機で操作するときは、Net Audioボタンを押します。前回、ミュージックサーバーで楽しんでいた場合は、もう一度同じボタンを押してください。インターネットラジオに切り換わります。

2

リモコンのディスプレイボタンを押す

メインメニューがすでに表示されている場合は、ステップ3に進みます。

3

▲/▼ボタンを押してメインメニューを選ぶ

ジャンル（Genres）、地域（Location）、言語（Language)から選びます。

中止するには、◀ボタンを押します。

4

Enterボタンを押す

Xiva Internet Radio Service*のWebサイトに接続されます。

***Xiva Internet Radio Serviceとは**
多数あるインターネットラジオ局をリストアップし、情報を供給するサービスです。興味や音楽の好み、言語や地域別にインターネットラジオ局を検索し、お気に入りの放送局を見つけることができます。

Genresを選んだ場合
ジャンルメニューが表示されるまで少しお待ちください。ジャンルのメインリストが表示されたら、▲/▼ボタンで好きなジャンルを選びます。Enterボタンを押すとそのジャンルのサブリストが表示されますので、▲/▼ボタンで選びます。

Locationを選んだ場合
国名および地域名のリストが表示されます。▲/▼ボタンで選びます。

Languageを選んだ場合
言語リストが表示されます。▲/▼ボタンで選びます。
リストがない場合は、「No List」の表示が出ます。
◀ボタンを押すと、1つ前の手順に戻ります。

5

Enterボタンを押す

放送局のリストが表示されます。

6

▲/▼ボタンで放送局を選ぶ

◀ボタンを押すと、1つ前の手順に戻ります。

操作編

7

Enter（エンター）ボタンを押す

インターネットラジオ局に接続し、バッファリングを行います。

Buffering 90%

バッファリングが完了すると、放送が流れ始めます。

ご注意

- 本機ではxDSL回線やCATV回線によるブロードバンド接続を推奨しています。（56KモデムやISDNなどのナローバンドのダイアルアップ接続では、放送局によってはインターネットラジオが正常に受信できない場合があります。）
- 本体表示部の表示は▲/▼ボタンで切り換えることができます。
- 表示を切り換えたあと3秒間は表示モードが現れ、それぞれの情報がスクロールします。
- タイトル情報やアーティスト情報がないときは、「No Info（ノーインフォメーション）」と表示されます。OSD画面では、その情報をひとつの画面で見ることができます。

OSD

```
iNet Radio Station ONK
                    7ch
Title:
         Station ONK Live
Program:
         Station ONK Live
Artist:
         RealOnkyoNet.com
Data:
         WMA  20kbps
                   Tuned
```

表示部　Station ONK

インターネットラジオ局をプリセット（登録）する

最大30局までインターネットラジオ局をプリセットすることができます。

1 プリセットしたい放送局を受信する

2

▶ボタンを押す

プリセットモードになり、プリセット番号が約5秒間点滅します。

プリセット番号

Station ONK 10ch

3

Enterボタンを押す

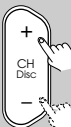
プリセットが完了します。

プリセットされたインターネットラジオ局を選ぶ

1

Scroll Wheel（スクロールホィール）を回して「IRD（インターネットラジオ）」を表示させる

Mode（モード）ボタンとInput（インプット）ボタンが点灯していないときに操作します。

2

CH/Disc（チャンネル ディスク）＋/－ボタンを押してプリセット局を選ぶ

プリセット局を選ぶと、まずその放送局表示が約5秒間表示され、その後バッファリング表示になります。

Station ONK

↓

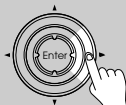
Buffering 90%

バッファリングが100%を表示すると、放送受信画面に変わります。

プリセットされたインターネットラジオ局を消去する

1 上記手順で消去したいプリセット局を選ぶ

2

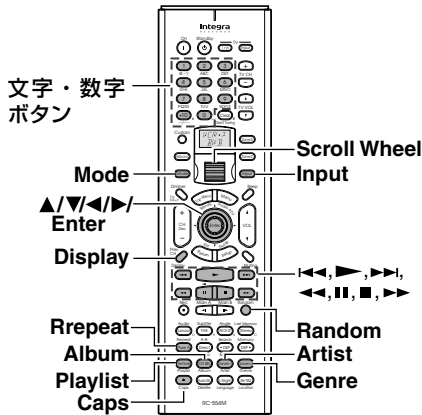
▶ボタンを押す

Station ONK 10ch

プリセット消去モードになります。

3

Enterボタンを押す

プリセット局の消去が完了します。

Net-Tune®サーバーに保存された音楽ファイルを再生する

Net-Tune®サーバーに保存した音楽ファイルをお楽しみいただくには、70ページ記載の必要なシステムとの接続が必要です。

1

Net-Tune®サーバーを起動する

ご注意

Net-Tune®サーバーが立ち上がるまでしばらくお待ちください。数十秒かかる場合もあります。

2

本機の電源を入れる

初めて本機をネットワークに接続したときは、ネットワークで最初に見つかったサーバーに接続します。

3

Scroll Wheelを回して「MSRV」を表示させる

ModeボタンとInputボタンが点灯していないときに操作します。
下の段にはNET-Tと表示されます。

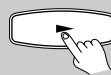
！ヒント

- 本機で操作するときは、Net Audioボタンを押します。前回、インターネットラジオで楽しんでいた場合は、もう一度同じボタンを押してください。サーバーに切り換わります。
- 本機がネットワークに接続し、サーバーを見つけ出して接続が完了するまでの間、「Network Starting…」、「Connecting…」などの表示が出ます。
- Net-Tune®サーバーに接続が完了すると、情報が読み込まれ、再生可能状態に切り換わります。

以下の表示が出た場合は

「No Track」
Net-Tune®サーバーからトラック情報を取得できませんでした。Net-Tune®サーバーに曲を登録してください。すでに登録している場合は、Display、Artist、Album、Genre、Playlistボタンで曲を選んでください。（☞76ページ）

「Disconnected」
ルータやNet-Tune®サーバー、本機との接続を確認してください。また、サーバーが立ち上がっていない、前に接続していたサーバーが見つからない、などの原因が考えられます。
Net-Tune®サーバーを立ち上げるか、Music Serverサブメニューの「Select Server」（☞77ページ）で他のサーバーを選んでください。

4

▶ボタンを押して再生を始める

通常、表示には5種類の表示があります。本体表示部で見るときは、▲/▼ボタンで選びます。

OSD

```
Music Server         Play

Track:  1/12       1m20s>
     My sweet candy
Album:
 My Best 100
Artist:
      Happy PanPot
Data:
      MP3  160kbps
```

表示部　1Tr　1m20s

再生を停止するには：
リモコンの■ボタンを押します。

再生を一時停止するには：
リモコンの❚❚ボタンを押します。

曲を選ぶには：
リモコンの⏮ / ⏭ボタンを押します。
⏭ボタンを押すと次の曲を選びます。
⏮ボタンを押すと、現在再生中の曲の頭へ、さらに押すとひとつ前の曲に戻ります。
数字ボタンで曲を選ぶこともできます。

例：
曲番3を選ぶには、数字ボタンの3を押します。
曲番10を選ぶには、左下のCapsボタンを押してから数字ボタンの1、0を押します。
曲番37を選ぶには、左下のCapsボタンを押してから数字ボタンの3、7を押します。
曲番123を選ぶには、左下のCapsボタンを2回押してから数字ボタンの1、2、3を押します。
曲番2568を選ぶには、左下のCapsボタンを3回押してから数字ボタンの2、5、6、8を押します。

早送り、早戻しをするには：
リモコンの▶▶ボタンを押し続けると早送りをします。
◀◀ボタンを押し続けると早戻しをします。曲の最初まで戻ると、通常再生が始まります。

再生曲リストを表示するには：
再生中に、❚❚ボタンを押すと、現在聞いているトラックリストが表示されます。

トラックリストの選択をする

Net-Tune®サーバーに保存した音楽ファイルのデータを利用して、曲を選ぶことができます。
たとえば、
- アルバム名から曲リストを選ぶ
- アーティスト名から曲リストを選ぶ
- ジャンル名から曲リストを選ぶ
- プレイリストを選ぶ

1

リモコンのAlbum（アルバム）、Artist（アーティスト）、Genre（ジャンル）、Playlist（プレイリスト）ボタンのいずれかを押す

Net-Tune®サーバーに入っている曲を、選んだモードで検索し表示します。

アーティスト、アルバムモードではアルファベット順に表示します。
次の手順でも同様の操作ができます。
1.Display（ディスプレイ）ボタンを押します。
2.カーソルの▲/▼ボタンで、Albums（アルバム）、Artists（アーティスト）、Genres（ジャンル）、Playlists（プレイリスト）のいずれかを選びます。
3.ENTER（エンター）ボタンを押します。

2

カーソルの▲/▼ボタンを押す

この表示の時にカーソルの◀ボタンを押すとひとつ前の手順に戻って他のモードを選び直すことができます。
また、ジャンル、アーティスト表示の時に▶ボタンを押すと、選んだジャンルやアーティストのアルバムリストを表示できます。
アルバム、アーティスト、プレイリスト表示の時には、文字・数字ボタンを使用すると便利です。

文字・数字ボタンの使い方

Caps

頭文字で検索することができます。Caps（キャップス）ボタンを押すごとに、大文字（A）→小文字（a）→数字（2）→カナ（ア）と切り換わります。
そのあと、文字・数字ボタンを押します。ここでは2ABCボタンの場合で説明します。

カナを選んだ場合：
2ABCボタンを押すごとにカ→キ→ク→ケ→コと切り換わります。

1	ア→イ→ウ→エ→オ	6	ハ→ヒ→フ→ヘ→ホ
2	カ→キ→ク→ケ→コ	7	マ→ミ→ム→メ→モ
3	サ→シ→ス→セ→ソ	8	ヤ→ユ→ヨ
4	タ→チ→ツ→テ→ト	9	ラ→リ→ル→レ→ロ
5	ナ→ニ→ヌ→ネ→ノ	0	ワ→ヲ→ン

アルファベット（大文字、小文字）を選んだ場合：
2ABCボタンを押すごとにA→B→C→Aと切り換わります。大文字で選んでも、小文字で選んでも、検索結果は同じです。

数字を選んだ場合：
押すと2で検索します。

途中で解除したい場合は：
カーソルの◀ボタンを押すと1つ前の手順に戻ります。手順１で◀ボタンを押すと、解除されます。

！ヒント

本体のDisplay（ディスプレイ）ボタンを押すと、現在のリスニングモードを表示します。

3

Enter（エンター）ボタンを押す

選んだ曲のタイトルを表示します。
他の曲を選びたい時はカーソルの▲/▼ボタンを押します。
カーソルの◀ボタンを押すと1つ前の手順に戻ります。
数字ボタンで、目的のリスト番号を選ぶこともできます。

4

Enterボタンを押す

演奏が始まります。

音楽ファイルを順不同に演奏する

停止中にリモコンのRandom（ランダム）ボタンを押す

リモコンのRandomボタンを押すと、現在のランダム設定を表示します。
ボタンを押すたびにOn ←→Off が切り換わります。

On（オン）：現在選んでいるモードの曲を順不同に演奏します。
Off（オフ）：ランダム演奏を解除します。
設定後、►（プレイ）ボタンを押します。

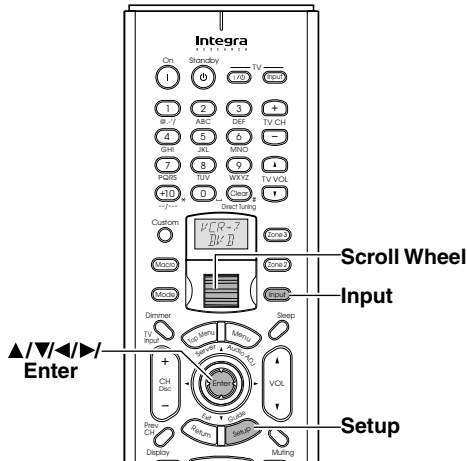
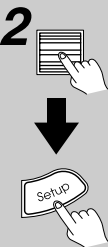
音楽ファイルをくり返し演奏する

リモコンのRepeat（リピート）ボタンを押す

リモコンのRepeat ボタンを押すと、現在のリピート設定を表示します。
ボタンを押すたびにRepeat（リピート）1 →All（オール）→Off（オフ）と切り換わります。

Repeat 1（一曲リピート）：現在選んでいる曲だけをくり返し演奏します。
Repeat All（全曲リピート）：現在選んでいるモードの曲をくり返し演奏します。
Repeat Off（リピート解除）：リピート演奏を解除します。
再生中、停止中ともに操作できます。

ミュージックサーバーの設定

入力ソースにミュージックサーバーを選んでいるときに、ミュージックサーバーの設定をします。

1

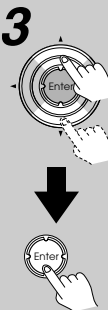
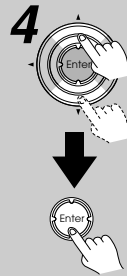
Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「MSRV」を表示させる

2

Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して、「メインメニュー」を表示させる

3

▲/▼ボタンを押して「Input Setup」を選び、Enterボタンを押す

4

▲/▼ボタンを押して「Music Server」サブメニューを選び、Enterボタンを押す

設定画面が表示されます。

5

▲/▼ボタンを押して「Select Server」を選び、◀/▶ボタンでサーバーを選ぶ

ネットワーク上に存在するミュージックサーバーを選びます。ネットワークで検出されたサーバーは頭に＊マークが付きます。

付いていない場合は、サーバーが検出されていないため、サーバーが起動しているかどうか確認してください。「Not Found」と表示されたときは、選択できるサーバーがないため、サーバーが正しく接続されているか、サーバーが起動しているか等を確認してください。

6

Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

!ヒント

本体の入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンでも操作することができます。

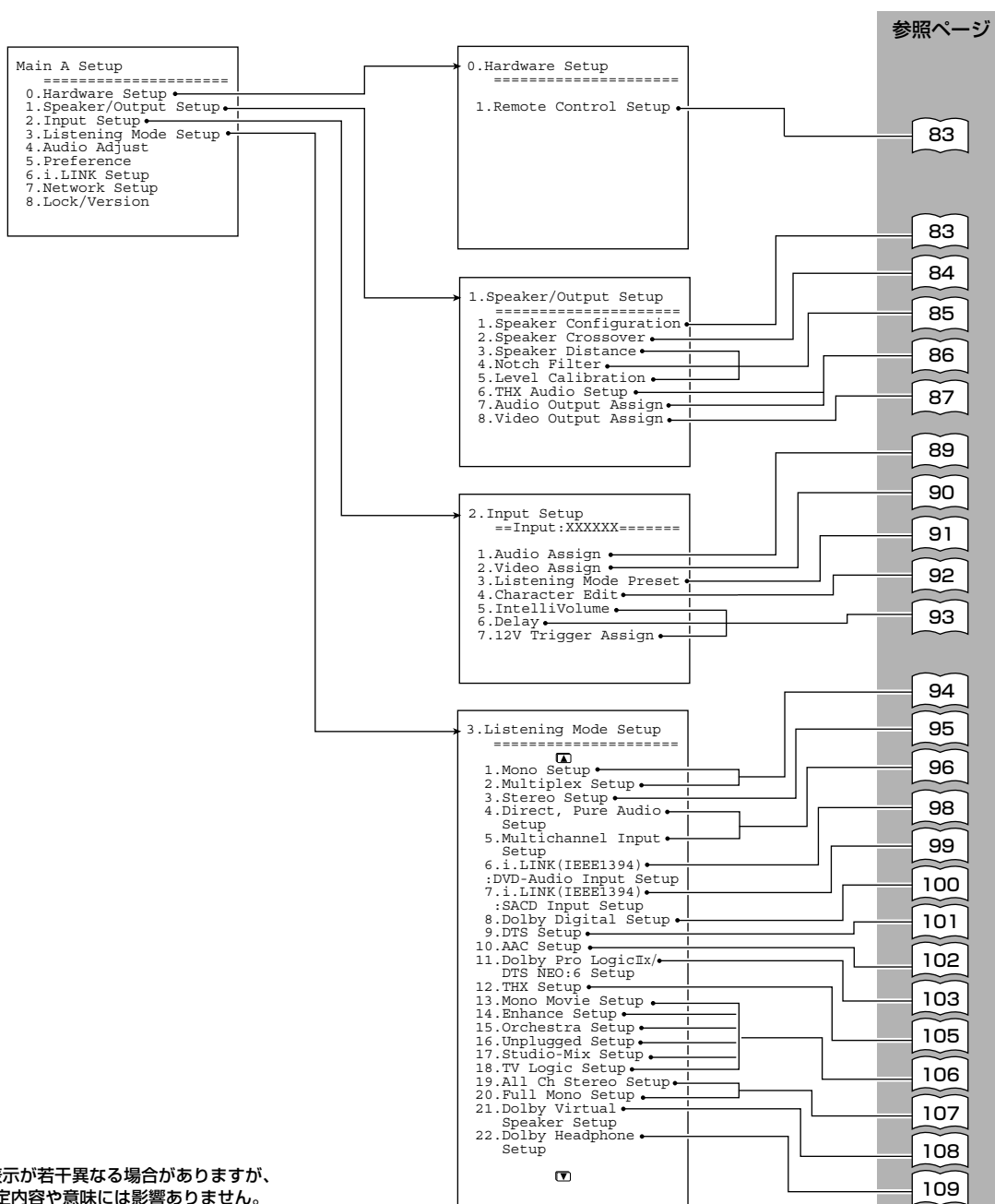
セットアップメニューを使う

OSDとはOn Screen Display（オン スクリーン ディスプレイ）の略で、本機の表示部に表示されるメニューや操作内容を接続したテレビなどのモニターに大きく表示して、操作をしやすくする機能です。

本機には、MAIN A（メインルームA用）/MAIN B（メインルームB用）/ZONE 2（ゾーン2ルーム用）の3つの独立した設定メニューがあり、それぞれの部屋に応じた設定をすることができます。各メニューには、用途に応じたサブメニューが配置されています。

なお、メニュー画面に表示される内容は、挿入しているボードや入力ソースの選択によって異なります。

操作のしかたについては82ページをご覧ください。

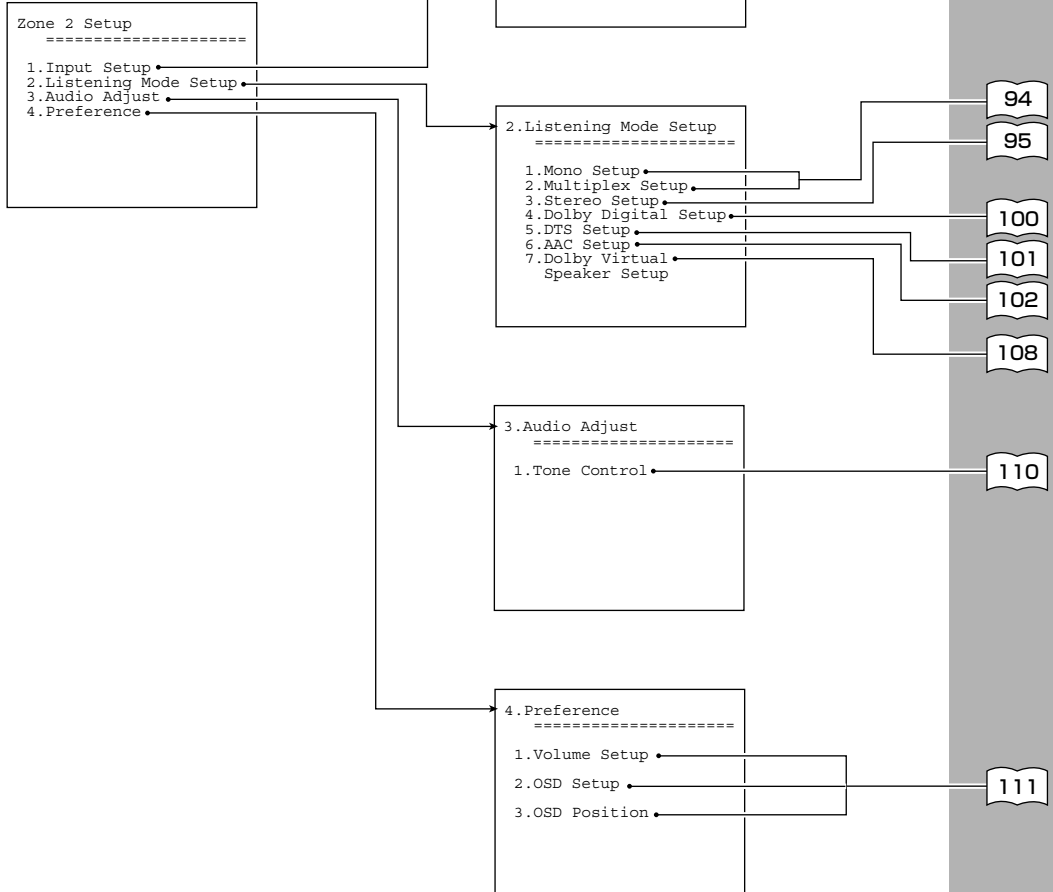
OSDマップ（MAIN A）

*表示が若干異なる場合がありますが、設定内容や意味には影響ありません。

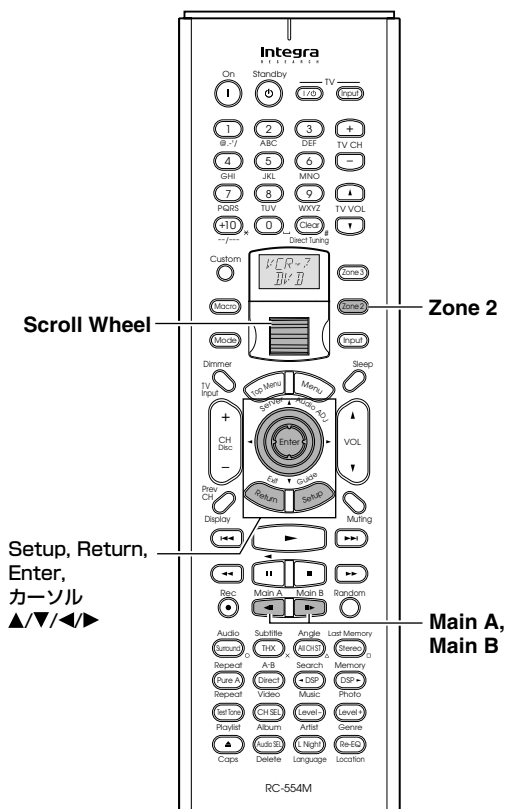
参照ページ
Main A Setup
=====================
0.Hardware Setup
1.Speaker/Output Setup
2.Input Setup
3.Listening Mode Setup
4.Audio Adjust
5.Preference
6.i.LINK Setup
7.Network Setup
8.Lock/Version
4.Audio Adjust
=====================
1.Tone Control
110
5.Preference
=====================
1.Volume Setup
2.Headphone Level Setup
3.OSD Setup
4.OSD Position
111
6.i.LINK Setup
=====================
1.Wakeup Setup
2.OSD for DVD
3.OSD for DVD (Zone 2)
4.System Control Setup
112
7.Network Setup
=====================
1.IP Address
2.Proxy
3.MAC Address
4.Client
→Save Settings
113
114
8.Lock/Version
=====================
1.Lock Setup
2.Firmware Version
114

OSDマップ（MAIN B）

OSDマップ（ZONE 2）

MAIN Aのセットアップメニューで次の設定をしたときにZONE 2の設定ができます。

- 「Speaker/Output Setup」→「Audio Output Assign」および「Video Output Assign」で、出力端子を「Zone 2 Out」に設定したとき

メニュー操作のしかた

本体の前面パネルまたはリモコンの操作ボタンで操作します。ここでは主にリモコンでの操作を説明しています。

1 リモコンのScroll Wheelを押す

AMPモードになります。

2 Main A、Main B、Zone 2ボタンのどれかを押して、設定する部屋を選ぶ

すでに有効になっている場合は、押す必要はありません。逆に解除されます。

3 Setupボタンを押す

モニターにメインメニューが表示されます。

4 ▲/▼ボタンを押して、設定したいメニューを選ぶ

5 Enterボタンを押す

選んだメニューが表示されます。

6 ▲/▼ボタンを押して設定したいサブメニューを選び、Enterボタンを押す

サブメニューの内容は、項目によって異なります。

▲/▼ボタンを押して項目を選び、◀/▶ボタンを押して設定を変更します。

7 Setupボタンを押して、終了する

続けて設定するには、Returnボタンを押します。

本体で操作する場合は、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enterボタンを使用します。また、Returnボタンの代わりにExitボタンを使います。

ハードウェア・セットアップ（Hardware Setup）

Remote Control Setupサブメニュー

Remote ID

インテグラリサーチ/オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作IDコードが重複してしまうことがあります。
他のインテグラリサーチ/オンキヨー製品と区別するために、リモコンIDを変更することができます。1～3のいずれかに設定してください。
リモコン側も本体と同じリモコンIDに設定する必要があります。お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。（☞129ページ「リモコンIDを変更する」）

ご注意

本体のSetup/▲/▼/◀/▶/Exitボタンで設定することをおすすめします。リモコンで設定すると、数字を変更した直後からリモコンの信号を受け付けなくなります。（リモコン側のリモコンIDを変更すると再び使えるようになります。）

スピーカーと出力に関する設定をする（Speaker/Output Setup）

本機では、スピーカー接続、スピーカー設定に多くのバリエーションを持つことができるため、それぞれの状況に応じたスピーカーセットアップが必要です。また、入力を切り換えたときに、接続しているAV機器が正しく選ばれるためには、それぞれの入力に対して音声出力と映像出力の割り当てをしなければなりません。この割り当てを間違えると、入力を選んでも、思っている機器が演奏されません。別冊の「設定メモ」を活用しながら、間違いのないようにセットアップしてください。

Speaker Configuration（スピーカー環境の設定）サブメニュー

スピーカーをどの部屋で使用するかを設定します。
メインルームＡの設定で行います。

ご注意

基本的にスピーカー本数の多い方をSpeaker Aとし、メインルームA用として設定してください。Speaker Aでセンタースピーカーやサラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーを接続しない（Speaker Aの設定で「Not Used」にする）場合は、Speaker Bに同様のスピーカーを接続しても設定できません。

（Speaker A）Front L/R

フロントスピーカーの設定は、最初からMain Aに固定されています。
Speaker AのFront L/Rに設定したスピーカーは、必ずメインルームＡに設置してください。

（Speaker A）Center、Surr L/R

Main A（初期設定）：センタースピーカーやサラウンドスピーカーをメインルームＡで使用するときにこの設定にします。

Not Used：センタースピーカーやサラウンドスピーカーを使用しないときにこの設定にします。

（Speaker A）Surr Back

Main A 2ch（初期設定）：メインルームＡにサラウンドバックスピーカーを2台接続して使用するときにこの設定にします。Surr L/Rで「Main A」を選択すると、この項目が設定できます。

Main A 1ch（SBL）：メインルームＡにサラウンドバックスピーカーを1台接続して使用するときにこの設定にします。Surr L/Rで「Main A」を選択すると、この項目が設定できます。

Bi-Amp for Front：メインルームＡに設置したフロントスピーカーに、フロントチャンネルとサラウンドバックチャンネルをバイアンプ接続して使用するときの設定です。（☞27ページ）

Not Used：サラウンドバックスピーカーを使用しないときにこの設定にします。

ご注意

Surr L/Rで「Not Used」を選択した場合、初期設定は「Not Used」になります。

（Speaker A） Subwoofer

Main A（初期設定）：メインルームＡでサブウーファーを使用するときにこの設定にします。

Not Used：メインルームＡでサブウーファーを使用しないときはこの設定にします。

（Speaker B）Front L/R

Main A：メインルームAで使用するときにこの設定にします。

Main B：メインルームBで使用するときにこの設定にします。

Not Used（初期設定）：使用しないときはこのままの設定にしておきます。

（Speaker B）Center

Main A：メインルームAで使用するときにこの設定にします。

Main B：メインルームBで使用するときにこの設定にします。ただし、（Speaker B）Front L/Rが「Main B」のときのみ選択ができます。

Not Used（初期設定）：使用しないときはこのままの設定にしておきます。

（Speaker B）Surr L/R

Main A：メインルームAで使用するときにこの設定にします。

Main B：メインルームBで使用するときにこの設定にします。ただし、（Speaker B）Front L/Rが「Main B」のときのみ選択ができます。

Not Used（初期設定）：使用しないときはこのままの設定にしておきます。

（Speaker B）Surr Back

Main A 2ch：メインルームＡにサラウンドバックスピーカーを2台接続して使用するときにこの設定にします。

Main A 1ch（SBL）：メインルームＡにサラウンドバックスピーカーを1台接続して使用するときにこの設定にします。

Main B 2ch：メインルームBにサラウンドバックスピーカーを2台接続して使用するときにこの項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Front L/RおよびSurr L/Rでともに「Main B」を選んでいなければ設定できません。

Main B 1ch（SBL）：メインルームBにサラウンドバックスピーカーを1台接続して使用するときにこの項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Front L/RおよびSurr L/Rでともに「Main B」を選んでいなければ設定できません。

Bi-Amp for Front：メインルームBに設置したフロントスピーカーに、フロントチャンネルとサラウンドバックチャンネルをバイアンプ接続して使用するときに（☞27ページ）（Speaker B）Front L/Rを「Main A」または「Main B」のどちらかに設定すると、この項目が設定できます。

Not Used（初期設定）：サラウンドバックスピーカーを使用しないときはこのままの設定にしておきます。

ご注意

（Speaker A）Surr Backが「Main A 1ch」の場合は、ここでは「Main A 2ch」および「Main B 2ch」を選択することはできません。

（Speaker B）Subwoofer

（Speaker B）Front L/Rを「Main A」または「Main B」のどちらかに設定すると、この項目が設定できます。

Main A：メインルームＡでサブウーファーを使用するときにこの設定にします。

Main B：メインルームBでサブウーファーを使用するときにこの設定にします。ただし、（Speaker B）Front L/Rが「Main B」のときのみ選択ができます。

Not Used（初期設定）：サブウーファーを使用しないときはこのままの設定にしておきます。

Speaker Configurationの設定が終了したら、後の設定は、メインルームA、メインルームB、ゾーン2の各部屋に対して行います。

Speaker Crossover（低音域の管理設定）サブメニュー

この項目は、Main Aだけでなく、Main Bでも設定できます。

Front L/R、Center、Surr L/R、Surr Back

各スピーカーから出力する低音域を、何Hzからサブウーファーから出力するかを設定します。
サブウーファーを使用していないときは、（Speaker A）Front L/Rが自動的に「Full Band」に固定され、各スピーカーから出力する低音域はフロントスピーカーから出力されます。その他のスピーカーを「Full Band」に設定することもできます。
40Hz～150Hzの間を10Hzステップで設定できます。
THX認証のスピーカーシステムを使用する場合は、**80Hz（THX）**（初期設定）の設定にします。

- フロントスピーカーを40～150Hzの間に設定した場合、その他のスピーカーで「Full Band」は選択できません。
- Speaker Configurationサブメニューで設定できなかった項目や「Not Used」の設定をした場合、そのスピーカー項目は表示されません。
- Speaker ConfigurationサブメニューでSurr Backを「Bi-Amp for Front」に設定した場合、サラウンドバックの項目は表示されません。

LPF of LFE（LFEのローパスフィルター設定）

LFE（Low Frequency Effect-低域効果音）のローパスフィルターを設定します。
ローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズはカットすることができます。
40Hz～150Hzの間を10Hzステップで設定できます。

スピーカーと出力に関する設定をする（Speaker/Output Setup）

SW Mode（Subwooferモード）

サブウーファー使用時（Speaker Configurationサブメニューの Subwooferが「Not Used」以外）で、しかも Speaker Crossoverサブメニューの Front L/Rを「Full Band」に設定した場合に、この項目が表示されます。サブウーファーから出力する音を次のどちらかに設定します。

LFE only：サブウーファーからは、LFE（低域効果音）成分のみを出力します。

D. Bass：サブウーファーからは、LFE（低域効果音）成分だけでなくフロントスピーカーの低音も出力します。

Speaker Distance（距離の設定）サブメニュー

視聴位置からスピーカーまでの距離を測定します。測定した距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にします。臨場感のあるホームシアターを楽しむために大切な設定です。この項目は、Main Aだけでなく、Main Bでも設定できます。操作のしかたについては82ページをご覧ください。

1. **まず「Unit」で単位を選びます。**「feet」と「meters」から選ぶことができます。初期値は仕向地により異なります。
2. **次に測った距離を設定します。**接続しているスピーカーすべてについて入力してください。

- Speaker Configurationサブメニューで設定できなかった項目や「Not Used」の設定をした場合、そのスピーカー項目は表示されません。
- Speaker ConfigurationサブメニューでSurr Backを「Bi-Amp for Front」に設定した場合、サラウンドバックの項目は表示されません。

「feet」を選んだ場合：
左フロント、センター、右フロント、サブウーファーは、1.0〜30.0ftの範囲で0.1ftステップで設定できます。初期値は12.0ftです。
右サラウンド、サラウンドバック（または左右サラウンドバック）、左サラウンドは、1.0〜30.0ftの範囲で0.1ftステップで設定できます。初期値は7.0ftです。

「meters」を選んだ場合：
左フロント、センター、右フロント、サブウーファーは、0.30〜9.00mの範囲で、0.03mステップで設定できます。初期値は3.60mです。
右サラウンド、サラウンドバック（または左右サラウンドバック）、左サラウンドは、0.30〜9.00mの範囲で0.03mステップで設定できます。初期値は2.10mです。

Notch Filter（ノッチフィルターの設定）サブメニュー

この設定には特殊な測定器が必要です。通常は初期設定の「Off」にしておいてください。
ノッチフィルターは、特定の周波数帯だけをカットし、他の周波数成分は通過させるフィルターです。部屋の環境（壁材や小さい部屋など）によっては、何かの特性により、ある低域の周波数が共振周波数でピークを生じ、いわゆるブーミーな音になります。そこでその帯域を減衰させるためにノッチフィルターをかけます。どの周波数でピークを生じているかを知るには、低周波発生器やSPLメーター（Sound Pressure Level Meter）を使用し、周波数およびノッチ値を調べる必要があります。

Notch Filter

Off（初期設定）：ノッチフィルターをかけないときはこの設定にしておきます。

On：ノッチフィルターをかけるときはこの設定にしておきます。

Frequency

Notch Filter（上記）の設定を「On」にしたとき、ここで選んだ周波数値でノッチフィルターが有効になります。
測定器で特定した20Hz〜300Hzの範囲を1Hzステップで設定できます。初期値は100Hzです。

Depth

Notch Filter（上記）の設定を「On」にしたとき、ここで選んだ値でノッチフィルターが有効になります。
−15〜0dBの範囲を0.5dBステップで設定できます。初期値は−10dBです。

Width

上記のFrequencyとDepthで入力した値をもとに、選択できる周波数幅を算出します。お好みで選んでください。

Level Calibration（スピーカーの音量レベル設定）サブメニュー

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。この設定は、部屋の形状やレイアウトの都合で左右のスピーカーをリスニングポイントから同じ距離に設置できない場合に必要です。この設定とSpeaker Distanceサブメニューの設定によって、適切な音場とダイナミクスを実現します。この項目は、Main Aだけでなく、Main Bでも設定できます。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているとき、マルチチャンネルを使用しているときは、設定できません。
- レベルキャリブレーション設定中は、主音量つまみは働きません。
- **本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB（Absolute Volume値の場合は82）で出力されます。通常お聞きになっている音量がこれより小さい場合は、突然大きな音になりますので、ご注意ください。**

1. 設定画面で「Level Calibration」を選択し、Enterボタンを押すと、Level Calibration画面に変わると同時にフロント（左）スピーカーからノイズが聞こえてきます。
2. フロントスピーカーを基準に、リモコンの ▲/▼ボタンでスピーカーを選び、◀/▶ボタンで音量を設定します。サウンドプレッシャーレベルメーター（SPL）をご使用になる場合は、C-weightingおよびSlow averagingに設定してください。また、チャンネルごとにSPLの値が75dBになるように調整してください。接続しているすべてのスピーカーの設定をしたら終了です。

設定の方法については82ページをご覧ください。

−12dB〜＋12dBの範囲で0.5dBステップで設定できます。サブウーファーは、−15dB〜＋12dBの範囲で0.5dBステップで設定できます。

- Speaker Configurationサブメニューで設定できなかった項目や「Not Used」の設定をした場合、そのスピーカー項目は表示されません。
- Speaker ConfigurationサブメニューでSurr Backを「Bi-Amp for Front」に設定した場合、サラウンドバックの項目は表示されません。

THX Audio Setupサブメニュー

THX Ultra2準拠のスピーカーシステムでホームシアターをする場合の設定です。THX Ultra2 CinemaやTHX Music Modeのリスニングモードで聞くときに、ここでの設定が効果を発揮します。この項目は、Main Aだけでなく、Main Bでも設定できます。

THX Ultra2 Subwoofer A/ THX Ultra2 Subwoofer B

ご使用になるサブウーファーの設定です。

Yes：THX Ultra2規格に準拠しているか、もしくは低域の再生能力が20Hzまで伸びている場合。

No（初期設定）：上記以外のサブウーファーの場合。

- Speaker Configurationサブメニューで設定できなかった項目や「Not Used」の設定をした場合、そのスピーカー項目は表示されません。

Boundary Gain Compensation A/ Boundary Gain Compensation B

境界利得補正の設定です。
THX Ultra2 Subwoofer（上記）の設定を「Yes」にしたときに、この項目が設定できます。
部屋の境界（壁）やその他の特性（壁の構造など）により、低周波数域で聴感レベルが増加する場合があり、視聴位置とサブウーファーの位置によっては、低音域が強調されすぎる可能性があります。
この機能は、壁などに起因する利得によって強調された低音を補正し、聴感レベルをフラットにする働きがあります。

On：補正を有効にします。

Off（初期設定）：補正を無効にします。

Distance Between Surr Back A SP/ Distance Between Surr Back B SP

Speaker Configurationサブメニューで「Main 2ch」の設定にしているときだけの設定です。
2つのサラウンドバックスピーカーをできるだけ間隔をあけずに配置し、その距離を測って設定します。（図を参照ください。）THXのASA*テクノロジーにより、最大の効果を発揮します。

* ASA（Advanced Speaker Array）：アドバンスト・スピーカー・アレー

0-1ft（0-0.3m）（初期設定）：スピーカー間の距離が0〜1ft（0〜30cm）のときの設定です。

1-4ft（0.3-1.2m）：スピーカー間の距離が1〜4ft（30cm〜1.2m）のときの設定です。

> 4ft（> 1.2m）：スピーカー間の距離が4ft（1.2m）以上のときの設定です。

Audio Output Assign（音声出力の割り当て）サブメニュー

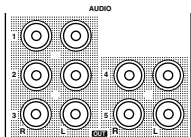
本機の音声出力端子を入力（再生）ソースに割り当てます。接続に応じて設定は異なります。
本機にはアナログ出力端子は5系統あり、デジタル出力端子は光端子（OPT）が2系統と同軸端子（COAX）が2系統あります。アナログ端子の設定を「Zone 2 Out」や「Zone 3 Out」にしたときは、出力を可変にするか一定にするかを設定することもできます。

初期設定は次のようになっています。

端子	初期設定で割り当てられられている入力
Analog 1 (AUDIO OUT 1)	Video 1 Rec Out
Analog 2 (AUDIO OUT 2)	Video 2 Rec Out
Analog 3 (AUDIO OUT 3)	Video 3 Rec Out
Analog 4 (AUDIO OUT 4)	Zone 2 Out
Analog 5 (AUDIO OUT 5)	Zone 3 Out
Opt 1 Out (DIGITAL OUT OPTICAL 1)	Tape 1 Rec Out
Opt 2 Out (DIGITAL OUT OPTICAL 2)	Tape 2 Rec Out
Coax 1 Out (DIGITAL OUT COAXIAL 1)	Video 1 Rec Out
Coax 2 Out (DIGITAL OUT COAXIAL 2)	Zone 2 Out

Analog 1〜5

アナログ音声出力端子「AUDIO OUT 1〜5」の設定を行います。
Tape 1 Rec Out、Tape 2 Rec Out、Video 1 Rec Out、Video 2 Rec Out、Video 3 Rec Out、Zone 2 Out、Zone 3 Out、Not Usedの中から選ぶことができます。

 設定の方法については82ページをご覧ください。

スピーカーと出力に関する設定をする（Speaker/Output Setup）

例1）
入力ソースがTape 1の録音機器（たとえばカセットデッキ）の入力（REC）をAUDIO OUT 1に接続した場合は、Analog 1の設定を「Tape 1 Rec Out」にします。

例2）
入力ソースがVideo 1の録画機器（たとえばVCR）の音声入力をAUDIO OUT 2に接続した場合は、Analog 2の設定を「Video 1 Rec Out」にします。

例3）
ゾーン2用のアンプをAUDIO OUT 5に接続した場合は、Analog 5の設定を「Zone 2 Out」にします。

使用しない（何も接続しない）場合：「Not Used」を選択します。

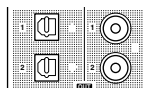
Zone 2 Out、Zone 3 Out

前述のAnalog1～5の設定で「Zone 2 Out」または「Zone 3 Out」を設定したときにこの項目が表示されます。初期設定は、Zone 2 Outが「Pre Out（variable）」で、Zone 3 Outが「Line Out（fixed）」です。

Pre Out（variable level）：ゾーン2やゾーン3に接続した機器への出力を可変に設定したいときに選択します。ゾーン2またはゾーン3の機器の音量は本機で操作します。

Line Out（fixed level）：ゾーン2やゾーン3に接続した機器への出力を一定にしたいときに選択します。ゾーン2またはゾーン3の機器の音量は、端子に接続したアンプで操作します。

Opt 1 Out、Opt 2 Out、Coax 1 Out、Coax 2 Out

デジタル音声出力端子（DIGITAL OUT OPTICAL 1～2とDIGITAL OUT COAXIAL 1～2）の設定を行います。
Tape 1 Rec Out、Tape 2 Rec Out、Video 1 Rec Out、Video 2 Rec Out、Video 3 Rec Out、Zone 2 Out、Zone 3 Out、Not Usedの中から選ぶことができます。

例1）
入力ソースがTape 2の録音機器（たとえばMDレコーダー）の入力（REC）をDIGITAL OUT OPTICAL 1に接続した場合は、Opt 1 Outの設定を「Tape 2 Rec Out」にします。

例2）
入力ソースがVideo 2の録画機器（たとえばDVDレコーダー）の入力（IN）をDIGITAL OUT OPTICAL 2に接続した場合は、Opt 2 Outの設定を「Video 2 Rec Out」にします。

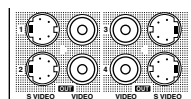
使用しない（何も接続しない）場合：「Not Used」を選択します。

HDMI Out

HDMI端子のボード［L］が挿入されているときにこの項目が表示されます。
HDMI端子から音声出力をする／しないの設定ができます。テレビのHDMI入力端子と接続していて、テレビのスピーカーから本機のHDMI音声を出力させたいときなどに設定します。通常はDisableにしておいてください。

Disable（初期設定）：出力しません。
Enable：出力します。

Video Output Assign（映像出力の割り当て）サブメニュー

ビデオ端子のボード[H][I]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。
本機の映像出力端子を入力（再生）ソースに割り当てます。接続に応じて設定は異なります。
本機にはコンポジットのビデオ出力端子が4系統、Sビデオ出力端子が4系統あります。

初期設定は次のようになっています。

端子	初期設定で割り当てられている入力
Composite Video 1 (VIDEO OUT 1)	Monitor Out B
Composite Video 2 (VIDEO OUT 2)	Zone 2 Out
Composite Video 3 (VIDEO OUT 3)	Zone 3 Out
Composite Video 4 (VIDEO OUT 4)	Monitor Out A（固定）
S Video 1 (S VIDEO OUT 1)	Video 1 Rec Out
S Video 2 (S VIDEO OUT 2)	Video 2 Rec Out
S Video 3 (S VIDEO OUT 3)	Video 3 Rec Out
S Video 4 (S VIDEO OUT 4)	Monitor Out A（固定）

Composite Video 1～3、S Video 1～3

コンポジットのビデオ出力端子（VIDEO OUT 1～3）およびSビデオ出力端子（S VIDEO OUT 1～3）の設定です。
Composite Video 1～3は、Monitor Out A、Monitor Out B、Video 1 Rec Out、Video 2 Rec Out、Video 3 Rec Out、Zone 2 Out、Zone 3 Out、Not Usedの中から選ぶことができます。

- Zone 2 Out、Zone 3 Outは、前述のAudio Output Assignサブメニューで「Zone 2 Out」、「Zone 3 Out」が選択されている場合のみ、設定できます。

S Video 1～3は、Monitor Out A、Monitor Out B、Video 1 Rec Out、Video 2 Rec Out、Video 3 Rec Out、Not Usedの中から選ぶことができます。

例1）
入力ソースがVideo 1の録画機器（たとえばVCR）の映像端子をVIDEO OUT 2に接続した場合は、Composite Video 2の設定を「Video 1 Rec Out」にします。

例2）
テレビをVIDEO OUT 3に接続してメインルームAで見たい場合は、Composite Video 3の設定を「Monitor Out A」にします。

使用しない（何も接続しない）場合：「Not Used」を選択します。

Composite Video 4、S Video 4

コンポジットのビデオ出力端子（VIDEO OUT 4）とSビデオ出力端子（S VIDEO OUT 4）は、Monitor Out Aに固定されており変更できません。メインルームAで使用するテレビやプロジェクターはVIDEO OUT 4またはS VIDEO OUT 4に接続してください。

設定の方法については82ページをご覧ください。

入力の設定をする（Input Setup）

入力切換ボタンを押したときの設定です。
本機は、音声用端子、映像用端子ともにいろいろな種類の端子を複数個ずつ用意しており、これらの端子にCD、PHONO、TUNER、TAPE1、TAPE2、VIDEO1～6それぞれの入力を自由自在に割り当てることができます。
また、リスニングモードのプリセット、表示されるときの名前の登録、他の入力との音量差の補正、音の遅延調整、12Vトリガーの設定などをしておくことができます。
入力端子の設定は特に慎重に行ってください。演奏するときに映像や音声が正しく選ばれるように、別冊の設定メモを利用するなどして、間違いのないように設定してください。
また、NET AUDIOの場合は、サーバーの設定ができます。（☞90ページ）

初期設定は次のようになっています。ただし、使用しているオプションボードにより異なる場合があります。

		Audio Assign（音声入力の割り当て）				Video Assign（映像入力の割り当て）			
	OSD表示	Analog Audio（アナログ）	Multichannel（マルチチャンネル）	Digital Audio（デジタル）	i.LINK	Composite Video（コンポジット）	S-Video（Sビデオ）	Component Video（コンポーネント）	HDMI
	設定する端子名	AUDIO IN	MULTI-CH	DIGITAL IN	i.LINK	VIDEO IN	S VIDEO IN	COMPONENT VIDEO IN	HDMI IN
入力ソース名（Input Selector）	Net Audio	No	No	No	No	Last	Last	Last	Last
	CD	1	2	Opt 2	No	Last	Last	Last	Last
	Phono	Phono	No	No	No	Last	Last	Last	Last
	Tuner	No	No	Coax 6	No	Last	Last	Last	Last
	Tape 1	2	No	Opt 3	No	Last	Last	Last	Last
	Tape 2	3	No	Coax 1	No	Last	Last	Last	Last
	DVD	4	1	Opt 1	No	1	1	RCA 1	HDMI 1
	Video 1	5	No	Coax 2	No	2	2	RCA 2	HDMI 2
	Video 2	6	No	Coax 3	No	3	3	RCA 3	Video
	Video 3	7	No	Opt 4	No	4	4	RCA 4/BNC/NO	Video
	Video 4	8	No	Opt 5	No	5	No	D4 1/NO	Video
	Video 5	9	No	Coax 4	No	6	No	D4 2/NO	Video
	Video 6	No	No	Coax 5	No	No	5	No	Video
	Video 7	No	No	Opt 6	No	No	6	No	Video

設定を変える場合は下記の手順で行います。

1 **Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、設定する入力ソースを選ぶ**

2 **Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押す**
メインメニューが表示されます。

3 **▲/▼ボタンを押して「Input Setup」を選び、Enterボタンを押す**
サブメニューが表示されます。

```
2.Input Setup
   ==Input:XXXXXX=======

 1.Audio Assign
 2.Video Assign
 3.Listening Mode Preset
 4.Character Edit
 5.IntelliVolume
 6.Delay
 7.12V Trigger Assign
```

4 **▲/▼ボタンを押して設定したい項目を選び、◀/▶ボタンを押して設定する内容を選ぶ**

5 **Returnボタンを押す**
サブメニューに戻ります。

6 **手順4～5を繰り返し行い、設定したい項目を順番に設定する**

7 **Setupボタンを押す**
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント
本体で設定する場合は、入力切換ボタン、Setupボタン、▲/▼/◀/▶ボタン、Enter、Exitボタンで操作します。

例1
DVDレコーダーをVIDEO 1の入力に割り当てる設定で、アナログ音声入力をVIDEO 1、デジタル音声をCOAXIAL 2、映像をS VIDEO 2とCOMPONENT 2に接続している場合は、次のように設定します。

1） Inputボタンを押してからScroll Wheelを回して、「VIDEO 1」を選ぶ
2） Scroll Wheelを押してからSetupボタンを押して「メインメニュー」を表示させる
3） ▲/▼ボタンを押して「Input Setup」を選び、Enterボタンを押す
4） ▲/▼ボタンを押してサブメニューから「Audio Assign」を選び、Enterボタンを押す
5） ▲/▼ボタンを押して「Analog Audio」を選び、◀/▶ボタンを押して「1」を選ぶ
6） ▲/▼ボタンを押して「Digital Audio」を選び、◀/▶ボタンを押して「Coax 2」を選ぶ
7） Returnボタンを押してサブメニューに戻る
8） ▲/▼ボタンを押して「Video Assign」を選び、Enterボタンを押す
9） ▲/▼ボタンを押して「S-Video」を選び、◀/▶ボタンを押して「2」を選ぶ
10） ▲/▼ボタンを押して「Component Video」を選び、◀/▶ボタンを押して「RCA 2」を選ぶ
11） Setupボタンを押す
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

Audio Assignサブメニュー（入力がNET AUDIO以外の場合）

音声に関する設定です。入力が「NET AUDIO」の場合は次の項目をご覧ください。

Analog Audio

アナログ音声に関する設定です。

Phono：AUDIO IN PHに接続している機器を選択します。

1〜9：AUDIO IN 1〜9の端子に接続している機器を選択します。

No：接続していない場合に選択します。

Multichannel

マルチチャンネル端子のボード[E]が挿入されているときにこの項目が表示されます。また、マルチチャンネル端子が一系統の場合は、「1」もしくは「No」からの選択となります。

1：MULTI-CH IN 1端子に接続している機器を選択します。

2：MULTI-CH IN 2端子に接続している機器を選択します。

No：接続していない場合に選択します。

Surr Back Channel

マルチチャンネル端子のボード[E]が挿入されているときにこの項目が表示されます。
サラウンドバックチャンネルは、前項のマルチチャンネル1または2に対して設定します。入力ごとには設定できません。たとえば、CD入力でマルチチャンネル1のサラウンドバックチャンネルを「Not Used（5.1ch）」に設定した後に、DVD入力でマルチチャンネル1のサラウンドバックチャンネルを「SBL/SBR（7.1ch）」に設定すると、CD入力でのマルチチャンネル1のサラウンドバックチャンネルも「SBL/SBR（7.1ch）」に切り換わります。

Not Used（5.1ch）： サラウンドバックを使用しない場合

SBL/SBR（7.1ch）（初期設定）：サラウンドバックを使用する場合

Subwoofer Sensitivity

マルチチャンネル端子のボード[E]が挿入されているときにこの項目が表示されます。
この設定も、「Multichannel1」または「2」に対して設定します。（入力ごとには設定できません。）
DVDによっては、マルチチャンネル出力時にLFEチャンネルが−15dBで出力されるものがあり、このときLevel Calibrationで設定すると、アナログ入力やデジタル入力などすべてに反映されるため、マルチチャンネル入力時のみレベルを上げることができます。
0（初期設定）、+5、+10、+15 dBから選択できます。

Digital Audio

デジタル音声出力に関する設定です。

Opt1〜Opt6：「DIGITAL IN OPTICAL1〜6」に接続している機器を選択します。

Coax1〜Coax6：「DIGITAL IN COAXIAL1〜6」に接続している機器を選択します。

AES/EBU：「DIGITAL IN （BALANCED） AES/EBU」端子に接続している機器を選択します。AES/EBU端子のあるボード[E]が挿入されているときに選択できます。

No：接続していない場合に選択します。

Digital Format

デジタル接続をしているとき、優先して検出を行うデジタル信号を設定しておくことができます。Audio Assignサブメニューの Digital Audioを「No」に設定している場合は、この項目は表示されません。

Auto：入力信号のフォーマットを自動的に検出します。選択したソースが使用する信号フォーマット（ドルビーデジタル、DTS、PCM、AACなど）が自動的に検出され、必要なデコード処理が行われます。

DTS：DTSのデコード処理を行うとき。「Auto」を選んだときに信号読み取り時間の長さが気になる場合や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択します。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

PCM：PCMのデコード処理を行うとき。「Auto」を選んだときに曲間での頭切れが気になる場合などに選択します。PCM 以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

i.LINK

i.LINK（AUDIO）端子のボード[A]が挿入されているときにこの項目が表示されます。
複数の機器をi.LINK（AUDIO）端子を使ってじゅずつなぎに接続している場合、それらの機器の名前をカーソルで選ぶことができます。ここで設定しておくと、その機器を優先して再生機器として選択します。

No：入力信号として選択しない場合に選択します。

Music Serverサブメニュー（入力がNET AUDIOの場合）

ネットオーディオ用イーサネット端子のボード[B]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。

Select Server

入力にNET AUDIOのミュージックサーバーを選んだ場合、接続するサーバーを設定しておくことができます。（☞77ページ）

Video Assign（映像入力の割り当て）サブメニュー

映像に関する設定です。
ビデオ端子のボード[H] [I]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。

Composite Video

1〜6：VIDEO IN 1〜6端子に接続している機器を選択します。

Last：直前に選んでいた機器の映像をそのまま継続したい場合に選択します。

No：接続していない場合に選択します。

S-Video

1〜6：S VIDEO IN 1〜6端子に接続している機器を選択します。

Last：直前に選んでいた機器の映像をそのまま継続したい場合に選択します。

No：接続していない場合に選択します。

Component Video

RCA 1〜4：COMPONENT VIDEO IN 1〜4端子に接続している機器を選択します。RCA 4は、ビデオ端子のボード[J]にRCAタイプのCOMPONENT VIDEO IN 4端子があるときに選択できます。

BNC：BNCタイプのCOMPONENT VIDEO IN端子に接続している機器を選択します。ビデオ端子のボード[J]にBNCタイプのCOMPONENT VIDEO IN端子があるときに選択できます。

D4 1〜4：D4 IN 1〜4端子に接続している機器を選択します。「D4 1」、「D4 2」は、D端子のボードをスロット[K]に挿入しているとき選択できます。「D4 3」、「D4 4」は、D端子のボードをスロット[J]に挿入しているとき選択できます。

Last：直前に選んでいた機器の映像をそのまま継続したい場合に選択します。

No：接続していない場合に選択します。

HDMI

HDMI端子のボード[L]が挿入されているときにこの項目が表示されます。

1：HDMI IN 1端子に接続している機器を選択します。また、同時にHDMI OUT端子へもHDMI IN 1端子に接続した機器の映像を出力します。

2：HDMI IN 2端子に接続している機器を選択します。また、同時にHDMI OUT端子へもHDMI IN 2端子に接続した機器の映像を出力します。

Video：この設定にしておくと、HDMI OUT端子へはコンポジットビデオ、Sビデオ、コンポーネントビデオの信号が出力されます。

Last：直前に選んでいた機器の映像をそのまま継続したい場合に選択します。

No：接続していない場合に選択します。

Listening Mode Presetサブメニュー

よく使うリスニングモードを入力ソースごとに設定しておくことができます。
たとえば、お気に入りで何度も見る映画がドルビーデジタルソースのときは「Dolby Digital」と設定しておき、クラシックのCDがPCMの場合は「Pure Audio」に設定しておく、などができます。
「Last」を選択すると、次に同じソースを聞くときに前回の設定と同じリスニングモードになります。

- Speaker ConfigurationサブメニューでSurr Backを「Bi-Amp for Front」または「Not Used」にした場合は、選択肢の「PLIIx」は「PLII」になります。
- Speaker ConfigurationサブメニューでSurr L/Rを「Not Used」にした場合は、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logicは選択できません。
- Speaker ConfigurationサブメニューでCenterとSurr L/Rの両方を「Not Used」にした場合は、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Monoは選択できません。

Analog/PCM

CDなどのPCM信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

(Main A/B)
Pure Audio、Direct、Stereo（初期設定）、Mono、PLIIx/Neo:6、THX、Mono Movie、Enhance Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

(Zone 2)
Direct、Stereo、Mono、Dolby VS、Last

Dolby Digital

ドルビーデジタル信号を再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

(Main A/B)
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、Dolby Digital（初期設定）、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

(Zone 2)
Direct、Stereo、Mono、Dolby VS、Last

DTS

DTS信号を再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

(Main A/B)
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、DTS（初期設定）、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

(Zone 2)
Direct、Stereo、Mono、Dolby VS、Last

AAC

AAC信号を再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

(Main A/B)
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、AAC（初期設定）、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

(Zone 2)
Direct、Stereo、Mono、Dolby VS、Last

i.LINK（IEEE1394）：DVD AUDIO

i.LINK（AUDIO）端子のボード[A]が挿入されているときにこの項目が表示されます。
i.LINK（AUDIO）端子に接続された機器でDVDオーディオを再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。

(Main A/B)
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、DVD-Audio（初期設定）、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

i.LINK（IEEE1394）：SACD

i.LINK（AUDIO）端子のボード[A]が挿入されているときにこの項目が表示されます。
i.LINK（AUDIO）端子に接続された機器でスーパーオーディオCDを再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。

(Main A/B)
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、SACD（初期設定）、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

D.F.2ch

2チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

(Main A/B)
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、PLIIx/Neo:6（初期設定）、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

(Zone 2)
Direct、Stereo、Mono、Dolby VS、Last

設定の方法については88ページをご覧ください。

D.F.Mono

モノラルで記録されたドルビーデジタル、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

（Main A/B）
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono（初期設定）、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

（Zone 2）
Direct、Stereo、Mono、Dolby VS、Last

D.F.Multiplex

AACの音声多重放送（二ヶ国語放送など）のときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

（Main A/B）
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、Multiplex（初期設定）、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

（Zone 2）
Direct、Stereo、Mono、Multiplex、Dolby VS、Last

Multichannel

マルチチャンネル端子のボード[E]が挿入されているときにこの項目が表示されます。
アナログマルチチャンネル接続をしているときのリスニングモードを次のモードから選択することができます。

（Main A/B）
Pure Audio、Direct、Stereo、Mono、Multichannel（初期設定）、THX、Mono Movie、Enhance、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo、Full Mono、Dolby VS、Last

176.4/192kHz

DVDオーディオなどの192kHzや176.4kHzの音声出力信号を再生するときのリスニングモードを、次のモードから選択することができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

（Main A/B）
Pure Audio、Direct、Stereo、Last

（Zone 2）
Direct、Stereo、Last

Character Edit（文字の編集）サブメニュー

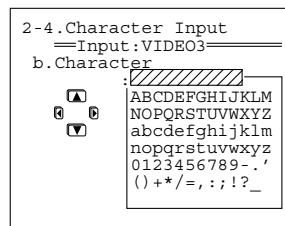
Character Display

入力ソースにつけた名前を表示するかどうかの設定です。

Yes（初期設定）：入力を切り換えたとき、名前を表示します。

No：名前は表示しません。入力ソース名を表示します。

Character

上記のCharacter Displayで設定を「Yes」にしたとき、入力ソースに名前をつけることができます。
10文字までの文字を入力できます。
Character Input画面で、次のように操作してください。

1 ▼ボタンを押して「Character」を選び、▶ボタンを押して文字入力画面へ進む

2 ▲/▼/◀/▶ボタンを押して入力したい文字を選び、Enterボタンを押す

3 手順2を繰り返し、10文字まで入力する

文字を間違えた場合は：
Returnボタンを押して、ひとつ前の文字に戻ります。

文字を訂正するには：
1） Enterボタンを（繰り返し）押して、訂正する文字を選ぶ
2） ◀/▶ボタンで正しい文字を選び、Enterボタンを押す

10文字に満たない場合は＿（空白）を入力し、10文字にしてください。

4 Setupボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

入力された文字をすべて消去するには：
手順1で▶ボタンを押さずに◀ボタンを押します。

IntelliVolume（機器間の音量差を減らす）サブメニュー

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。
その音量差を減らすことで、同じボリューム位置のまま同じ音量で各機器をお楽しみいただけます。

IntelliVolume

他の機器と比べて音量が大きい場合は◀ボタン、小さい場合は▶ボタンを押して調整します。
－12.0～＋12.0dBの範囲を0.5dBステップで設定できます。初期設定は0.0dBです。

Delay（遅延調整）サブメニュー

映像が音声より遅れている場合や、音場の微調整のために、音の遅延調整ができます。

A/V Sync

映像が音声より遅れている場合、この設定で音声を遅らせ、同期を一致させることができます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。
0.0～300.0msの範囲を0.1msステップで調整できます。初期設定は0.0msです。

Relative Delay-Center、Surr L/R、Surr Back

当社独自の「エンハンスド･スペシャル･ポジショニング・アルゴリズム（拡張三次元配置アルゴリズム）」で音場の微調整を行います。各スピーカー出力に対して最大10msの時間差をつけることができます。これは、スピーカー間の位置を約3メートル変えることに相当します。この項目は、Main Aだけでなく、Main Bでも設定できます。

- Speaker Configurationサブメニューでセンターを「Not Used」にした場合、センターの設定はありません。同様に、左右サラウンドを「Not Used」にした場合、サラウンドバックを「Bi-Amp for Front」または「Not Used」にした場合も、該当するスピーカーの設定はありません。

－10.0～＋10.0msの範囲を0.1msステップで調整できます。初期設定は0.0msです。
スピーカーの距離設定（☞85ページ）、音量設定（☞85ページ）をしてから、この機能でサラウンド環境を微調整してください。スピーカー間の距離を広げる（時間差を大きくする）と音場が広がり、距離を縮める（時間差を小さくする）と音場をシャープにすることができます。

12V Trigger Assignサブメニュー

本機の12V TRIGGER OUT端子を接続している機器の12V TRIGGER IN端子に接続しているとき、どの部屋で使うときに電源をオンさせるのかを設定します。接続については、44ページをご覧ください。
初期設定は次のようになっています。

	部屋の設定	delay
Trigger A	Main	0
Trigger B	Zone 2	1
Trigger C	Zone 3	2
Trigger D	Off	0
Trigger E	Main	2

Trigger A～E

12Vトリガー端子A～Eの設定です。
Off：12Vトリガーを使用しない
Main：接続している機器をメインルームで使用するときだけ電源オンさせたい場合
Zone2：接続している機器をゾーン2で使用するときだけ電源オンさせたい場合
Zone3：接続している機器をゾーン3で使用するときだけ電源オンさせたい場合
Main/Zone2：接続している機器をメインルームまたはゾーン2で使用するときだけ電源オンさせたい場合
Main/Zone3：接続している機器をメインルームまたはゾーン3で使用するときだけ電源オンさせたい場合
Zone2/Zone3：接続している機器をゾーン2またはゾーン3で使用するときだけ電源オンさせたい場合
Main/Zone2/Zone3：接続している機器をメインルーム、ゾーン2、ゾーン3のどの部屋で使用するときでも電源オンさせたい場合

A delay ～ E delay

12Vトリガー接続をしている機器の電源が入るときに、機器によっては瞬間的に大容量の電流が流れる場合があります。これを防ぐため、本機からの12Vトリガーの信号出力に時間差をつけることができます。
また、パワーアンプの電源入力を遅らせることで、不要なノイズ（ボコ音など）を避けることができます。
0 sec（秒）：本機の電源に連動して、同時に接続機器を電源オンにする場合
1 sec（秒）：本機の電源入力から1秒後に、接続機器を電源オンにする場合
2 sec（秒）：本機の電源入力から2秒後に、接続機器を電源オンにする場合
3 sec（秒）：本機の電源入力から3秒後に、接続機器を電源オンにする場合

リスニングモードの設定をする（Listening Mode Setup）

リスニングモードの音響効果や再生する環境を設定しておくことができます。

Mono Setup（モノ音声の環境設定）サブメニュー

リスニングモードを「Mono」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。

a. Re-EQ/Academy

高音が強調されすぎないように、Re-EQ効果やAcademy効果をかけるかどうかを設定します。この項目はゾーン2でも設定できます。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

Re-EQ On：高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

Academy On：古いモノラル映画がそのままビデオに転送された場合など、高音が強調されたヒスノイズの多い音に対してフィルターをかけて高音を下げます。

b. Input Channel

ステレオ音声を「Mono」で再生するときの出力方法を設定します。この項目はゾーン2でも設定できます。

Auto L+R（初期設定）：左右フロントスピーカーからそれぞれ同じ音声が出力されます。

Left：左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ異なる言語が記録されたソースを再生する場合、左チャンネルの音声を左右フロントスピーカーに出力します。

Right：左チャンネルと右チャンネルにそれぞれ異なる言語が記録されたソースを再生する場合、右チャンネルの音声を左右フロントスピーカーに出力します。

c. Output Speaker

「Mono」時に再生するスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。

Center A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーのみで再生します。

Center B：Speaker Bのセンタースピーカーのみで再生します。

Center A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

Front L/R A：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

Front L/R B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

Front L/R A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」以外の場合は、「Center A」「Center B」「Center A+B」「Front L/R A」から選択します。
- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Centerの設定が「Not Used」の場合は、「Front L/R A」「Front L/R B」「Front L/R A+B」から選択します。この場合、「Front L/R A」が初期設定です。
- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」以外の場合は、「Center A」「Front L/R A」「Front L/R B」「Front L/R A+B」から選択します。
- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Centerの設定が「Not Used」で、しかも（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」以外の場合、この項目は表示されません。

d. Subwoofer

「Mono」時に再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Multiplex Setup（音声多重の環境設定）サブメニュー

リスニングモードを「D.F. Multiplex」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。

a. Re-EQ/Academy

高音が強調されすぎないように、Re-EQ効果やAcademy効果をかけるかどうかを設定します。この項目はゾーン2でも設定できます。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

Re-EQ On：高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

Academy On：古いモノラル映画がそのままビデオに転送された場合など、高音が強調されたヒスノイズの多い音に対してフィルターをかけて高音を下げます。

設定の方法については82ページをご覧ください。

リスニングモードの設定をする（Listening Mode Setup）

b. Multiplex Input Channel

AACやDolby Digitalの音声多重信号が入力されているときに、優先する音声を選びます。この項目はゾーン2でも設定できます。
ここで設定された入力チャンネルが、ドルビーデジタル、AAC入力信号「1+1」のリスニングモードすべてに適用されます。

Main（初期設定）：主音声

Sub：副音声

Main+Sub：主音声+副音声

c. Output Speaker

「D.F. Multiplex」時に再生するスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。

Center A：Speaker Aのセンタースピーカーのみで再生します。

Center B：Speaker Bのセンタースピーカーのみで再生します。

Center A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

Front L/R A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

Front L/R B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

Front L/R A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」以外の場合は、「Center A」「Center B」「Center A+B」「Front L/R A」から選択します。
- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Centerの設定が「Not Used」の場合は、「Front L/R A」「Front L/R B」「Front L/R A+B」から選択します。この場合、「Front L/R A」が初期設定です。
- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」以外の場合は、「Center A」「Front L/R A」「Front L/R B」「Front L/R A+B」から選択します。
- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Centerの設定が「Not Used」で、しかも（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」以外の場合、この項目は表示されません。

d. Subwoofer

「D.F. Multiplex」時に再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Stereo Setup（ステレオ音声の環境設定）サブメニュー

リスニングモードを「Stereo」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。

a. Re-EQ/Academy

「Stereo」時に、高音が強調されすぎないようRe-EQ効果やAcademy効果をかけるかどうかを設定します。この項目はゾーン2でも設定できます。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

Re-EQ：高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

Academy：古い映画がそのままビデオに転送された場合など、高音が強調されたヒスノイズの多い音に対してフィルターをかけて高音を下げます。

b. Front Speaker

「Stereo」時に再生するスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」のときに、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

c. Subwoofer

「Stereo」時に再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

設定の方法については82ページをご覧ください。

リスニングモードの設定をする（Listening Mode Setup）

A+B：後面パネルのSUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Direct, Pure Audio Setup（ダイレクト、ピュアオーディオの環境設定）サブメニュー

リスニングモードを「Direct」または「Pure Audio」にしたときのフロントスピーカーの再生方法や音響効果などを設定します。

a. Front Speaker

「Direct」または「Pure Audio」時、再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

b. Center Speaker

「Direct」または「Pure Audio」時、再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

c. Surr L/R Sp

「Direct」または「Pure Audio」時、再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

d. Surr Bk Speaker

「Direct」または「Pure Audio」時、再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

e. Subwoofer

「Direct」または「Pure Audio」時、再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Multichannel Input Setup（アナログマルチチャンネルの環境設定）サブメニュー

DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどのアナログマルチチャンネルを再生するときの再生方法や音響効果などを設定します。マルチチャンネル端子のボード[E]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。

a. SB Mode（5ch）

5.1chのアナログマルチチャンネルソースを本機を通して6.1 ch以上で再生する場合、どのモードを通して拡張するかを設定します。
ここで設定されたサラウンドバックモードが、マルチチャンネル入力信号すべてに適用されます。

リスニングモードの設定をする（Listening Mode Setup）

- Audio AssignサブメニューでSurr Back Channelの設定が「SBL/SBR （7.1ch）」の場合、この項目は表示されません。
- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Bi-Amp for Front」や「Not Used」に設定した場合、この項目は表示されません。

Dolby EX：Dolby Digital EXを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Movie（初期設定）：Dolby Pro Logic IIx Movieを通して6.1ch以上の再生をします。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Main A 1ch （SBL）」に設定した場合、PL IIx Movieは選択できません。

PL IIx Music：Dolby Pro Logic IIx Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

NEO:6：DTS NEO:6を通して6.1ch以上の再生をします。

Off：5.1chのソースをそのまま再生します。

b. Re-EQ

スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのアナログマルチチャンネルを再生するとき、高音が強調されすぎないようにRe-EQ効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

On：Re-EQ効果をかけて高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

c. Front Speaker

スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのアナログマルチチャンネルを再生するとき、再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

d. Center Speaker

スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのアナログマルチチャンネルを再生するとき再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

e. Surr L/R Sp

スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどを再生するとき再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

f. Surr Bk Speaker

スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどを再生するとき再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

g. Subwoofer

スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどを再生するとき再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

設定の方法については82ページをご覧ください。

i.LINK（IEEE1394）：DVD-Audio Input Setup（DVD-Audioの環境設定）サブメニュー

i.LINKを通してDVDオーディオを再生するときの再生方法や音響効果などを設定します。i.LINK（AUDIO）端子のボード[A]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。

a. LFE Level

「i.LINK（IEEE1394）:DVD-Audio」時の低音域の音量を調整します。ここで設定されたLFEレベルが、すべてのi.LINK（IEEE1394）:DVD-Audio入力信号に適用されます。−∞、−20、−10、0dBから選択できます。初期設定は「0」です。

b. SB Mode（5ch）

5.1chの信号を本機を通して6.1ch以上で再生する場合、どのモードを通して拡張するかを設定します。
ここで設定されたサラウンドバックモードが、i.LINK（IEEE1394）:DVD-Audio入力信号「＊/2」に適用されます。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Bi-Amp for Front」や「Not Used」に設定した場合、この項目は表示されません。

Dolby EX：Dolby Digital EXを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Movie：Dolby Pro Logic IIx Movieを通して6.1ch以上の再生をします。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Main A 1ch（SBL）」に設定した場合、PL IIx Movieは選択できません。

PL IIx Music：Dolby Pro Logic IIx Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

NEO:6：DTS NEO:6を通して6.1ch以上の再生をします。

Off（初期設定）：5.1chの信号をそのまま再生します。

c. Re-EQ

高音が強調されすぎないようにRe-EQ効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

On：Re-EQ効果をかけて高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

d. Front Speaker

DVDオーディオを再生するときの再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

e. Center Speaker

DVDオーディオを再生するときの再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

f. Surr L/R Sp

DVDオーディオを再生するときの再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

g. Surr Bk Speaker

DVDオーディオを再生するときの再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

設定の方法については82ページをご覧ください。

h. Subwoofer

DVDオーディオを再生するときの再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

i.LINK（IEEE1394）：SACD Input Setup（スーパーオーディオCDの環境設定）サブメニュー

i.LINKを通してスーパーオーディオCDを再生するときの再生方法や音響効果などを設定します。i.LINK（AUDIO）端子のボード[A]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。

a. LFE Level

「i.LINK（IEEE1394）:SACD」時の低音域の音量を調整します。ここで設定されたLFEレベルが、すべてのi.LINKのスーパーオーディオCD入力信号に適用されます。
－∞、－20、－10、0dBから選択できます。初期設定は「0」です。

b. SB Mode（5ch）

5.1chの信号を本機を通して6.1ch以上で再生する場合、どのモードを通して拡張するかを設定します。
ここで設定されたサラウンドバックモードが、i.LINK（IEEE1394）のスーパーオーディオCD入力信号「＊/2」に適用されます。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Bi-Amp for Front」や「Not Used」に設定した場合、この項目は表示されません。

Dolby EX：Dolby Digital EXを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Movie：Dolby Pro Logic IIx Movieを通して6.1ch以上の再生をします。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Main A 1ch（SBL）」に設定した場合、PLIIx Movieは選択できません。

PL IIx Music：Dolby Pro Logic IIx Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

NEO:6：DTS NEO:6を通して6.1ch以上の再生をします。

Off（初期設定）：5.1chの信号をそのまま再生します。

c. Re-EQ

高音が強調されすぎないようにRe-EQ効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

On：Re-EQ効果をかけて高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

d. Front Speaker

スーパーオーディオCDを再生するときの再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

e. Center Speaker

スーパーオーディオCDを再生するときの再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

f. Surr L/R Sp

スーパーオーディオCDを再生するときの再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

設定の方法については82ページをご覧ください。

g. Surr Bk Speaker

スーパーオーディオCDを再生するときの再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

h. Subwoofer

スーパーオーディオCDを再生するときの再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Dolby Digital Setup（ドルビーデジタルの環境設定）サブメニュー

リスニングモードを「Dolby Digital」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。

a. LFE Level

「Dolby Digital」時の低音域の音量を調整します。ここで設定されたLFEレベルが、すべてのドルビーデジタル入力信号に適用されます。−∞、−20、−10、0 dBから選択できます。初期設定は「0」です。この項目は、ゾーン2でも設定できます。

b. Late Night

レイトナイト機能（55ページ）を設定しておきます。ここで選択された設定が、すべてのドルビーデジタル入力信号に適用されます。ただし、電源をスタンバイ状態にすると設定は「Off」に戻ります。この項目は、ゾーン2でも設定できます。

Off（初期設定）：レイトナイト機能をオフにします。

Low：音量幅を小さくします。

High：音量幅をさらに小さくします。

c. Dolby EX

「Dolby Digital」時のDolby EX効果の設定です。

Auto：この設定にしておくと、再生するソースにDolby Digital EX識別信号があるときに自動的にDolby EX再生をします。Dolby Digital EX識別信号がないときは「SB Mode（5ch）」での設定にしたがいます。

Manual：Dolby Digital EX識別信号のあるなしに関わらず、「SB Mode（5ch）」での設定にしたがいます。

d. SB Mode（5ch）

5.1chの信号を本機を通して6.1ch以上で再生する場合、どのモードを通して拡張するかを設定します。
ここで設定されたサラウンドバックモードが、ドルビーデジタル入力信号「＊/2」に適用されます。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Bi-Amp for Front」や「Not Used」に設定した場合、この項目は表示されません。

Dolby EX：Dolby Digital EXを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Movie（初期設定）：Dolby Pro Logic IIx Movieを通して6.1ch以上の再生をします。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Main A 1ch（SBL）」に設定した場合、PLIIx Movieは選択できません。

PL IIx Music：Dolby Pro Logic IIx Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

NEO:6：DTS NEO:6を通して6.1ch以上の再生をします。

Off：5.1chの信号をそのまま再生します。

e. Re-EQ

高音が強調されすぎないようにRe-EQ効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

On：Re-EQ効果をかけて高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

f. Front Speaker

「Dolby Digital」時に再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

g. Center Speaker

「Dolby Digital」時に再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

h. Surr L/R Sp

「Dolby Digital」時に再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

i. Surr Bk Speaker

「Dolby Digital」時に再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：L/R Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

j. Subwoofer

「Dolby Digital」時に再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

DTS Setup（DTSの環境設定）サブメニュー

リスニングモードを「DTS」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。

a. LFE Level

「DTS」時の低音域の音量を調整します。ここで設定されたLFEレベルが、すべてのDTS入力信号に適用されます。
−∞、−20、−10、0 dBから選択できます。初期設定は「0」です。この項目は、ゾーン2でも設定できます。

b. SB Mode（5ch）

5.1chの信号を本機を通して6.1 ch以上で再生する場合、どのモードを通して拡張するかを設定します。
ここで設定されたサラウンドバックモードが、DTS入力信号「＊/2」に適用されます。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Bi-Amp for Front」や「Not Used」に設定した場合、この項目は表示されません。

NEO 6：DTS NEO:6を通して、6.1ch以上の再生をします。

Dolby EX：Dolby Digital EXを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Movie：Dolby Pro Logic IIx Movieを通して6.1ch以上の再生をします。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Main A 1ch（SBL）」に設定した場合、PLIIx Movieは選択できません。

PL IIx Music：Dolby Pro Logic IIx Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

Off：5.1chの信号をそのまま再生します。

c. Re-EQ

高音が強調されすぎないようにRe-EQ効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

On：Re-EQ効果をかけて高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

設定の方法については82ページをご覧ください。

d. Front Speaker

「DTS」時、再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

e. Center Speaker

「DTS」時、 再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：SpeakerBのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

f. Surr L/R Sp

「DTS」時、再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

g. Surr Bk Speaker

「DTS」時、再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

h. Subwoofer

「DTS」時、再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

AAC Setup（AACの環境設定）サブメニュー

リスニングモードを「AAC」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。

a. LFE Level

「AAC」時の低音域の音量を調整します。ここで設定されたLFEレベルが、すべてのAAC入力信号に適用されます。−∞、−20、−10、0 dBから選択できます。初期設定は「0」です。この項目は、ゾーン2でも設定できます。

b. SB Mode（5ch）

5.1chの信号を本機を通して6.1ch以上で再生する場合、どのモードを通して拡張するかを設定します。
ここで設定されたサラウンドバックモードが、AAC入力信号「＊/2」に適用されます。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Bi-Amp for Front」や「Not Used」に設定した場合、この項目は表示されません。

Dolby EX：Dolby Digital EXを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Movie（初期設定）：Dolby Pro Logic IIx Movieを通して6.1ch以上の再生をします。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Main A 1ch（SBL）」に設定した場合、PLIIx Movieは選択できません。

PL IIx Music：Dolby Pro Logic IIx Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

NEO:6：DTS NEO:6を通して6.1ch以上の再生をします。

Off：5.1chの信号をそのまま再生します。

リスニングモードの設定をする（Listening Mode Setup）

c. Re-EQ

高音が強調されすぎないようにRe-EQ効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

On：Re-EQ効果をかけて高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

d. Front Speaker

「AAC」時、再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

e. Center Speaker

「AAC」時、 再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

f. Surr L/R Sp

「AAC」時、再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

g. Surr Bk Speaker

「AAC」時、再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

h. Subwoofer

「AAC」時、再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Dolby Pro Logic IIx/DTS NEO:6 Setup（2ch入力時）サブメニュー

2ch信号が入力されているときに、リスニングモードを「Dolby Pro Logic IIx」または「DTS NEO:6」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Centerや（Speaker A）Surr Backの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backを「Bi-Amp for Front」や「Not Used」に設定した場合、PLIIxはPLIIになります。

a. Surr Mode（2ch）

2chの信号を本機を通して6.1ch以上で再生する場合、どのモードを通して拡張するかを設定します。
ここで設定されたサラウンドモードが、Analog/PCM、D.F.2chに適用されます。

- NEO:6 Musicは、Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backの設定が「Main A」のときに選択できます。

PL IIx Movie（初期設定）：Dolby Pro Logic IIx Movieを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Music：Dolby Pro Logic IIx Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

PL IIx Game：Dolby Pro Logic IIx Gameを通して6.1ch以上の再生をします。

NEO:6 Cinema：DTS NEO:6 Cinemaを通して6.1ch以上の再生をします。

NEO:6 Music：DTS NEO:6 Musicを通して6.1ch以上の再生をします。

b. PLIIx Music Panorama

「Dolby Pro Logic IIx Music」時、音場を横方向まで広げることができます。

On：パノラマ効果をオンにします。

Off（初期設定）：パノラマ効果をオフにします。

c. PLIIx Music Dimension

「Dolby Pro Logic IIx Music」時、音場を前方または後方へ移動させることができます。初期設定は「3」です。「3」を中心に、2、1、0にすると後方へ、4、5、6にすると前方へ移動します。

！ヒント

広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。

d. PLIIx Music Center Width

「Dolby Pro Logic IIx Music」時、センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic IIでは、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。初期設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択できます。

e. NEO:6 Music Center Image

Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。
「DTS NEO:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。初期設定は「2」ですが、0〜5の範囲で選択できます。

f. Re-EQ

高音が強調されすぎないようにRe-EQ効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

On：Re-EQ効果をかけて高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

g. Front Speaker

再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

h. Center Speaker

再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

i. Surr L/R Sp

再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

j. Surr Bk Speaker

再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

k. Subwoofer

再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

THX Setup（THXの環境設定）サブメニュー

「THX」効果をかけるときの再生方法や音響効果などを設定します。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。

a. Surround EX

Surround EX効果の設定です。

Auto：設定をAutoにしておくと、再生するソースにDolby Digital EX識別信号があるときに自動的にSurround EX再生をします。Dolby Digital EX識別信号がないときは、信号がマルチソースの場合は「SB Mode（5ch）」での設定にしたがいます。信号が2chソースの場合は「SB Mode（2ch）」での設定にしたがいます。

Manual：再生するソースにDolby Digital EX識別信号があるなしに関わらず、信号がマルチソースの場合は「SB Mode（5ch）」での設定にしたがいます。信号が2chソースの場合は「SB Mode（2ch）」での設定にしたがいます。

b. THX Mode（5ch）

信号にTHX効果をかけるとき、どのTHXモードにするか設定しておきます。
ここで設定されたTHXモードが、SB Mode （5ch）より優先されます。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backの設定が「Main A 1ch」の場合は、「THX Cinema」「SurroundEX」から選択します。

THX Cinema：映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。

SurroundEX：THXサラウンドEX再生になります。

Ultra2 Cinema（初期設定）：THX Ultra 2の新モード。5.1chで収録された音楽や映画を7.1ch以上で再生します。

Music Mode：THX Ultra 2の新モード。音楽ソース用で、5.1ch収録ソフトを7.1ch以上で再生します。

Games Mode：THX Ultra 2の新モード。ゲームソース用で、5.1ch収録ソフトを7.1以上で再生します。

c. THX Mode （2ch）

信号にTHX効果をかけるとき、どのTHXモードにするか設定しておきます。

THX Cinema：映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。

Games Mode：THX Ultra 2の新モード。ゲームソース用で、2ch収録ソフトを7.1以上で再生します。

d. Front Speaker

THX効果をかけるときに 再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

e. Center Speaker

THX効果をかけるときに 再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

f. Surr L/R Sp

THX効果をかけるときに再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

g. Surr Bk Speaker

THX効果をかけるときに再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

h. Subwoofer

THX効果をかけるときに再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Mono Movie Setup/Enhance Setup/Orchestra Setup/Unplugged Setup/Studio-Mix Setup/TV Logic Setup（インテグラリサーチ独自のリスニングモードの環境設定）サブメニュー

インテグラリサーチ独自のリスニングモードにしたときの再生方法や音響効果などを設定します。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr L/Rの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。

a. Front Effect

フロントスピーカーの残響効果をオフにすることができます。ライブコンサートなどが記録されたソースはあらかじめ周囲に残響音が加わると雰囲気がぼやけたように聞こえることがあります。Front Effectをオフにすると左右フロントスピーカー、センタースピーカーには残響音を加えないため、ソースの情報をありのままに再生します。

On（初期設定）：残響音を加えます。

Off：残響音を加えません。

b. Reverb Level

再生するソースや部屋の状況などに合わせて、残響音の大小を調節します。初期設定は「Mid」ですが、「Large」/「Small」も選択できます。

c. Reverb Time

再生するソースや部屋の状況などに合わせて、残響時間を調節します。初期設定は「Mid」ですが、「Long」/「Short」も選択できます。

d. Front Speaker

再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

e. Center Speaker

再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

f. Surr L/R Sp

再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

 設定の方法については82ページをご覧ください。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

g. Surr Bk Speaker

再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

h. Subwoofer

再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

All Ch Stereo Setup/Full Mono Setup（All Ch Stereo/Full Monoの環境設定）サブメニュー

「All Ch Stereo」または「Full Mono」にしたときの再生方法や音響効果などを設定します。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Centerの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。

a.Re-EQ/Academy

高音が強調されすぎないように、Re-EQ効果やAcademy効果をかけるかどうかを設定します。

Off（初期設定）：通常の再生をします。

Re-EQ On：高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

Academy On：古いモノラル映画がそのままビデオに転送された場合など、高音が強調されたヒスノイズの多い音に対してフィルターをかけて高音を下げます。

b. Front Speaker

再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

c. Center Speaker

再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

d. Surr L/R Sp

再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

e. Surr Bk Speaker

再生するサラウンドバックスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。

設定の方法については82ページをご覧ください。

リスニングモードの設定をする（Listening Mode Setup)

Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr Backの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。ただし、（Speaker A）Surr Backの設定が「Bi-Amp for Front」や「Not Used」の場合、この項目は表示されません。

- Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Surr Backと（Speaker B）Surr Backの設定が異なるときは、「A」または「B」から選択します。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドバックスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドバックスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドバックスピーカーで再生します。

f. Subwoofer

再生するサブウーファーを設定します。再生したいスピーカーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

Dolby Virtual Speaker Setup（Dolby Virtual Speakerの環境設定）サブメニュー

「Dolby Virtual Speaker」にしたときの再生方法を設定します。

a. Mode（2ch or 3ch only）

スピーカーを2つまたは3つ使用してバーチャル化するときの広さを設定します。

Wide：より広がり感を強調したモード

Reference（初期設定）：一般的な5.1chサラウンドをシミュレートしたモード

b. Front Speaker

再生するフロントスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Front L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのフロントスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのフロントスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のフロントスピーカーで再生します。ただし、フロントスピーカーをバイ・アンプ接続している時は選択できません。

c. Center Speaker

再生するセンタースピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Centerの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのセンタースピーカーで再生します。

B：Speaker Bのセンタースピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のセンタースピーカーで再生します。

d. Surr L/R Sp

再生するサラウンドスピーカーを設定します。再生したいスピーカーを選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker B）Surr L/Rの設定が「Main A」の場合に、この項目が設定できます。

A（初期設定）：Speaker Aのサラウンドスピーカーで再生します。

B：Speaker Bのサラウンドスピーカーで再生します。

A+B：Speaker A、B両方のサラウンドスピーカーで再生します。

e. Subwoofer

再生するサブウーファーを設定します。再生したいサブウーファーを接続した端子を選びます。
Speaker Configurationサブメニューで（Speaker A）Subwooferの設定が「Not Used」以外のときに、この項目が設定できます。ただし、（Speaker B）Subwooferの設定が「Main A」以外の場合は、「A」または「Not Used」から選択します。

A（初期設定）：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

B：SUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーのみで再生します。

A+B：SUBWOOFER PRE OUT A端子に接続したサブウーファーとSUBWOOFER PRE OUT B端子に接続したサブウーファーで再生します。

Not Used：サブウーファーでは再生しません。

設定の方法については82ページをご覧ください。

リスニングモードの設定をする（Listening Mode Setup）

Zone 2では次のオプションが設定できます。

a. Mode（モード）

スピーカーを2つ使用してバーチャル化するときの広さを設定します。

Wide（ワイド）：より広がり感を強調したモード

Reference（リファレンス）（初期設定）：一般的な5.1chサラウンドをシミュレートしたモード

b. Decode（デコード） (2ch)

バーチャルスピーカー効果をかける前のデコードモードを選びます。

Dolby Pro Logic II：Dolby Pro Logic IIを通してバーチャルスピーカー効果をかけます。

DTS NEO:6：DTS NEO:6を通してバーチャルスピーカー効果をかけます。

Dolby（ドルビー） Headphone（ヘッドホン） Setup（セットアップ）（Dolby Headphoneの環境設定）サブメニュー

ヘッドホンを使用するときに、ドルビーヘッドホンを有効にするか無効にするかの設定です。

a. Mode（モード）

On（オン）（初期設定）：ドルビーヘッドホン機能を有効にします。

Off（オフ）：ドルビーヘッドホン機能を無効にします。

セットアップメニュー編

音声を調整する（Audio Adjust）

Tone Control（高音、中音、低音の設定）サブメニュー

設定したスピーカーの各々に対して、低音、中音、高音の調整をすることができます。

- Speaker Configurationサブメニューで「Not Used」の設定をした場合、該当するスピーカーの設定項目は表示されません。

Front Bass

この項目は、ゾーン2でも設定できます。
フロントL/Rスピーカーの低音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Front Mid

この項目は、ゾーン2でも設定できます。
フロントL/Rスピーカーの中音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Front Treble

この項目は、ゾーン2でも設定できます。
フロントL/Rスピーカーの高音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Center Bass

センタースピーカーの低音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Center Mid

センタースピーカーの中音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Center Treble

センタースピーカーの高音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Surr L/R Bass

サラウンドL/Rスピーカーの低音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Surr L/R Mid

サラウンドL/Rスピーカーの中音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Surr L/R Treble

サラウンドL/Rスピーカーの高音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

Surr Bk Bass

サラウンドバックスピーカーの低音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

- Speaker Configurationサブメニューでサラウンドバックを「Bi-Amp for Front」に設定した場合、この項目は表示されません。

Surr Bk Mid

サラウンドバックスピーカーの中音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

- Speaker Configurationサブメニューでサラウンドバックを「Bi-Amp for Front」に設定した場合、この項目は表示されません。

Surr Bk Treble

サラウンドバックスピーカーの高音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

- Speaker Configurationサブメニューでサラウンドバックを「Bi-Amp for Front」に設定した場合、この項目は表示されません。

Subwoofer Bass

サブウーファーの低音を調整します。
－12～＋12dBの範囲を1dBステップで調整します。
初期設定は「0」です。

 設定の方法については82ページをご覧ください。

お好みの設定をする（Preference）

リスニングモードの音響効果や再生する環境を設定しておくことができます。

Volume Setup（ボリューム設定）サブメニュー

a. Volume Display

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

Absolute（絶対値）：0～100の範囲で表示します。

Relative（相対値）（初期設定）：－∞dB･－81.5dB･－80dB････18.0dBの範囲で表示します。絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

b. Muting Level

ミューティング時の音量レベルを調整できます。10dB単位で、－∞dB・－50dB～－10dBの範囲内で設定できます。初期設定は、「－∞dB」です。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

c. Maximum Volume

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大出力レベルを設定することができます。絶対値表示の場合は、0.5単位で50.0～99.5の範囲内で設定できます。相対値表示の場合は、0.5dB単位で、－32dB～＋17.5dBの範囲内で設定できます。設定しないときは、初期設定「Off」のままにしておきます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

d. Power On Volume

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。絶対値表示の場合は、0.5単位で0～100の範囲内で設定できます。相対値表示の場合は、0.5dB単位で、－∞dB、－81.5dB～＋18dB（Max）の範囲内で設定できます。本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「Last」を選びます。この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

Headphone Level Setup（ヘッドホンの設定）サブメニュー

a. Headphone Level

スピーカーで聞くときとヘッドホンで聞くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。0.5dB単位で、－12dB～＋12dBの範囲で調整できます。

OSD Setup（OSDの設定）サブメニュー

ビデオ端子のボード[H][I]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。

a. Component Video

ソース機器、テレビ／プロジェクターともにコンポーネントビデオ端子で接続しているときに、オンスクリーンディスプレイ（OSD）を表示するかどうかを設定します。
この項目は、Main Aだけでなく、Main Bでも設定できます。

OSD On（初期設定）：OSDを表示します。

OSD Off：OSDを表示しません。

b. Immediate Display

本機を操作中に、表示部に操作内容を表示するかどうかを設定します。（コンポーネント映像が出力されているときは、Onにしても操作内容は表示されません。）
この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

On（初期設定）：表示します。

Off：表示しません。

c. Display Position

操作内容の表示位置を設定します。画面上部（Top）から下部（Bottom）まで10段階の中から設定できます。初期設定では、画面下方（Bottom）に表示されています。
この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

d. Scan Mode

映像信号をインターレースで出力するかどうかの設定をします。

Interlaced：インターレースで出力します。

Non-Interlaced：インターレースで出力しません。

e. Net-Tune OSD Display

ネットオーディオ用イーサネット端子のボード[B]が挿入されているときにこの項目が表示されます。
Net-Tune使用時に操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（コンポーネント映像が出力されているときは、Onにしても操作内容は表示されません。）
この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

On（初期設定）：表示します。

Off：表示しません。

OSD Position（OSDの位置設定）サブメニュー

画面に表示されたOSDメニューの位置を微調整できます。
ビデオ端子のボード[H][I]が挿入されているときにこのサブメニューが表示されます。使用するテレビによっては、OSDメニューが中央に表示されず、メニューの一部が表示されないことがあります。OSDメニューの位置調整には、カーソルボタンを使用します。移動したい方向のカーソルボタンを押すたびに、メニューが少しずつ移動します。
この項目は、Main Aだけでなく、Main B、Zone 2でも設定できます。

i.LINKに関する設定をする（i.LINK Setup）

インテグラリサーチ／オンキヨー製のi.LINK（AUDIO）対応機器を接続しているときにできる設定です。

Wakeup Setup（自動起動の設定）サブメニュー

a. Wakeup on i.LINK（IEEE1394）

本機がスタンバイ状態のとき、機器の接続状態を設定します。

Enable：接続したままにします。

Disable（初期設定）：本機がスタンバイ状態のときは接続を切断し、待機電力をカットします。

OSD for DVD（DVDへのOSD出力）サブメニュー

a. OSD for DVD

DVDプレーヤーを直接テレビに接続しているときでも、その機器がインテグラリサーチ／オンキヨー製のi.LINK（AUDIO）対応機器であれば、本機のOSD画面をテレビに映すことができます。この場合は、i.LINKケーブルで本機のi.LINK（AUDIO）端子とDVDプレーヤーのi.LINK（AUDIO）端子を接続します。

Disable（初期設定）：OSD画面を映さないときにこの設定にします。

Left：OSD画面をテレビ画面の左側に映したいときにこの設定にします。

Right：OSD画面をテレビ画面の右側に映したいときにこの設定にします。

b. Select DVD

インテグラリサーチ／オンキヨー製のi.LINK（AUDIO）対応機器を複数接続している場合、OSD画面を出したいプレーヤーの名前をカーソル◀/▶ボタンで選択します。OSD for DVDの項目で「Disable」を選んだときは、この項目は表示されません。

OSD for DVD（Zone2）サブメニュー

ゾーン2で視聴しているときも、上記と同様の設定ができます。

System Control Setup（システム制御の設定）サブメニュー

a. i.LINK Selector Change

i.LINK Selector Changeの機能を有効にするか無効にするかを選択できます。
i.LINK Selector Changeとは、i.LINK機器を再生したとき、その機器を割り当てた入力ソースに切り替わる機能です。

Enable：i.LINK Selector Changeを有効にします。

Disable（初期設定）：i.LINK Selector Changeを無効にします。

b. DVD Output for Zone 2

オンキヨー製DVDプレーヤーのi.LINK音声出力を切り換える機能です。
ゾーン2のセレクターを何も選択していないときは、SACDの音声がi.LINKで再生されます。また、ゾーン2のセレクターを選択したときは、SACDの音声はアナログで再生されます。

Enable：この機能を有効にします。

Disable（初期設定）：この機能を無効にします。

ネットワークに関する設定をする(Network Setup)

ネットオーディオ用イーサネット端子のボード[B]が挿入されているときにこのメニューが表示されます。
ブロードバンドルータ（DHCP機能）をお使いの方は、本機の初期設定でDHCP機能が「Enable（初期設定）」になっていますので、「7.Network Setup」の設定は必要ありません。ブロードバンドルータのDHCP機能を「Disable」にしたときは、ネットワークの設定を行う必要があります。その場合、ネットワークに関する知識が必要です。

DHCP（ダイナミック・ホスト・コンフィグレーション・プロトコル）およびAuto IPとは
本機やパソコン、ブロードバンドルータのようなネットワーク機器に、自動的にIPアドレスなどのネットワーク設定を行う仕組みのこと。

DNS（ドメインネームシステム）とは
ホームページの閲覧時に使用する「www.jp.onkyo.com/」のようなドメイン名を、実際の通信に使用するIPアドレス（「210.199.170.69」など）に置き換える仕組みのこと。

IP Address（IPアドレスの設定をする）サブメニュー

a. DHCP Settings

DHCPの設定を自動で行うかどうかを設定します。
Enable（初期設定）：DHCP機能を有効にします。
Disable：DHCP機能を無効にします。

b. IP Address

a. DHCP Settingsで「Disable」を選択した場合に設定します。ｘDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたIPアドレスを入力します。入力するIPアドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外のIPアドレスではネットオーディオ機能を使用することができません。

CLASS A：10.0.0.0～10.255.255.255
CLASS B：172.16.0.0～172.31.255.255
CLASS C：192.168.0.0～192.168.255.255

c. SUBNET Mask

a. DHCP Settingsで「Disable」を選択した場合に設定します。ｘDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたサブネットマスクを入力します。通常は255.255.255.0が入ります。

d. Gateway

a. DHCP Settingsで「Disable」を選択した場合に設定します。xDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたゲートウェイアドレスを入力します。

e. DNS Server 1, DNS Server 2

a. DHCP Settingsで「Disable」を選択した場合に設定します。ｘDSLモデムやターミナルアダプタを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面等で通知されたDNSを入力します。また、ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合はそのIPアドレスを入力します。
プロバイダから書面等で通知されたDNSアドレスが1つの場合は「e. 1st」に入力してください。2つ以上の場合は1つを「f. 2nd」に入力してください。

Proxy（プロキシの設定をする）サブメニュー

インターネットにプロキシサーバーを介して接続する場合に設定します。

a. Proxy Server

契約しているISP（インターネット・サービスプロバイダ）によっては、インターネットに接続するためにプロキシサーバーを介する必要のある場合があります。その場合はプロバイダから書面等で通知されたプロキシ設定の通りに設定してください。
Enable：プロキシサーバーを有効にします。
Disable（初期設定）：プロキシサーバーを無効にします。

b. Proxy URL Input

プロキシサーバーのドメイン名を入力します。「a. Proxy Server」の設定で「Disable」に設定したときに、この項目を選んでEnterボタンを押すと、文字入力モードになります。▲/▼/◀/▶ボタンで数字を選び、Enterボタンを押します。すべての数字を入力すると、数字入力モードは解除されます。

c. Proxy Port

プロキシサーバーのポート番号を入力します。「a. Proxy Server」の設定で「Disable」に設定したときに、この項目を選んでEnterボタンを押すと、文字入力モードになります。▲/▼/◀/▶ボタンで数字を選び、Enterボタンを押します。すべての数字を入力すると、数字入力モードは解除されます。

ご注意

設定を終えたらReturnボタンを押して「Network Setupメニュー」に戻ります。▲/▼ボタンで→Save Settingsを選び、▶ボタンを押して設定項目を保存します。設定後、データを記憶するのに数秒かかります。この間に電源を切るとデータが消えてしまいますのでご注意ください。

設定の方法については82ページをご覧ください。

MAC Address（マックアドレスを確認する）サブメニュー

a. MAC Address

MACアドレスを確認します。MACアドレスを変更することはできません。

Client（クライアントの設定）サブメニュー

情報を送る側のサーバーに対して、情報を受け取る側の機器のことを「クライアント」と呼びます。1つのサーバーに対して、複数台のクライアントがある場合もあります。Net-Tune Centralから見た場合、本機はクライアントとなります。

a. Client Name

Net-Tuneシステム上での呼び名を確認します。クライアント名はあらかじめ本機で設定されています、変更することはできません。

b. Wakeup on LAN

本機がスタンバイ状態のとき、ネットワークの接続を設定します。

Enable：接続したままにします。

Disable：本機がスタンバイ状態のときはネットワークを切断し、待機電力をカットします。

c. NTSP Port

Net-Tune Centralと通信するためのTCP/IPポートを設定します。互いに通信を行うポートを決めるためのもので、Net-Tune Central側の設定とあわせる必要があります。ポート番号は特別な事情がないかぎり変更しないでください。

▲/▼/◀/▶ボタンで数字を選び、Enter ボタンを押します。全ての数字を入力すると、数字入力モードは解除されます。

ご注意

設定を終えたらReturnボタンを押して「Network Setup メニュー」に戻ります。

▲/▼ボタンで→Save Settingsを選び、▶ボタンを押すと、113ページからの「ネットワークに関する設定」の設定項目を保存します。設定後、データを記憶するのに数秒かかります。この間に電源を切るとデータが消えてしまいますのでご注意ください。

仕様

イーサネットポート：10BASE-T
ファイルタイプ：MP3 、WMA 、WAV
（非圧縮、サンプリング周波数32k、44.1k、48kHzに対応）
（WMAについてはコンテンツ保護されているものは再生できません）

設定の規制と確認をする（Lock/Version）

設定内容をロックしたり、本機のソフトウェアバージョンを表示したりできます。

Lock Setup（設定のロック）サブメニュー

a. Lock

誤って設定を変更してしまわないように、すべての設定メニューにロックをかけることができます。

Locked：ロックをかけておくと、そのあとに設定を変更しても電源をオフ／オンすることで、ロックをかけたときの設定に戻ります。

Unlocked（初期設定）：設定操作にロックをかけません。

Firmware Version（ファームウェアバージョンの確認）サブメニュー

ここでは本機にインストールされた各プログラムのファームウェアバージョンを確認します。（このページでそれぞれのファームウェアを更新することはできません。）

a. Master version

メインプログラムのファームウェアバージョンを確認します。

b. i.LINK（IEEE1394） version

i.LINKのファームウェアバージョンを確認します。
iLINK（AUDIO）端子のボード[A]が挿入されているときにこの項目が表示されます。

c. Net-Tune version

Net-Tuneプログラムのファームウェアバージョンを確認します。ネットオーディオ用イーサネット端子のボード[B]が挿入されているときにこの項目が表示されます。

d. HDMI version

HDMIのファームウェアバージョンを確認します。HDMI端子のボード[L]が挿入されているときにこの項目が表示されます。

インテグラリサーチ/オンキヨー製品を本機のリモコンで操作する

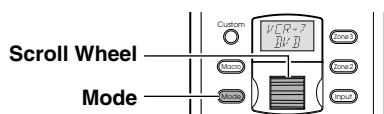
本機のリモコンで、ホームシアターを構成する他の機器も操作することができます。他の機器を操作するには、リモコンのModeボタンを押してから、Scroll Wheelで操作する機器を選択します。
デジタル機器（BSチューナー、ケーブルテレビ、ビデオ、テレビなど）を操作するときは、初めに他機のリモコンコードを本機のリモコンにプログラムする必要があります。
プログラムには、次の2つの方法があります。

- 他機のリモコンコードを登録する（☞120ページ）
- 他機のリモコンから指定した操作を学習させる（☞124ページ）

RI接続したインテグラリサーチ/オンキヨー製品を操作する

本機とRI端子どうしを接続したインテグラリサーチ/オンキヨー製品（CDプレーヤー、MDレコーダー、DVDプレーヤー、カセットデッキなど）は、リモコンコードや学習操作をすることなく、本機のリモコンで簡単に操作できます。
RI接続について詳しくは、46ページをご覧ください。

ご注意

RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

1 Modeボタンを押す

2 Scroll Wheelを回して、操作したい機器の表示を選ぶ

- インテグラリサーチ/オンキヨー製DVDプレーヤーを操作するときは、「DVD」を表示させる。
- オンキヨー製CDプレーヤーを操作するときは、「CD」を表示させる。
- オンキヨー製MDプレーヤーを操作するときは、「MD」を表示させる。
- オンキヨー製カセットデッキを操作するときは、Scroll Wheelを押して「AMP」を表示させる。

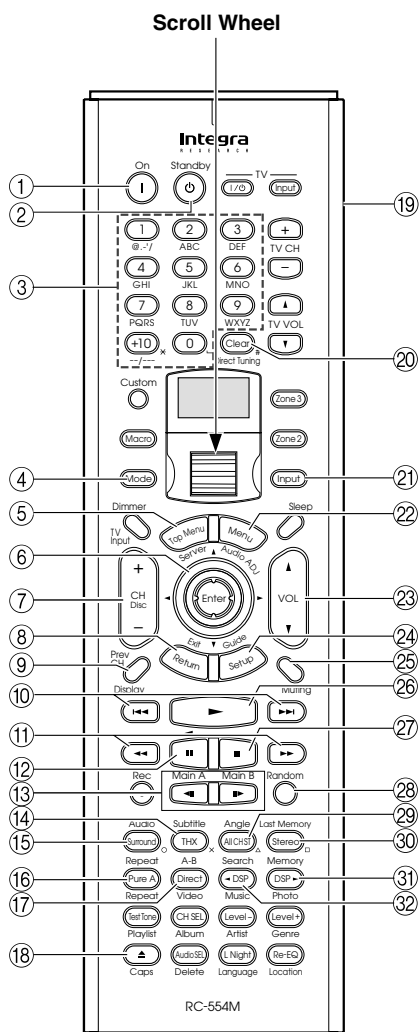
3 リモコンを本機に向け、操作します。

RI接続した機器は、本機のリモコン受光部で受けた信号により動作します。

DVDモード（本機にRI接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

DVDプレーヤーを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをDVDモードにしてください。

ご注意

ModeボタンもInputボタンも点灯していないときにScroll Wheelを回すと、入力ソースとリモコンモードが同時に切り換わります（DVDモードの場合、リモコン表示部の上段と下段が共に「DVD」になります）。

インテグラリサーチ/オンキヨー製品を本機のリモコンで操作する

① On(オン)ボタン
DVDプレーヤーの電源を入れます。

② Standby(スタンバイ)ボタン
DVDプレーヤーをスタンバイ状態にします。

③ 文字、数字ボタン
タイトル/チャプター/トラック番号などを選択します。

④ Mode(モード)ボタン
リモコンモードを選択します。DVDを操作するには、Modeボタンを押してからScroll Wheelを回して「DVD」と表示させます。

⑤ Top Menu(トップ メニュー)ボタン
DVDのトップメニューを表示します。

⑥ ▲/▼/◀/▶/Enter(エンター)ボタン
DVDメニュー操作時、上下左右に押して項目を選択します。中央のEnterボタンを押すと、選択した設定を確認したり、選択したタイトル、チャプター、トラックの再生を始めます。

⑦ CH/Disc(チャンネル ディスク) +/−ボタン
DVDチェンジャーのディスクを選びます。

⑧ Return/Exit(リターン イグジット)ボタン
DVDのセットアップメニューを終了します。メニュー操作中に押すと、1つ前のメニューに戻ります。

⑨ Display(ディスプレイ)ボタン
表示される情報（ディスク名、タイトル名、チャプター名、トラック名、経過時間、残り時間、総演奏時間など）を切り換えます。

⑩ ⏮ / ⏭ ボタン
トラックまたはチャプターの頭出しをします。

⑪ ◀◀ / ▶▶ボタン
早戻し/早送りをします。

⑫ ❚❚ ボタン
再生を一時停止します。

⑬ ◀❚❚ / ❚❚▶ボタン
コマ送り再生とスロー再生をします。

⑭ Subtitle(サブタイトル)ボタン
字幕言語を切り換えます。

⑮ Audio(オーディオ)ボタン
言語とオーディオフォーマット（ドルビーデジタル、DTSなど）を選びます。

⑯ Repeat(リピート)ボタン
くり返し再生をします。

⑰ A-Bボタン
A-Bくり返し再生をします。

⑱ ⏏ボタン
ディスクトレイを開閉します。

⑲ LIGHT(ライト)ボタン
リモコンボタンを点灯/消灯させます。

⑳ Clear(クリア)ボタン
入力した項目を取り消します。

㉑ Input(インプット)ボタン
入力ソースを選択します。このボタンを押してからScroll Wheelを回して「DVD」を表示させます。

㉒ Menu(メニュー)ボタン
DVDのメニュー画面を表示します。

㉓ VOL(ボリューム)▲/▼ボタン
音量を調整します。

㉔ Setup/Guide(セットアップ ガイド)ボタン
DVDのセットアップメニューを表示します。

㉕ Muting(ミューティング)ボタン
音を一時的に小さくします。リモコンのみの操作です。

㉖ ▶ボタン
ディスクを再生します。

㉗ ■ボタン
再生を停止します。

㉘ Random(ランダム)ボタン
ランダム再生をします。

㉙ Angle(アングル)ボタン
カメラアングルを切り換えます。

㉚ Last Memory(ラスト メモリー)ボタン
再生する場所を記憶させます。

㉛ Memory(メモリー)ボタン
好きなタイトル/チャプター/トラック順に再生するように記憶させます。

㉜ Search(サーチ)ボタン
再生したい場所、タイトル、チャプター、トラックを指定します。

インテグラリサーチ/オンキヨー製品を本機のリモコンで操作する

CDモード（本機にRI接続したCDプレーヤーを操作するとき）

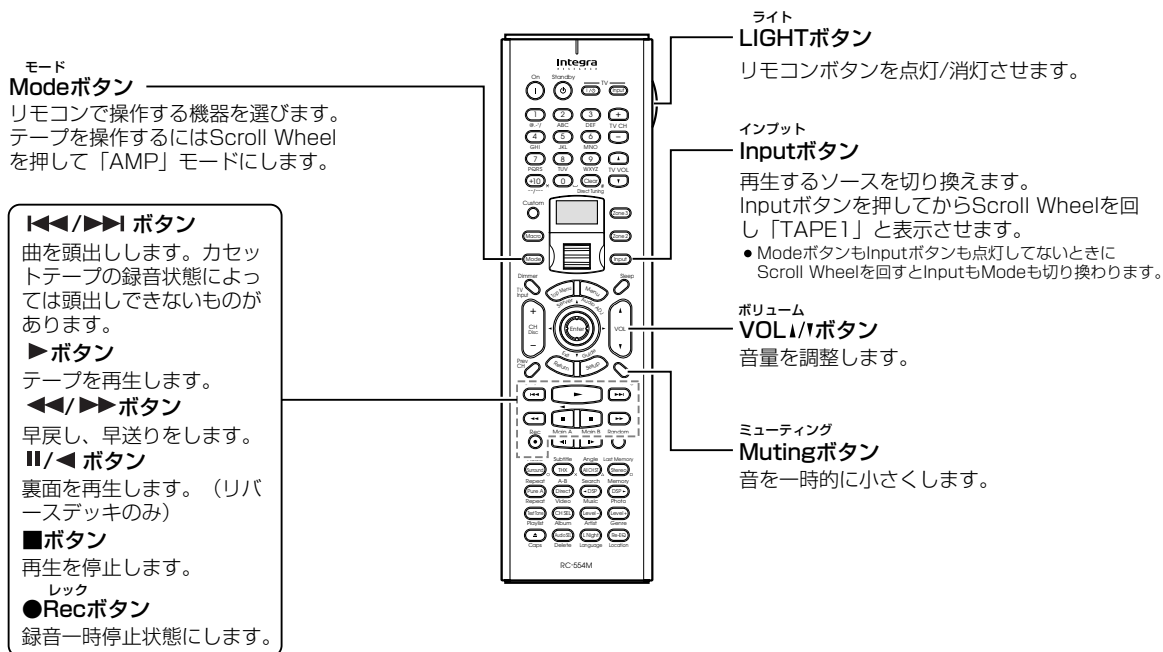
CDプレーヤーを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをCDモードにしてください。

MD/CDRモード（本機にRI接続したMD/CDRレコーダーを操作するとき）

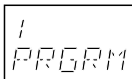
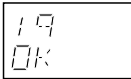
MDレコーダーまたはCDレコーダーを操作する前に、Modeボタンを押し、Scroll Wheelを回してリモコンをMDまたはCDRモードにしてください。

インテグラリサーチ/オンキヨー製品を本機のリモコンで操作する

本機にRI接続したカセットデッキを操作するとき（AMPモード）

カセットデッキを操作する前に、Scroll Wheelを押して、リモコンをAMPモードにしてください。

録音状態によっては、⏮ / ⏭ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。

リモコン編

接続した製品を本機のリモコンで操作する

本機に付属のリモコン（RC-554M）で、他社の製品を操作することができます。操作するには次の4つの方法があります。

- 他機（DVD、テレビ、ビデオ）のリモコンコードを登録する
- 他機のリモコンから指定した操作を学習させる（☞124ページ）
- マクロ機能を使って連続した操作を学習させる（☞125ページ）

リモコンコードを登録する

他機のリモコンコードを本機のリモコンに登録すると、本機のリモコンで他機を操作することができます。
「DVD」、「TV」、「VCR（ビデオ）」、「CBL（ケーブル）」、「SAT（サテライト）」のいずれかのモードに機器のリモコンコードを登録させることができます。

1 登録する他機のメーカー別リモコンコード（4桁）を121ページのリモコンコード表で確かめる

2 Custom（カスタム）ボタンを3秒以上押す

Custom

リモコンがカスタムモードになります。

3 Scroll（スクロール） Wheel（ホィール）を回して「PRGRM」を選び、Scroll Wheelを押す

4 Scroll Wheelを回して「登録したいモード」を選び、Scroll Wheelを押す

「DVD」、「TV」、「VCR（ビデオ）」、「CBL（ケーブル）」、「SAT（サテライト）」の中から選べます。

10
DVD

5 数字ボタンで4桁のリモコンコードを入力する

正しく登録された場合

と表示された後、通常の表示に戻ります。

正しく登録されていない場合

RETRY（リトライ）と表示された後、コード入力表示に戻ります。

途中でやめるには、Customボタンを押します。

6 リモコンモードを選び、登録した機器にリモコンを向けて、操作を確認する

DVD選択時は116、117ページ、TV/VCR/CBL/SAT（BSチューナー）選択時は122ページをご覧ください。

インテグラリサーチ/オンキヨー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは…

次の2種類のコード番号があります。DVDプレーヤーの使用方法に応じて選択してください。

5001：オーディオ用ピンコードとRIケーブルの両方を接続している場合に使用します。初期設定は「5001」になっていますのでRI接続している場合はこのままご使用ください。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作します。

5002：接続しているDVDプレーヤーにRI端子がついていない、またはRIケーブルを接続していない場合に使用します。リモコンはDVDのリモコン受光部に向けて操作します。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
Aiwa（アイワ）	5010
Akai（アカイ）	5019
Apex	5015, 5016
CyberHome	5027
Denon（デノン）	5017, 5020
GE	5003
Hitachi（日立）	5009
Integra（インテグラ）	5001, 5002
Integra Research（インテグラリサーチ）	5001, 5002
日本ビクター（JVC）	5023
Kenwood（ケンウッド）	5017
Magnavox（マグナボックス）	5004, 5021
Marantz（マランツ）	5025, 5026
Mitsubishi（三菱）	5005
Onkyo（オンキヨー）	5001, 5002
Panasonic（パナソニック）	5011, 5017, 5020
Philips（フィリップス）	5004, 5021, 5028
Pioneer（パイオニア）	5006
Proscan（プロスキャン）	5003
RCA	5003
Sanyo（サンヨー）	5012
Sony（ソニー）	5007, 5013, 5018, 5029
Technics（テクニクス）	5020
Thomson（トムソン）	5022, 5024
Toshiba（東芝）	5008, 5021
Xbox	5022
Yamaha（ヤマハ）	5020
Zenith	5014, 5021

SAT（BSチューナー／レシーバー）

ブランド名	コード番号
日本ビクター（JVC）	4009, 4021
Panasonic（パナソニック）	4006, 4031
Proscan（プロスキャン）	4001, 4002
Sony（ソニー）	4005, 4031
Toshiba（東芝）	4004

CBL（ケーブルテレビ）

ブランド名	コード番号
Hitachi（日立）	3002
Magnavox	3014
NEC	3003
Panasonic（パナソニック）	3020
Philips（フィリップス）	3007, 3008, 3014
Pioneer（パイオニア）	3017, 3024
Proscan（プロスキャン）	3001, 3002
RCA	3004, 3020, 3022
Samsung（サムスン）	3017

VCR（ビデオデッキ）

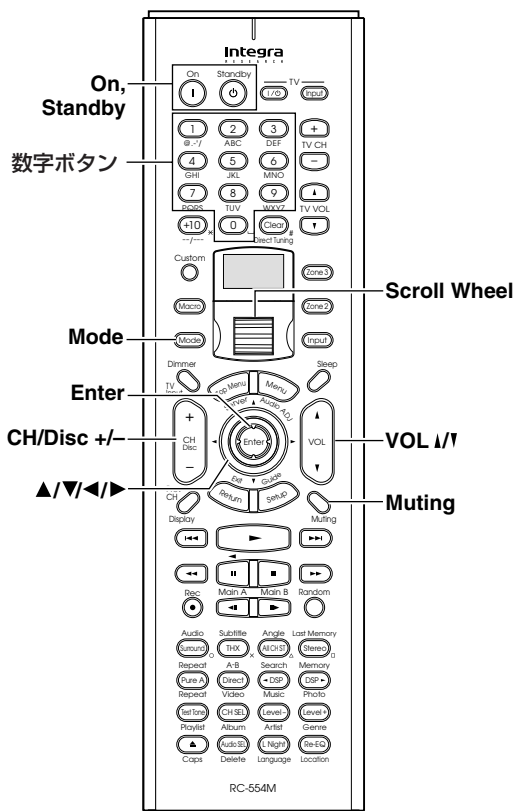
ブランド名	コード番号
Aiwa（アイワ）	2012, 2046, 2047
Funai（フナイ）	2012
Hitach（日立）	2013, 2021, 2025, 2028, 2037, 2038, 2043
日本ビクター（JVC）	2005, 2006, 2007, 2009, 2032, 2035, 2040, 2048
Mitsubishi（三菱）	2013, 2022, 2032, 2034
NEC	2005, 2006, 2007, 2009, 2032
Panasonic（パナソニック）	2010, 2011, 2042
Philips（フィリップス）	2010, 2014, 2017, 2034, 2048
Pioneer（パイオニア）	2006, 2013, 2032, 2034
Samsung（サムスン）	2008, 2043, 2049
Sanyo（サンヨー）	2007, 2008, 2030, 2036
Sharp（シャープ）	2016, 2017, 2031
Sony（ソニー）	2004, 2018, 2024
Toshiba（東芝）	2013, 2015, 2022, 2034, 2048

TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
Funai（フナイ）	1009, 1045, 1048, 1070
Hitachi（日立）	1004, 1006, 1007, 1013, 1027, 1038, 1062, 1063, 1069
日本ビクター（JVC）	1007, 1012, 1013, 1015, 1033
Mitsubishi（三菱）	1004, 1005, 1006, 1008, 1040, 1055, 1058
NEC	1003, 1004, 1005, 1006
Orion	1029, 1043, 1048, 1049, 1050, 1067, 1068
Panasonic（パナソニック）	1003, 1012, 1014, 1031, 1044, 1046, 1051, 1061, 1062, 1069
Philips（フィリップス）	1003, 1004, 1007, 1008, 1014, 1018, 1019, 1020, 1037, 1038, 1040, 1053, 1059, 1060
Pioneer（パイオニア）	1004, 1006, 1027, 1062
Samsung（サムスン）	1004, 1005, 1006, 1007, 1008, 1022, 1025, 1035, 1045, 1047, 1052, 1056, 1060, 1063, 1065
Sanyo（サンヨー）	1004, 1010, 1017
Sharp（シャープ）	1004, 1006, 1007, 1021, 1023, 1025, 1026
Sony（ソニー）	1002, 1030, 1032, 1036, 1054
Toshiba（東芝）	1010, 1016, 1017, 1022, 1024, 1039

機器によっては、動作が異なる場合があります。

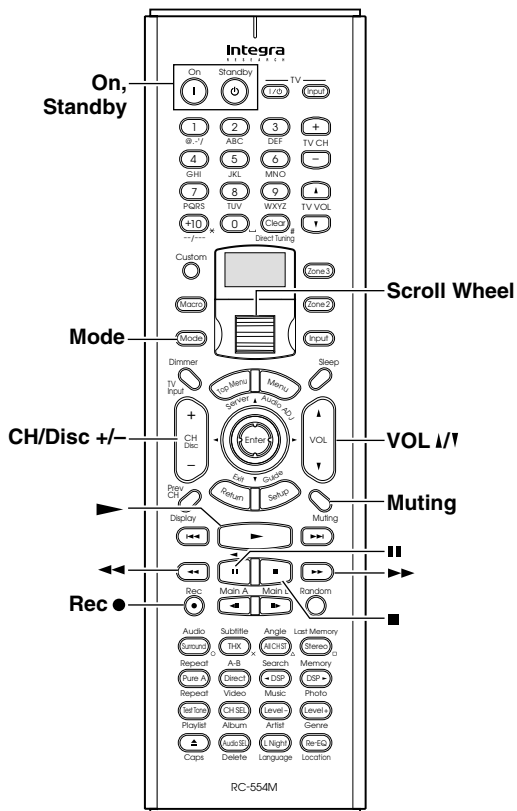
接続した製品を本機のリモコンで操作する

BSチューナーを操作する

1. Scroll Wheelを回して入力ソースとリモコンモードを切り換える

   Modeボタン、Inputボタンが点灯していないときに操作します。入力ソースは切り換えずに、機器だけ操作したいときは、Modeボタンを押してからScroll Wheelを回して「SAT」を選んでください。

2. リモコン送信部をBSチューナーのリモコン受光部に向けて操作する（リモコンコード記憶後）

On/Standby	：電源オン/スタンバイ
CH/Disc +/–	：プリセット局の選局
▲/▼/◀/▶	：メニュー項目の選択
Enter	：決定
0、1～9	：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	：本機の音量調整
Muting	：本機のミューティング

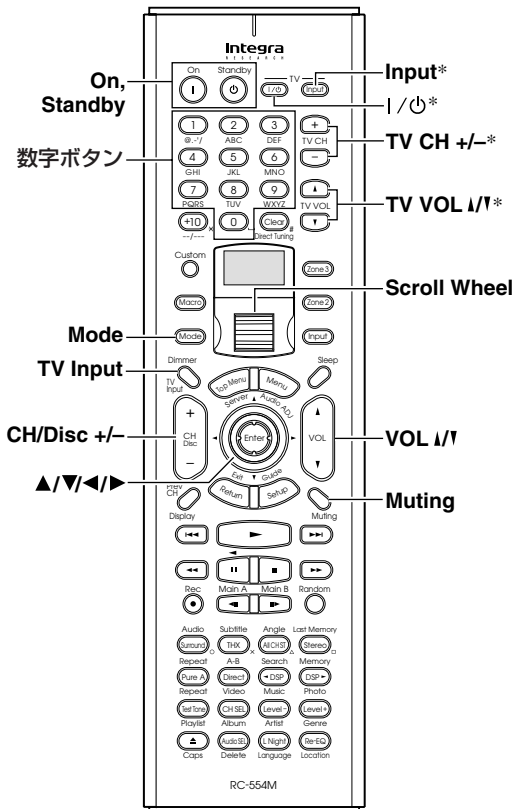
ビデオデッキを操作する

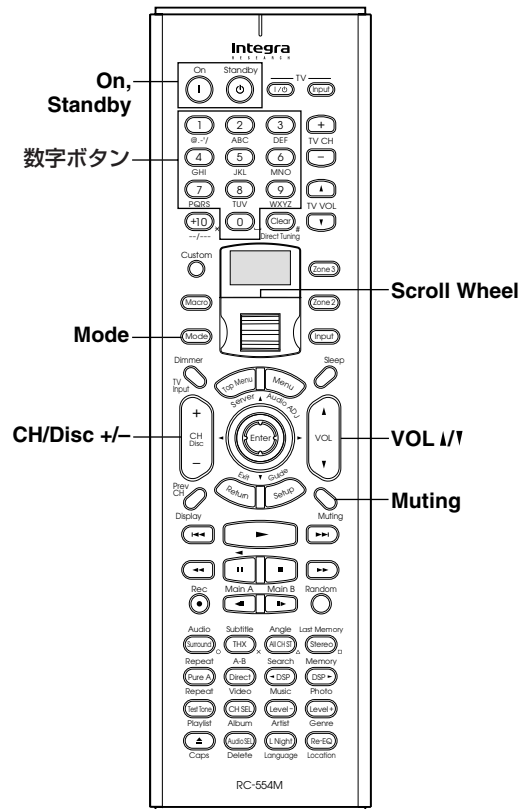
1. Scroll Wheelを回して入力ソースとリモコンモードを切り換える

   Modeボタン、Inputボタンが点灯していないときに操作します。入力ソースは切り換えずに、機器だけ操作したいときは、Modeボタンを押してからScroll Wheelを回して「VCR」を選んでください。

2. リモコン送信部をビデオデッキのリモコン受光部に向けて操作する（リモコンコード記憶後）

On/Standby	：電源オン/スタンバイ
CH/Disc +/–	：プリセット局の選局
►	：再生
■	：停止
◄◄	：巻戻し
►►	：早送り
II	：一時停止
●REC	：録音

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	：本機の音量調整
Muting	：本機のミューティング

テレビを操作する

1. Scroll Wheelを回して入力ソースとリモコンモードを切り換える
   Modeボタン、Inputボタンが点灯していないときに操作します。入力ソースは切り換えずに、機器だけ操作したいときは、Modeボタンを押してからScroll Wheelを回して「TV」を選んでください。

2. リモコン送信部をテレビのリモコン受光部に向けて操作する（リモコンコード記憶後）

On/Standby	：テレビの電源オン/スタンバイ
TV I/⏻ *	：テレビの電源を入/切
TV CH +/–*	：テレビのチャンネル選択
0、1～9	：数字ボタン
CH/Disc +/–	：ケーブルテレビのチャンネル選択
TV Input	：テレビまたはビデオデッキの入力切換
TV VOL ▲/▼*	：テレビの音量調整

＊のついたボタンは、リモコンモードが「TV」になっていなくても操作できます。他のTVモードを追加した場合は動作しません。

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	：本機の音量調整
Muting	：本機のミューティング

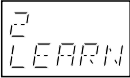
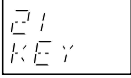
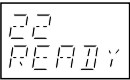
ケーブルテレビを操作する

1. Scroll Wheelを回して入力ソースとリモコンモードを切り換える
   Modeボタン、Inputボタンが点灯していないときに操作します。入力ソースは切り換えずに、機器だけ操作したいときは、Modeボタンを押してからScroll Wheelを回して「CBL」を選んでください。

2. リモコン送信部をケーブルテレビのリモコン受光部に向けて操作する（リモコンコード記憶後）

On/Standby	：電源オン/スタンバイ
CH/Disc +/–	：ケーブルテレビのチャンネル選択
0、1～9	：数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ▲/▼	：本機の音量調整
Muting	：本機のミューティング

他機のリモコンから学習させる

他機のリモコンの操作を１つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
たとえば、他機のCDプレーヤーのリモコンから再生、停止の機能をそれぞれ転送し、本機リモコンのCDモードの再生、停止ボタンに学習させることができます。
リモコンコードを登録した後で、追加したい操作を1つずつ学習させると便利です。

1 Custom（カスタム）ボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2 Scroll（スクロール） Wheel（ホィール）を回して「LEARN」を選び、Scroll Wheelを押す

3 Scroll Wheelを回して学習させたい「モード」を選び、Scroll Wheelを押す

4 本機のリモコンの学習させたい操作ボタンを押す

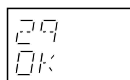
22
READY

学習できないボタンを押すと「RETRY（リトライ）」と表示されます。

5 学習させる他機のリモコンボタンを押す

他機のリモコンと本機のリモコンを5cm～15cm離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく登録された場合

29
OK

と表示されます。

正しく登録されていない場合

「FAIL（フェイル）」と表示された後、手順***3***に戻ります。

6 続けて別の操作ボタンを学習させる場合は手順3 ～5 をくり返します。

同じモードを続けて学習させる場合は4～5をくり返します。

学習を終了する場合はCustom（カスタム）ボタンを押します。

ご注意

- 「LIGHT（ライト）」、「Custom（カスタム）」、「Macro（マクロ）」、「Mode（モード）」、「InpuT（インプット）」、「Zone（ゾーン） 2」、「Scroll Wheel」以外のボタンから選べます。
- 本機のリモコンは、およそ150個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのメモリを使用する場合があります。その場合は学習できる操作は150個より少なくなります。
- 「FULL（フル）」と表示された場合は本機のリモコンが学習できる容量を超えています。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製CDプレーヤー、カセットデッキ、DVDプレーヤー、MDレコーダー、CDレコーダーの操作をすでに記憶しています。これらのボタンに他の操作を記憶させることもできますが、リセットすると元の操作に戻ります。
- 操作が登録されているボタンに、新しい操作を上書きして記憶するときも同じ手順で操作します。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによって操作を転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンに記憶させた操作が消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

マクロ機能を使って連続した操作を学習させる

マクロ機能とは
連続した操作を1つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. Scroll（スクロール） Wheel（ホイール）を押す（リモコンをAMP（アンプ）モードにする）
2. On（オン）ボタンを押す（本機の電源を入れる）
3. Scroll Wheelを回して「CD」を表示させる（リモコンをCDモードにし、入力ソースをCDに切り換える）
4. ►（プレイ）ボタンを押す（CDプレーヤーを再生する）

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

8通りのマクロを学習させることができます。
1つのマクロに対して8つの操作が学習できます。

1

Custom（カスタム）ボタンを3秒以上押す
リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll（スクロール） Wheel（ホイール）を回して「MACRO（マクロ）」を選び、Scroll Wheelを押す

3
MACRO

3

Scroll Wheelを回して「EDIT（エディット）」を選び、Scroll Wheelを押す

301
EDIT

4

Scroll Wheelを回して「マクロを学習させたい番号」を選び、Scroll Wheelを押す
1～8まで学習できます。

301
1

マクロ1が学習しています。

3011
KEY

1つ目の操作を学習します。

5

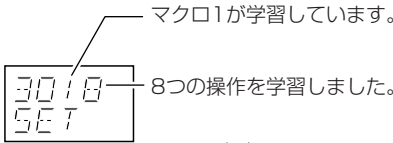
記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例：Scroll Wheelを押す→ Onボタンを押す→ Scroll Wheelを回して「CD」を表示させる→ Scroll Wheelを押す→ ►（プレイ）ボタンを押す。

1～8まで学習できます。

マクロ1が学習しています。

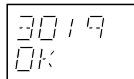
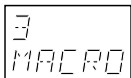
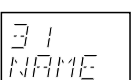
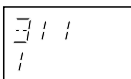
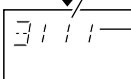
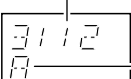
3018
SET

8つの操作を学習しました。

ボタンを押すたび、「SET（セット）」と表示された後、「KEY（キー）」と表示されます。

マクロにメインルームやゾーン2、ゾーン3の入力ソースを切り換える操作を学習させるには
メインルームの場合はInputボタンを、ゾーン2/ゾーン3の場合はZone 2ボタン、Zone 3ボタンを押してからScroll Wheelを回して入力ソースを選び、Scroll Wheelを押します。

6

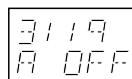
Macroボタンを押す
学習が完了し、以下のように表示された後、通常の表示に戻ります。

3019
OK

マクロを実行する

学習が完了したマクロを実行します。

1 **Macro（マクロ）ボタンを押す**

2 **Scroll Wheelを回して「マクロ番号」を選び、Scroll Wheelを押す**
学習した順にマクロを実行します。

リモコン編

マクロモードに名前をつける

学習させたマクロモードに名前をつけることができます。
最大5文字まで登録できます。

1

Custom（カスタム）ボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheel（スクロール ホイール）を回して「MACRO（マクロ）」を選び、Scroll Wheel（スクロール ホイール）を押す

```
3
MACRO
```

3

Scroll Wheelを回して「NAME（ネーム）」を選び、Scroll Wheelを押す

```
31
NAME
```

4

Scroll Wheelを回して名前をつけたいマクロ番号を選び、Scroll Wheelを押す

```
311
1
```

```
3111
```

マクロ1の名前をつけます。
1文字目を登録します。

5

Scroll Wheelを回して入力する文字を選び、Scroll Wheelを押します。

入力できる文字：
0、1、2、3、4、5、6、7、8、9、A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z、+、–、=、<、>、_、¯、/、\、*、スペース

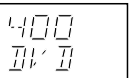
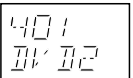
```
3112
A
```

マクロ1の名前をつけています。
1文字目を登録しました。

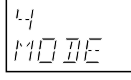
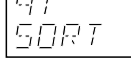
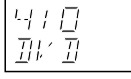
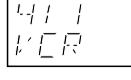
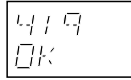
6

手順5をくり返し5文字入力する

通常の表示に戻ります。
5文字に満たない場合はスペースを入力し、5文字にしてください。

```
3119
A OFF
```

その他のリモコン設定

リモコンモードを編集する

リモコンモードを追加する

「DVD」「TV」「VCR」「CBL」「SAT」モードをさらに追加することができます。本機にDVDやテレビを複数台接続している場合に便利です。

1

Customボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheelを回して「MODE」を選び、Scroll Wheelを押す

4
MODE

3

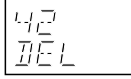
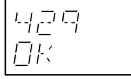
Scroll Wheelを回して「ADD(追加)」を選び、Scroll Wheelを押す

4

Scroll Wheelを回して追加したい機器を選び、Scroll Wheelを押す

全部で8つまで追加できます。例えば、DVDを4つ、TVを2つ、VCRを1つ、CBLを1つ追加することができます。

リモコンモードを並べ換える

Scroll Wheelを回したときにリモコンモードの表示する順序を並べ換えることができます。
「AMPモード」は変更できません。

1

Customボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheelを回して「MODE」を選び、Scroll Wheelを押す

3

Scroll Wheelを回して「SORT(並べ換え)」を選び、Scroll Wheelを押す

41
SORT

4

Scroll Wheelを回して移動させたいモードを選び、Scroll Wheelを押す

410
DVD

5

Scroll Wheelを回して移動先のモードを選び、Scroll Wheelを押す

ここで選択したモードの前に移動します。この場合、VCRの前にDVDが表示されます。

411
VCR

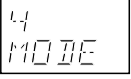
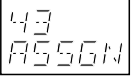
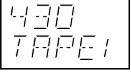
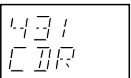
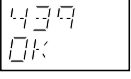
正しく登録された場合

と表示された後、手順**3**の表示に戻ります。

リモコン編

その他のリモコン設定

リモコンモードを消去する

接続していない機器など、不要なリモコンモードを消去することができます。
「AMPモード」は消去できません。

1

Customボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheelを回して「MODE」を選び、Scroll Wheelを押す

4
MODE

3

Scroll Wheelを回して「DEL(消去)」を選び、Scroll Wheelを押す

42
DEL

4

Scroll Wheelを回して消去したいモードを選び、Scroll Wheelを押す

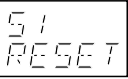
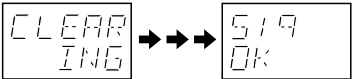
420
SAT

消去が完了します。

正しく消去された場合

429
OK

と表示された後、手順***3***の表示に戻ります。

リモコンモードを割り当てる

Scroll Wheelを回して入力ソースとモードを同時に選ぶときの組み合わせを変更することができます。

例：Scroll Wheelを回したとき、上段（入力ソース）が「TAPE 1」で下段（モード）が「AMP」の場合に、下段（モード）を「CDR」に変えることができます。

1

Customを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheelを回して「MODE」を選び、Scroll Wheelを押す

4
MODE

3

Scroll Wheelを回して「ASSGN(割り当て)」を選び、Scroll Wheelを押す

43
ASSGN

4

Scroll Wheelを回して割り当てたい入力ソースを選び、Scroll Wheelを押す

430
TAPE1

5

Scroll Wheelを回して割り当てたいモードを選び、Scroll Wheelを押す

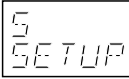
431
CDR

正しく登録された場合

439
OK

と表示された後、手順***3***の表示に戻ります。

リモコン設定をリセットする

リモコンに関する設定をすべてリセットします。

1

Customボタンを3秒以上押す

リモコンがカスタムモードになります。

2

Scroll Wheelを回して「SETUP」を選び、Scroll Wheelを押す

3

Scroll Wheelを回して「RESET」を選び、Scroll Wheelを押す

S1
RESET

4

Scroll Wheelを回して「YES」を選び、Scroll Wheelを押す

すべての設定が消去され、お買い上げ時の設定に戻ります。

リモコンIDを変更する

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のインテグラリサーチ／オンキヨー製品と区別をつけるためにリモコンのIDコードを変更することができます。

ご注意

本体側もリモコンと同じリモコンIDに設定する必要があります。詳しくは、Remote Control Setupサブメニュー（☞83ページ） をご覧ください。お買い上げ時は本体、リモコンともに「1」に設定されています。

1 **リモコンのCustomボタンを3秒以上押す**

リモコンがカスタムモードになります。

2 **Scroll Wheelを回して「SETUP」を選び、Scroll Wheelを押す**

3 **Scroll Wheelを回して「IDメニュー」を選び、Scroll Wheelを押す**

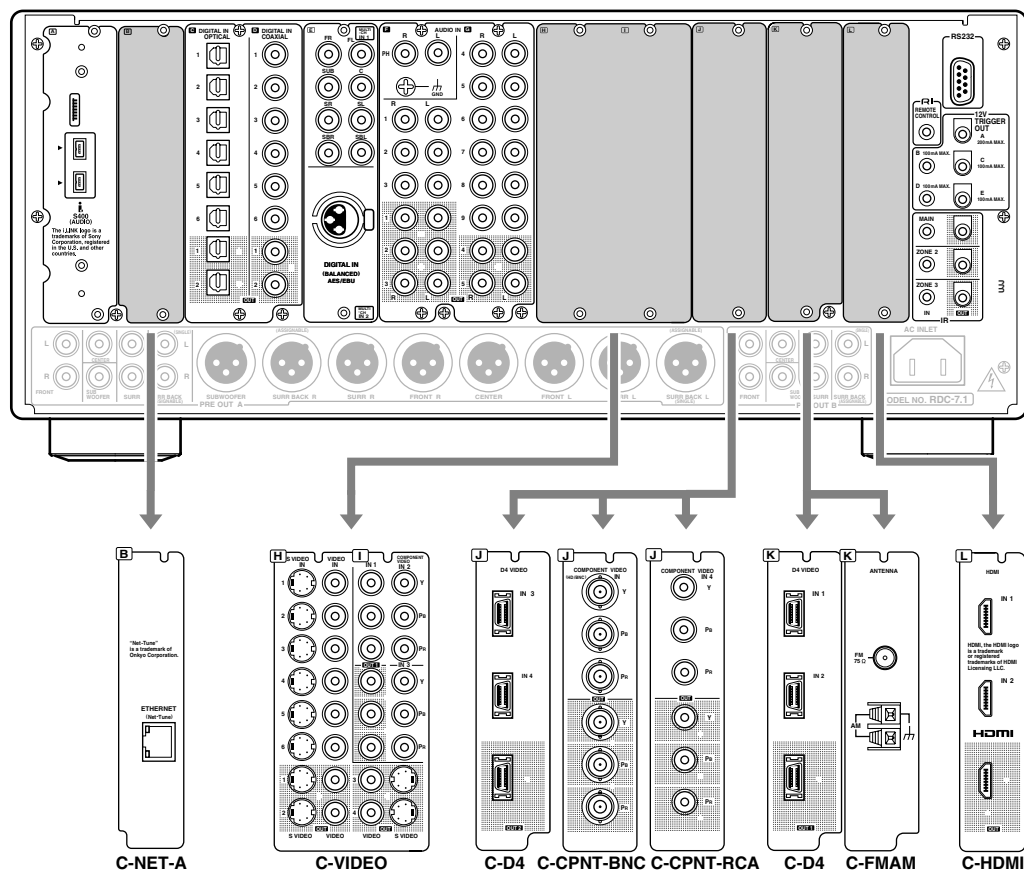
S0
ID

4 **Scroll Wheelを回して「ID 1（初期設定）～3」を選び、Scroll Wheelを押す**

本体と同じ設定にしてください。

オプションボードについて

オプションボードの種類

本機は、下記のオプションボードを用意しています。（2004年10月現在）

各々の端子に合った接続ケーブルをご用意ください。（☞28、29ページ参照）

品番：C-NET-A
ネットオーディオ用イーサネット端子を増設できます。ネットワークサーバーを接続してPC上の音楽を聞いたりインターネットラジオを楽しむことができます。
スロットBに挿入します。

品番：C-VIDEO
映像用端子です。増設される端子は下記のようになっています。
コンポジット映像入力：6、出力：4
S映像入力：6、出力：4
コンポーネント映像入力（RCA）：3
コンポーネント映像出力（RCA）：1
スロットH、Iに挿入します。

品番：C-CPNT-BNC
BNCタイプのコンポーネント映像用端子です。入力、出力ともに1系統ずつ増設できます。
スロットJに挿入します。
オプションボード「C-VIDEO」とセットで使用します。

品番：C-CPNT-RCA
RCAタイプのコンポーネント映像用端子です。入力、出力ともに1系統ずつ増設できます。
スロットJに挿入します。
オプションボード「C-VIDEO」とセットで使用します。

品番：C-FMAM
チューナー端子です。FM、AMチューナーを増設できます。
スロットKに挿入します。

品番：C-D4
D4 VIDEO端子です。入力端子を2系統、出力端子を1系統増設できます。
スロットJもしくはKに挿入します。
オプションボード「C-VIDEO」とセットで使用します。

品番：C-HDMI
HDMI端子です。入力端子を2系統と出力端子を1系統増設できます。
スロットLに挿入します。
オプションボード「C-VIDEO」とセットで使用します。

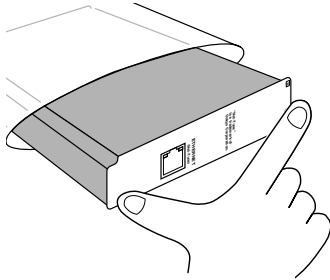
オプションボードの取り付け方

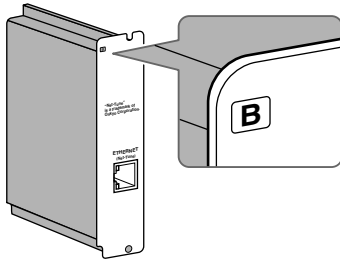
オプションボードは決められたスロットに増設してください。異なるスロットに挿入すると故障の原因になります。

1 本機の電源を切り電源コードを抜く

電源は必ず切ってください。電源を入れたままボードの抜き差しをすると、故障の原因となります。

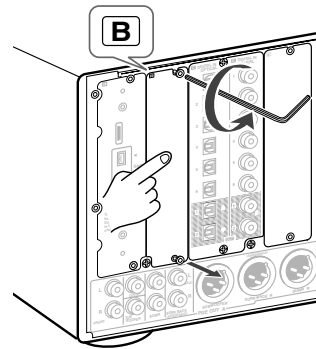
2 シールをていねいに外し、ボードを袋から取り出す

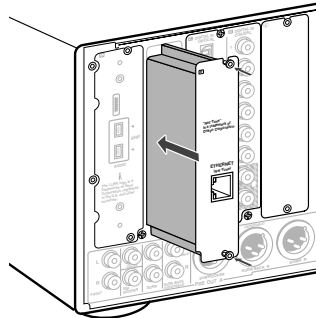
部品面や半田面、コネクタの接触部分を手で触らないで下さい。静電気で回路が故障する原因となります。ボードを持つ場合はプリント基板の外周やパネル部を持ってください。

3 ボードのパネル部のアルファベットを確認する

ボードパネル部の左上に印字されています。

4 本機背面の同じアルファベットのスロットプレートを外す

スロットの上下2ヶ所（H、Iの場合は4ケ所）の六角ネジをボードに付属の六角レンチで外し、リアパネルのサブパネルを外します。サブパネルが落ちないように指で押さえながら、少しずつネジをゆるめて外してください。ネジはあとで使用しますので、なくさないようにご注意ください。

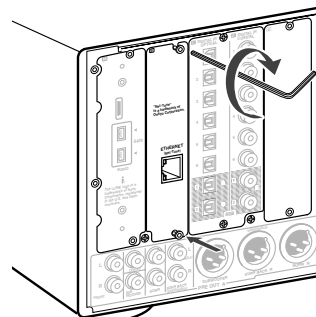
ご注意

ネジを外したときにワッシャーがついている場合は、取り付ける時にもワッシャーをかませて、とも締めしてください。

5 挿入口の上下ガイドレールに沿って、オプションボードを挿入する

コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。（パネル面が同一になるように差し込んでください。）

6 外したときの六角ネジで上下2ヶ所を、確実に固定する

オプションの取り付けネジ（2ヶ所）（H、Iの場合は4ケ所）は完全に締めてください。ネジの締め方が中途半端ですと、端子がグランドや信号線から浮いて接触不良となり、故障の原因となります。

入力信号と対応するリスニングモード

ご注意

選択できるリスニングモードは、挿入されているボードによっても異なります。

ボタン	入力信号の種類	PCM	Dolby Digital		Dolby Digital/AAC		AAC	アナログマルチチャンネル	
			マルチチャンネル(*/2)	マルチチャンネル(*/2以外)	2ch	1/0	1+1	5.1ch	7.1ch
	主なソース / リスニングモード	CD・テレビ・LD・VHS・MD・レコード・ラジオ・カセット・ケーブルテレビ・衛星放送など	DVD・デジタルケーブルテレビ/衛星放送					DVDオーディオ・スーパーオーディオCD	
Direct	Direct	●	●	●	●	●	●	●	●
Pure A	Pure Audio	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●
	Multiplex								
Surround	Dolby Pro Logic II • PLII Movie	●			●				
	Dolby Pro Logic II • PLII Music	●			●				
	Dolby Pro Logic II • PLII Game	●			●				
	Dolby Pro Logic IIx • PLIIx Movie	●	●		●			●	
	Dolby Pro Logic IIx • PLIIx Music	●	●		●			●	
	Dolby Pro Logic IIx • PLIIx Game	●			●				
	Dolby Digital/AAC		●	●					
	Dolby VS	●	●	●	●	●	●	●	
	Dolby Digital EX/Dolby EX		●					●	
	DTS								
	DTS 96/24								
	DTS-ES Discrete								
	DTS-ES Matrix								
	DTS NEO:6 (NEO:6 Matrix)		●					●	
	• NEO:6 Cinema	●			●				
	• NEO:6 Music	●			●				
	Multichannnel							●	●
	i.LINK(IEEE1394):DVD-Audio								
	i.LINK(IEEE1394):SACD								
THX	THX • THX Cinema	●	●	●	●			●	●
	• THX Ultra2 Cinema		●					●	
	• THX Music Mode		●					●	
	• THX Game Mode	●	●	●	●			●	●
	• THX SurroundEX		●					●	
◄DSP, DSP►	Mono	●	●	●	●	●	●	●	●
	All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●
	Full Mono	●	●	●	●	●	●	●	●
	Mono Movie	●	●	●	●	●	●	●	●
	Enhance	●	●	●	●	●	●	●	●
	Orchestra	●	●	●	●	●	●	●	●
	Unplugged	●	●	●	●	●	●	●	●
	Studio-Mix	●	●	●	●	●	●	●	●
	TV Logic	●	●	●	●	●	●	●	●

入力信号と対応するリスニングモード

ボタン	入力信号の種類 / 主なソース / リスニングモード	DTS				DTS 96/24					Discrete/ Matrix
		マルチチャンネル(*/2)	マルチチャンネル(*/2以外)	2/0	1/0	マルチチャンネル(*/2)	マルチチャンネル(*/2以外)	Matrix	2ch	1/0	
	主なソース	DVD・LD・CDなど									
Direct	Direct	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Pure A	Pure Audio	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Multiplex										
Surround	Dolby Pro Logic II • PLII Movie			●					●		
	Dolby Pro Logic II • PLII Music			●					●		
	Dolby Pro Logic II • PLII Game			●					●		
	Dolby Pro Logic IIx • PLIIx Movie	●		●		●			●		
	Dolby Pro Logic IIx • PLIIx Music	●		●		●			●		
	Dolby Pro Logic IIx • PLIIx Game			●					●		
	Dolby Digital/AAC										
	Dolby VS	●	●	●	●	●	●	●	●		●
	Dolby Digital EX/Dolby EX	●				●					
	DTS	●	●								●
	DTS 96/24					●	●	●			
	DTS-ES Discrete										●
	DTS-ES Matrix							●*2			●
	DTS NEO:6 (NEO:6 Matrix)	●				●*2					
	• NEO:6 Cinema			●					●*2		
	• NEO:6 Music			●					●*2		
	Multichannnel										
	i.LINK(IEEE1394):DVD-Audio										
	i.LINK(IEEE1394):SACD										
THX	THX • THX Cinema	●	●	●		●	●	●	●		●
	• THX Ultra2 Cinema	●				●		●			●
	• THX Music Mode	●				●		●			●
	• THX Game Mode	●	●	●		●	●	●	●		●
	• THX SurroundEX	●				●					
◄DSP, DSP►	Mono	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	All Ch Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Full Mono	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Mono Movie	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Enhance	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Orchestra	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Unplugged	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	Studio-Mix	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	TV Logic	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

*2 NEO:6-96k

入力信号と対応するリスニングモード

ボタン	入力信号の種類	i.LINK (IEEE1394):DVD-Audio						i.LINK (IEEE1394):SACD	
		マルチチャンネル(*/2)	マルチチャンネル(*/2以外)	2/0	1/0	1+1	176.4/192 kHz	マルチチャンネル(3/2)	2/0
	主なソース / リスニングモード	DVDオーディオ						スーパーオーディオCD	
Direct	Direct	●	●	●	●	●	●	●	●
Pure A	Pure Audio	●	●	●	●	●	●	●	●
Stereo	Stereo	●	●	●	●	●	●	●	●
	Multiplex					●			
Surround	Dolby Pro Logic II • PLII Movie			●					●
	• PLII Music			●					●
	• PLII Game			●					●
	Dolby Pro Logic IIx • PLIIx Movie	●		●				●	●
	• PLIIx Music	●		●				●	●
	• PLIIx Game			●					●
	Dolby Digital/AAC								
	Dolby VS	●	●	●	●	●		●	●
	Dolby Digital EX/Dolby EX	●						●	
	DTS								
	DTS 96/24								
	DTS-ES Discrete								
	DTS-ES Matrix								
	DTS NEO:6 (NEO:6 Matrix)	●						●	
	• NEO:6 Cinema			●					●
	• NEO:6 Music			●					●
	Multichannnel								
	i.LINK(IEEE1394):DVD-Audio	●	●						
	i.LINK(IEEE1394):SACD							●	
THX	THX • THX Cinema	●	●	●				●	●
	• THX Ultra2 Cinema	●						●	
	• THX Music Mode	●						●	
	• THX Game Mode	●	●	●				●	●
	• THX SurroundEX	●						●	
◄ DSP, DSP ►	Mono	●	●	●	●	●		●	●
	All Ch Stereo	●	●	●	●	●		●	●
	Full Mono	●	●	●	●	●		●	●
	Mono Movie	●	●	●	●	●		●	●
	Enhance	●	●	●	●	●		●	●
	Orchestra	●	●	●	●	●		●	●
	Unplugged	●	●	●	●	●		●	●
	Studio-Mix	●	●	●	●	●		●	●
	TV Logic	●	●	●	●	●		●	●

困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページです。

電源

電源が入らない

- 電源プラグが壁コンセントから抜けていないか確認してください。また、パワーコードのもう一方の側も本機のAC INLETから外れていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはサービスセンターにご連絡ください。

本体のStandbyインジケーターが消えない

- ゾーン2やゾーン3で使用していると考えられます。使用しない場合は、ZONE 2 Off、ZONE 3 Offにしてください。（66）

音声

音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しくパワーアンプに接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部に触れているか確認してください。また、本機とパワーアンプの接続も確認してください。（25-27）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（50）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的に0〜100まで調整できます。（50）
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMutingボタンを押して解除してください。（52）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（52）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- DVDディスクによっては、メニューから音声フォーマットを選ぶ必要があります。
- 音声信号の設定はされていますか。Audio SELボタンで音声を選択してください。（55）
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプが必要です。
- ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。
- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」および「Input Setup」を行ってください。（83〜85、88〜90）

フロントスピーカーからしか音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」になっているとフロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。
- リスニングモードが「Direct」「Pure Audio」になっているとフロントスピーカーからしか音が出ません。
- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」から「Speaker Configuration Setup」サブメニューを行ってください。（83、84）

センタースピーカーからしか音が出ない

- TVやAM放送などモノラル音源を再生するときにサラウンドモードをPL II/IIx MovieまたはPL II/IIx Musicにするとセンタースピーカーに音が集中します。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」から「Speaker Configuration Setup」サブメニューを行ってください。（83、84）

サラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」「Direct」「Pure Audio」のときはサラウンドスピーカーから音が出ません。
- 再生するソースやリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。違和感を感じるときは、他のリスニングモードを選んでください。
- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」から「Speaker Configuration Setup」サブメニューを行ってください。（83、84）

センタースピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」「Direct」「Pure Audio」のときはセンタースピーカーから音が出ません。
- リスニングモードが、「Mono」のときはセンタースピーカーから音が出ない場合もあります。
- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」から「Speaker Configuration Setup」サブメニューを行ってください。（83、84）

サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- リスニングモードによってはサラウンドバックスピーカーから音が出ません。
- セットアップメニューの「Listening Mode Setup」に「SB Mode（5ch）」サブメニューの項目がある場合、設定が「Off」になっていないか確認してください。（96、98〜102）
- 再生するソースによっては音が出にくい場合があります。
- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」から「Speaker Configuration Setup」サブメニューを行ってください。（83、84）

サブウーファーから音が出ない

- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。
- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」から「Speaker Configuration Setup」サブメニューを行ってください。（83、84）

希望する信号フォーマットで音声出力ができない

- 音声信号の設定の確認を行ってください。再生する信号によって「Auto」、「Multich」、「Analog」、「i.LINK」を選択します。
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- DVDディスクによっては、メニューから音声フォーマットを選ぶ必要があります。
- 入力される信号によっては選択できないリスニングモードがあります。（132〜134）

多重音声の言語を切り換えたい

- AACの音声多重信号はリモコンの◀または▶カーソルボタンで主音声と副音声を切り換えます。

DTS-ES Discrete/Matrix、THX Surround EXが選択できない

- サラウンドバックスピーカーを接続していないとき、またはZONE 2、ZONE 3として使用しているときは選択できません。
- セットアップメニューの「Listening Mode Setup」に「SB Mode（5ch）」サブメニューの項目がある場合、設定が「Off」になっていないか確認してください。（96、98〜102、105）

6.1チャンネル/7.1チャンネル再生にならない

- サラウンドバックスピーカーを接続していないとき、またはZONE 2、ZONE 3として使用しているときは6.1チャンネル再生、7.1チャンネル再生はできません。
- セットアップメニューの「Listening Mode Setup」に「SB Mode（5ch）」サブメニューの項目がある場合、設定が「Off」になっていないか確認してください。（96、98〜102、105）

困ったときは

音量調整が99以下で終わる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。（55）

マルチチャンネル音声が出力されない

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- マルチチャンネル入力が入力ソースに正しく割り当てられているか確認してください。（62、89）
- 音声信号の種類を「Multich」にしてください。（55）

DTS信号について

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデーターに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデーターとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

映像

映像が出ない/乱れる

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- セットアップメニューの「Input Setup」メニューから「Video Assign」サブメニューを行ってください。（90）
- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- Pure Audioになっていると映像は出ません。（56）
- ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、一部のプロジェクターやテレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなる場合があります。アップコンバート機能を使用せず、VIDEO端子またはS VIDEO端子接続を行ってください。

OSD画面表示が出ない／位置がおかしい

- セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」メニューから「Video Output Assign」サブメニューを行ってください。（87）
- ご使用のテレビなどのモニター側の設定を確認してください。
- セットアップメニューの「Preference」メニューから「OSD Setup」サブメニューを行ってください。（111）

ＦM/AM放送に関して

放送に雑音が入る/FMステレオ放送のとき、サーというノイズが多い/オートプリセットで放送局が呼び出せない（FM）/“FM ST”表示が完全に点灯しない

- アンテナの接続をもう一度確認してください。（45）
- アンテナの位置を変えてみてください。
- テレビやコンピューターから離してください。
- 近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。
- 電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。
- ＡM受信時、リモコンを操作すると雑音が入る場合があります。
- Tuning ModeボタンでFMモードをモノラルに変更（AUTO表示を消灯）してみてください。（60）
- それでも電波が悪い時は市販の屋外アンテナをお薦めします。

停電になったり、電源プラグを抜いたときは

- メモリーは通常2週間は保持されます。プリセットチャンネルが消えてしまった場合はプリセットを再度行ってください。

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（＋/－）が正しく入っているか確認してください。
- 電池を3本とも新しいものと交換してみてください。
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（116）
- 他社製品の仕様により、記憶しているリモコンコードでは、一部の操作が働かない場合があります。
- 本機とリモコンのリモコンIDが合っているか確認してください。（83、129）

他機器の操作ができない

- インテグラリサーチ/オンキヨー製他機器とRIケーブル、オーディオ用ピンコードが正しく接続されているか確認してください。（RIケーブルだけでは連動しません。）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（16、116、118、119）

リモコンの学習操作ができない

- リモコン送信部が正しく向き合っていることを確認してください。
- 学習できないリモコンを学習させようとしていませんか？操作を転送できないもの、1つのボタンで複数の指示を出すリモコンは学習できないことがあります。

録音

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。
- 接続した機器の出力設定を確認してください。セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」メニューから「Audio Output Assign」および「Video Output Assign」サブメニューで「Rec Out」の設定をしてください。（67、86、87）

ZONE 2/ZONE 3

電源が切れる

- スリープタイマーが働いていませんか。本体でスリープタイマーを働かせると、ZONE 2/3でもスリープタイマーが働きます。ZONE 2/3 だけスリープタイマーを設定するには65ページをご覧ください。

音が出ない

- ゾーン2/3と録音は同じ回路を使用しているため、同時に使用できません。出力設定を確認してください。セットアップメニューの「Speaker/Output Setup」メニューから「Audio Output Assign」および「Video Output Assign」サブメニューで「Zone 2 Out」もしくは「Zone 3 Out」の設定をしてください。（64、65、86、87）

インターネットラジオ

インターネットラジオもミュージックサーバー機能も使用できない

- ルータのLAN側ポートと本機の接続を確認してください。
- モデムとルータが正しく接続されているか確認してください。また、電源が入っているか確かめてください。
- Network Setupが正しく行われているか確認してください。

Music Serverを使用しているときに再生音が途切れる

- パソコンのメモリーを増やしてください。70ページの「必要なシステム」に対応しているか、お確かめください。
- パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。このような時はパソコンをより高性能なものに変えるか、不要なアプリケーションソフトを終了してください。または、Net-Tune Central専用のサーバーPCを用意することをおすすめします。
- 本機でWAVファイルを複数台で再生する場合は、ネットワークの負荷オーバーで再生音が途切れる場合があります。この場合はNet Audio専用にLANを敷設して一般のLAN回線と分けたり、ネットワークトラフィックを改善するスイッチングHUBやルータを追加することが問題の解決になることがあります。

インターネットラジオサイト（XiVA internet Radio Server）からステーションリストが取得できない

- 時間を置いて再度アクセスしてください。

Serverを選択したが再生しない。あるいは、つながらない。

- パソコンを立ち上げ､Net-Tune Centralを起動させてください。
- パソコンにMP3、WMA、WAVフォーマットの音楽ファイルを作り、Net-Tune CentralでPCの音楽ファイルのリストを作成してください。
- 本機のコンセントを抜いて、再度電源を入れてください。それでも改善しない場合は、Net-Tune Centralサーバーのパソコンを再起動してみてください。
- 「Clientサブメニュー」の「c. NTSP Port」でNet-Tune Centralと同じ数字にしてください。

アルバムが選択できない

- Net-Tune Centralの音楽ファイルリストにアルバム名をつけてください。

アーティスト名で選択できない

- Net-Tune Centralの音楽ファイルリストにアーティスト名をつけてください。

ジャンルが選択できない

- Net-Tune Centralの音楽ファイルリストにジャンル名をつけてください。

プレイリストが選択できない

- Net-Tune Centralにプレイリストを作ってください。

その他、オンキヨーのホームページにNET-TUNEに関するFAQが掲載されていますのでご参照ください。

その他

ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える

- ヘッドホン接続前のリスニングモードによって接続後のリスニングモードは異なります。（58）

設定ができない

- 現在選ばれている入力がNet-Audioの場合、設定できないことがあります。

音響設定ができない

- リスニングモードによっては、設定できない場合があります。

表示が出ない

- Pure Audioになっていると表示が消えます。

■エラーメッセージ一覧

メッセージ	意味
“Not available with Headphones use”	ヘッドホンが接続されているため、操作できません。
“Not available in this Sp Config”	現在のスピーカー設定状況では働きません。
“Only available with Dolby D”	Dolby Digital以外の設定はできません。
“Not available with this signal”	現在の入力ソースでは、リスニングモードが選べません。
“Not available with Muting”	ミューティング機能が働いているので操作できません。
“Not available in this Listening Mode”	現在のリスニングモードでは働きません。
“Not available with NET AUDIO use”	セレクターがAudioのため、操作できません。
“Not available with Dolby Headphone Off”	Dolby Headphone機能がOFFのため、操作できません。
“Not available with Dolby Headphone On”	Dolby Headphone機能がONのため、操作できません。
“Not available with zone2 out in Line out”	1-8.f. Zone2 OutがLine Out設定のため、操作できません。
“Not available with zone3 out in Line out”	1-8.f. Zone3 OutがLine Out設定のため、操作できません。

メモリー保持について
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機のコンセントを抜いた状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには
電源を入れた状態でVideo 1 ボタンを押したままStandby/Onボタンを押してください。
表示部に「CLEAR」が表示され、スタンバイ状態になります。

主な仕様

総合

電源・電圧：AC 100V、50/60Hz
消費電力：75W
待機時電力：3.9W
最大外形寸法： 450（幅）x197.3（高さ）x 477.1（奥行き）mm
質量： 20.7 kg

入力：
●音声
Multichannel（7.1ch入力）：1
Phono（MM）：1
ライン入力：9（AUDIO IN、割り当て可：9）
デジタル入力（同軸）：6（割り当て可）
デジタル入力（光）：7（割り当て可：6）
デジタル入力（バランス、AES/EBU）：1（割り当て可）

●映像（オプション）
コンポジット入力：7（割り当て可：6）
S-Video入力：7（割り当て可：6）
コンポーネント映像（RCA）入力：3～4（オプション）
コンポーネント映像（BNC）入力：1（オプション）
コンポーネント映像（D4）入力：2～4（オプション）

●音声および映像
HDMI入力：2（オプション）

●その他
IR入力（ミニジャック）：3（Main、Zone 2、Zone 3）

出力：
●音声
スピーカー A：Front L/R、Center、Surround L/R、Surround Back L/R
スピーカー B：Front L/R、Center、Surround L/R、Surround Back L/RもしくはPowered Zone 2 L/R
プリアウト A：Front L/R、Center、Surround L/R、Surround Back L/R、Subwoofer
プリアウト B：Front L/R、Center、Surround L/R、Surround Back L/R、Subwoofer
ヘッドホン出力：1
ライン出力：5（Recout、Zone 2 out、Zone 3 out割り当て時）
デジタル出力（同軸）：2（Recout、Zone 2 out、Zone 3 out割り当て時）
デジタル出力（光）：2（Recout、Zone 2 out、Zone 3 out割り当て時）

●映像（オプション）
コンポジット映像出力：4 （Monitor out A/B、Recout、Zone 2 out and Zone 3 out割り当て時）
S-ビデオ映像出力：4 （Monitor out A/B and Recout割り当て時）
コンポーネント映像（RCA）出力：1～2（オプション）
コンポーネント映像（BNC）出力：1（オプション）
コンポーネント映像（D4）出力：1～2（オプション）

●音声および映像（オプション）
HDMI 出力：1

●その他
IR 出力（ミニジャック）：3（Main、Zone 2、Zone 3）
12V トリガー出力（ミニジャック）：5（A、B、C、D、E）

入出力：
●その他
i. LINK（AUDIO）（4pin）：2
Ethernet（Net-Tune）：1（オプション）
RI（ミニジャック）：1
RS232：1
FMアンテナ端子：1（75Ωアンバランスド）（オプション）
AMアンテナ端子：1
電源入力（AC INLET）：1（IECタイプ）

アンプ部

全高調波歪率：0.05%（1V rms出力時）
入力感度/インピーダンス：
●音声
AUDIO IN 1-9：200mV、50kΩ
PHONO MM：2.5mV、50kΩ
MULTI IN FR/FL/C/SR/SL/SBR/SBL：200mV、50kΩ
MULTI IN SUB：36mV、50kΩ
DIGITAL IN COAXIAL 1-6：0.5Vp-p、75Ω
DIGITAL IN (BALANCED) AES/EBU：1.3Vp-p、110Ω

●映像 （DVD、VIDEO 1-5）（オプション）
コンポジット：1Vp-p、75Ω
S-ビデオ、Y信号：1Vp-p、75Ω
S-ビデオ、C信号：0.28Vp-p、75Ω

●映像 （COMPONENT VIDEO 1-4、D4 VIDEO 1/2）（オプション）
Y信号：1Vp-p、75Ω
P_B/C_B、P_R/C_R：0.7Vp-p、75Ω

出力電圧/インピーダンス：
●音声
AUDIO 1-5：200mV、470Ω（Tape 1/2/Video 1/2/3 Rec Out割り当て時）
100mV、470Ω（Zone 2/3 Out （固定））
1V、470Ω（Zone 2/3 Out （可変））
(RCA) PRE OUT A/B：1V、470Ω（Front L/R、CENTER、SURR L/R、SURR BACKもしくはZone 2 L/R、SUBWOOFER）
(XLR) PRE OUT A：2V、470Ω（Front L/R、CENTER、SURR L/R、SURR BACKもしくはZone 2 L/R、SUBWOOFER）
●映像（オプション）
VIDEO 1-4 （コンポジット映像）：
1Vp-p、75Ω（Monitor Out A/B、Video 1/2/3 Rec Out、Zone 2/3 Out割り当て時）
VIDEO 1-4 （S-映像、Y信号）：
1Vp-p、75Ω（Monitor Out A/B、Video 1/2/3 Rec Out割り当て時）
VIDEO 1-4 （S-映像、C信号）：
0.28Vp-p、75Ω（Monitor Out A/B、Video 1/2/3 Rec Out割り当て時）
COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO（Y信号）：
1Vp-p、75Ω
COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO（PB/CB、PR/CR）：
0.7Vp-p、75Ω

Phono最大許容入力：
120mV RMS. at 1,000Hz、0.5% THD

周波数特性：
音声　5Hz～100kHz:
+1/－3dB（CD、Directモード）
映像　10Hz～50MHz：+1/－3dB（コンポーネント）
RIAA偏差：±0.8dB（20Hz～20kHz）
トーンコントロール最大変化量：
±12dB、50Hz（Bass）
±12dB、1kHz（Mid）
±12dB、20kHz（Treble）
SN比 （Directモード）：
80dB （PHONO、IHF A、 5mV入力）
95dB （LINE、 IHF A、 0.5V input）
ミューティング：
セットアップメニューによる

チューナー部（オプション）

●FM
受信範囲：76MHz～90.0MHｚ、 100kHzステップ
受信感度：
モノラル　11.2dBf、 1.0uV （75ΩIHF）
ステレオ　17.2dBf、 2.0uV （75ΩIHF）
50 dB Quieting Sensitivity：
モノラル　17.2dBf、 2.0uV （75Ω）
ステレオ　37.2dBf、 20.0uV （75Ω）
キャプチャレシオ： 2.0dB
イメージ妨害比：40dB
IF 妨害比： 90dB
SN比：
モノラル 76dB、IHF
ステレオ 70dB、IHF
2信号選択度：モノラル 55dB IHF
Selectivity： 50dB DIN
AM抑圧比： 50dB
ひずみ率：
モノラル 0.2%
ステレオ 0.3%
周波数特性： 30～15kHz、+/－1.0dB
ステレオセパレーション：
45dB（1kHz）
30dB（100Hz～10kHz）
ミューティングレベル： 17.2dBf
アンテナインピーダンス： 75Ω

●AM
受信範囲： 522 kHz～1629kHz、9kHzステップ
実用感度：30uV
イメージ妨害比： 40dB
IF妨害比： 40dB
SN比： 40dB
ひずみ率： 0.7%

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）

ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）

ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

ドルビーデジタルEX（Dolby Digital EX）

映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジックII（Dolby Pro Logic II）

ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。PCM96kHz以外のあらゆるステレオ音源を5.1チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モード、ゲーム機などに適した「ゲーム」モードがあります。

ドルビープロロジックIIx（Dolby Pro Logic IIx）

ドルビープロロジックIIをさらに改良したマトリックスデコード技術。PCM96kHz以外のあらゆるステレオ音源を6.1チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モード、ゲーム機などに適した「ゲーム」モードがあります。

DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）

米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)

従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート(DTS-ES Discrete)

5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

DTS-ES　マトリックス(DTS-ES Matrix)

映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

DTS96/24

DTS96/24フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1チャンネル再生するDTSシステム。サンプリング周波数96kHz、量子化ビット数24ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

NEO:6

DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

MPEG-2 AAC

AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS）、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。

従来のＭＰＥＧ音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX

THX社が設立した品質基準で、映画館でも家庭でも、制作者が意図したとおりのサラウンド効果を忠実に再現することを目的とした規格に準拠したモードです。

THX技術開発により、映画館よりも小さな家庭用ホームシアターで再生しても変わらない音響効果を再現できるように映画館用サウンドから家庭用音楽への変換時に起こる空間のエラーを修正しています。

THX Cinemaモード、THX SurroundEXモードがあります。

THX Cinemaは映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。

THX Surround EXはドルビーラボラトリーズとTHX社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタルEXの技術で記録。従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。

THXウルトラ2（THX Ultra 2）

THXウルトラ2は、従来の5.1ch音声の映画や音楽に対し、より大きなサラウンド感覚で再生できるよう考えられた7.1ch再生システムです。サラウンドチャンネルはリスナーの両横方向に設置された2つのダイポールスピーカー（左右サラウンド）とリスナー後方で近接して設置された2つのモノポールスピーカー（左右後方サラウンド）の4個のスピーカーでの再生が基本となっています。従来の5.1chソースに対して、より拡がり感のあるサラウンド音場を提供するために、LS/RSの2チャンネルサラウンド信号に位相処理等を施して4チャンネルサラウンド信号を創り出すASA（Advanced Speaker Array）と、低域ルームゲインの影響を補正するためのBGC（Boundary Gain Compensation）の2つの処理が追加されました。また、再生モードも映画再生に適したTHX Ultara2 Cinemaモードと、マルチチャンネル音楽の再生に適したTHX Musicモード、ゲームソフトに適したTHX Gamesモードの3つが用意されています。

音声

アナログ

一般的な再生機器に装備されているL/R（白/赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル

デジタル端子は一般的に、CDプレーヤー、DVDプレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルやDTSなどのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル

DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

同軸（COAXIAL）デジタル

DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でRCAタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。
音質は光デジタルと同等です。

サンプリング周波数

アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1 kHzは1秒間に44100回、96 kHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ

信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）

ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1chサラウンド

視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

6.1chサラウンド

視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー1つで6ch（6チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この7本のスピーカーを使って再生することを6.1chサラウンドと言います。

映像

コンポジット

映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

Ｓビデオ

輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

コンポーネント

輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

D端子

ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より3年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

▶ お名前
▶ お電話番号
▶ ご住所
▶ 製品名　RDC-7.1
▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター 受付 9:30〜17:30（土日祝、会社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊WEB ：http://www.jp.onkyo. com/support/ ＊TEL ：ナビダイヤル 0570-01-8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または072-831-8111（携帯電話、PHS、IP電話から）へどうぞ。 ＊FAX ：072-831-8124 ＊郵便 ：〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1 オンキヨー株式会社 カスタマーセンター

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページ。 →http://www.jp.onkyo.com/

快適なオーディオライフをサポートするセレクトショップ。 →http://www.e-onkyo.com/

修 理 窓 口 修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障でお困りの場合は、下記へご相談ください。

東京サービスセンター TEL 03-3861-8121 FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3 ハマスエビル	大阪サービスセンター TEL 072-831-8080 FAX 072-831-8124 〒572-8540 大阪府寝屋川市日新町2-1

2004年7月現在　お客様相ご談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。
（http://www.jp.onkyo.com/support/で最新の名称、所在地、電話番号をご覧いただけます）

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　(　　)

メモ：

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル ☎ 0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または ☎ 072(831)8111（携帯電話、PHSから）

Printed in Japan
D0509-1.1

SN 29343695A